

令和4年度

教育委員会事務の点検・評価
報告書
(令和3年度事業分)

令和4年12月
黒部市教育委員会

目 次

I	令和4年度教育委員会事務点検・評価実施方針	
1	趣旨	1
2	点検・評価の対象	1
3	点検・評価の方法	1
II	教育委員会の運営状況	
1	教育委員会及び行政組織	3
2	会議開催経過等	4
3	令和3年度黒部市教育の方針	6-11
III	点検・評価の結果（個別事業シート一覧）	12
	（個別事業シート）	
	（1）人間性の基礎を培う家庭教育・地域教育	
	①家庭教育	13
	②地域教育	15
	（2）心身ともに健康で学ぶ意欲を育てる学校教育	
	①幼稚園、学校等の円滑な運営	16
	②確かな学力	22
	③国際化教育	26
	④特別支援教育	30
	⑤心の教育	31
	⑥読書活動	33
	⑦キャリア教育	34
	⑧健康・体力	35
	⑨安全	39
	⑩教育環境の整備	42
	（3）生きがいと心身の健康を支援する社会教育及びスポーツ	
	①青少年の健全育成	44
	②女性活動事業の推進	45
	③生涯学習機会の提供	47
	④市民文化活動の推進	52
	⑤文化遺産及び自然遺産の保護活用	55
	⑥「市民ひとり1スポーツ」の推進	58
	⑦スポーツ施設の整備・充実	61
	⑧競技力の向上	62
	⑨スポーツを通じた地域振興	65
	⑩健やかな子どもの育成とスポーツの充実	68
IV	学識経験者の意見	70

I 令和4年度教育委員会事務点検・評価実施方針

1 趣旨

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条に基づき、効果的な教育行政の推進に資するとともに、市民への説明責任を果たしていくため、黒部市教育委員会の事務の管理及び執行の状況について点検及び評価（以下「点検・評価」という。）を実施する。

2 点検・評価の対象

令和3年度中に教育委員会で実施した事務事業

3 点検・評価の方法

(1) 自己点検・評価基準

「令和3年度黒部市教育の方針」に掲げる施策の分野に基づき、個別事業毎に点検・評価シートを作成し、次の5段階による総合評価を行う。

評価	評価の基準等	評価の目安
AA	目標を十分に達成し、期待以上の成果が得られた。	100% 以上
A	目標を概ね達成し、ほぼ期待どおりの成果が得られた。	80 ~100%
B	目標を半分以上達成し、ある程度の成果が得られた。	60 ~ 80%
C	目標をあまり達成できず、成果が少なかった。	30 ~ 60%
D	目標をほとんど達成できず、成果がなかった。	0 ~ 30%

(2) 教育振興協議会への諮問

教育委員会が自己点検・評価したものについて、市民の各層から構成された委員（公募含む）9人による黒部市教育振興協議会において、客観的な視点で検討する。

◇黒部市教育振興協議会（任期：令和4年4月1日～令和6年3月31日）

役職	氏名	選出団体等
会長	漆間 中郎	黒部市自治振興会連絡協議会
副会長	白川 正秋	黒部市体育協会
委員	米屋 祐治	黒部商工会議所
委員	山田 美穂子	黒部市農業協同組合
委員	野村 康幸	黒部市社会教育委員会
委員	島 匡宏	黒部市PTA連絡協議会
委員	齊藤 誠	黒部市小学校長会
委員	松島 悟	黒部市中学校長会
委員	平 正夫	公募委員

(3) 学識経験者の知見の活用

黒部市の教育に関し学識経験を有する方から、教育委員会の自己点検・評価に対する意見を聴き、報告書に記載する。（巻末に記載）

(4) 議会への報告及び公表

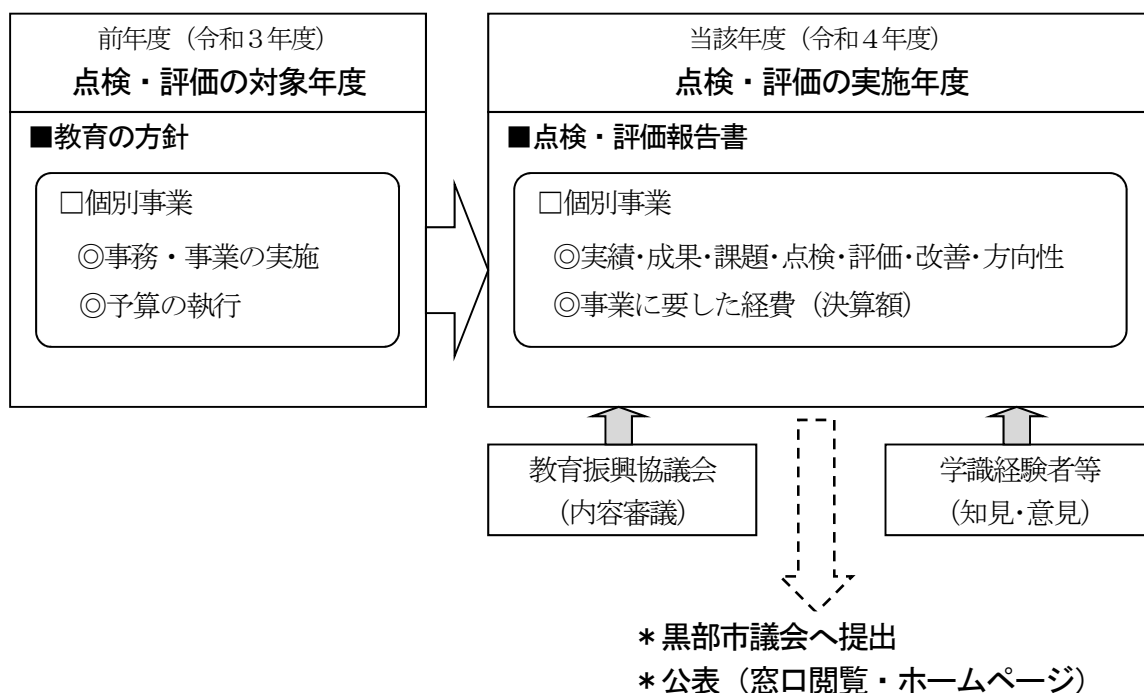
点検・評価の結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、教育委員会等窓口での閲覧及び黒部市のホームページへの掲載等により広く市民に公表する。

(5) スケジュール

- 5月23日 点検・評価シート各課照会（原稿作成期間）
- 7月14日 点検・評価シート提出期限（自己点検・評価原案作成期間）
- 8月26日 教育委員会8月定例会（諮問内容についての報告）
- 8月30日 教育振興協議会（教育委員会からの諮問・審査）
- 9月13日 教育振興協議会（審査・教育委員会へ答申）
- 9月29日 教育委員会9月定例会（内容の決定）
- 11月30日 学識経験者等の意見追加（報告書完成）
- 12月市議会 黒部市議会（定例会）に報告、公表（窓口閲覧、ホームページ等）

(6) 「教育の方針」と「点検・評価」の関係

教育委員会事務の点検・評価は、各年度の「教育の方針」に基づき実施された個別事業を対象とし、個別事業の課題や今後の方向と合わせ、事業に要した経費の決算額を反映し作成する。



II 教育委員会の運営状況

1 教育委員会及び行政組織

(1) 教育委員会 (令和4年3月31日現在)

職名	氏名	年齢	性別	任期	備考
教育長	中 義 文	65	男	R元. 5.10～R 4. 5. 9	
教育長職務代理者	雪 山 俊 隆	48	男	H30. 5.10～R 4. 5. 9	保護者
委員	泉 博 美	65	女	R元. 5.10～R 5. 5. 9	
委員	紙 谷 真 紀	51	女	R 2. 5.10～R 6. 5. 9	
委員	浅 野 詠 子	67	女	R 3. 5.10～R 7. 5. 9	

(2) 行政組織 (教育委員会事務局)

(令和4年3月31日現在)

■教育長 <input type="checkbox"/> 教育部長	<input checked="" type="checkbox"/> 学校教育課 <input type="checkbox"/> 学校教育班	<input type="checkbox"/> 庶務係 <input type="checkbox"/> 施設係 ・ 9小学校 (生地、たかせ、石田、村椿、中央 桜井、荻生、若栗、宇奈月) ・ 2中学校 (清明、明峰)
	<input checked="" type="checkbox"/> 生涯学習文化課 <input type="checkbox"/> ジオパーク推進班 <input type="checkbox"/> 交流センター企画運営班	<input type="checkbox"/> 生涯学習係 <input type="checkbox"/> 女性青少年係 <input type="checkbox"/> 文化振興係 ・ 吉田科学館 ・ 美術館 ・ 歴史民俗資料館 ・ 生涯学習文化スクエア ・ 地区公民館(16館) ・ ふれあい交流館 ・ 働く婦人の家 ・ 勤労青少年ホーム ・ 郷土文化保存伝習館 ・ 地域観光ギャラリー展示空間
	<input checked="" type="checkbox"/> スポーツ課	<input type="checkbox"/> スポーツ推進係 <input type="checkbox"/> フルマラソン係 ・ 総合体育センター ・ 宇奈月体育センター ・ 健康スポーツプラザ ・ 林業者等スポーツ研修館 ・ 錬成館
	<input checked="" type="checkbox"/> 図書館	<input type="checkbox"/> 奉仕係
	<input checked="" type="checkbox"/> 学校給食センター	<input type="checkbox"/> 庶務係
	<input checked="" type="checkbox"/> 教育センター	
	<input type="checkbox"/> (市民福祉部長)	<input checked="" type="checkbox"/> こども支援課 <input type="checkbox"/> 保育所・幼稚園係 ・ さくら幼稚園、生地こども園、石田こども園

2 会議開催経過等（令和3年4月1日～令和4年3月31日）

(1) 教育委員会議

- ①定例会12回（毎月）
- ②臨時会 1回（5月）

	会議名	開催日時		会議名	開催日時
1	4月定例会	令和3年4月27日(水)	8	10月定例会	令和3年10月28日(金)
2	5月臨時会	令和3年5月10日(月)	9	11月定例会	令和3年11月24日(木)
3	5月定例会	令和3年5月25日(水)	10	12月定例会	令和3年12月27日(火)
4	6月定例会	令和3年6月28日(火)	11	1月定例会	令和4年1月27日(金)
5	7月定例会	令和3年7月28日(木)	12	2月定例会	令和4年2月24日(金)
6	8月定例会	令和3年8月26日(金)	13	3月定例会	令和4年3月28日(火)
7	9月定例会	令和3年9月29日(木)			

(2) 審議事項等

① 議案 16件（原案可決）

件	会議名	議案名（※議案番号は暦年）
1	4月定例会	議案第14号 黒部市社会教育委員の委嘱
2		議案第15号 黒部市図書館協議会委員の任命
3	7月定例会	議案第16号 令和4年度使用黒部市中学校用教科用図書の採択
4	10月定例会	議案第17号 令和3年度教育委員会事務の点検・評価（令和2年度事業分）
5	1月定例会	議案第1号 令和3年度黒部市教育文化表彰被表彰者（朝倉豊次教育希望賞）の決定
6		議案第2号 令和3年度黒部市教育文化表彰被表彰者（優良教員）の決定
7		議案第3号 令和3年度黒部市教育文化表彰被表彰者（優良生徒）の決定
8		議案第4号 令和3年度黒部市教育文化表彰被表彰者（スポーツ）の決定
9		議案第5号 令和3年度黒部市教育文化表彰被表彰者（社会教育）の決定
10		議案第6号 令和3年度黒部市伝承芸能・伝承技術士の認定
11	2月定例会	議案第7号 令和4年度黒部市教育の方針
12	3月定例会	議案第8号 黒部市奨学資金規則の一部改正
13		議案第9号 黒部市学校給食センター規則の一部改正
14		議案第10号 黒部市ふれあい交流館条例施行規則等の一部改正
15		議案第11号 黒部市学校給食事務取扱規程の一部改正
16		議案第12号 黒部市スクールバス等運行管理規程の一部改正

② 報告 41件

件	会議名	件名
1～12	毎月	課等の事業報告(経過・予定)
13	4月定例会	黒部市立公民館長の任命
14		黒部市教育支援委員会委員の委嘱
15		黒部市学校評議員の委嘱
16		令和3年度一般会計4月補正予算(教育委員会関係)の概要
17	5月定例会	黒部市教育振興協議会委員の委嘱
18		黒部国際化教育推進協議会委員の委嘱
19		黒部市生涯学習文化スクエア運営委員会委員の委嘱
20		令和3年度一般会計6月補正予算(教育委員会関係)の概要
21	6月定例会	令和4年度国・県に対する重要要望事項(教育委員会関係)
22	7月定例会	黒部市議会6月定例会一般質問・答弁要旨(教育委員会関係)
23		KUROBE型地域部活動事業
24	8月定例会	令和3年度一般会計9月補正予算(教育委員会関係)の概要
25		黒部市立公民館長の任命
26	9月定例会	令和3年度教育委員会事務の点検・評価(令和2年度事業分)の諮問
27		令和4年度保育所・幼稚園・こども園等の入所受付
28		黒部市議会9月定例会において議決された教育委員会関係議案
29		黒部市議会9月定例会一般質問・答弁要旨(教育委員会関係)
30	10月定例会	令和3年度黒部市自治功労表彰及び黒部市表彰の被表彰者(教育委員会関係)
31	11月定例会	令和3年度12月補正予算(教育委員会関係)の概要
32	12月定例会	黒部市議会12月定例会において議決された教育委員会関係議案
33		黒部市議会12月定例会一般質問・答弁要旨(教育委員会関係)
34	1月定例会	令和4年度黒部市教育の方針(案)の諮問
35		令和4年度就学通知の発送及び入学予定者数
36		令和4年度学校給食費
37	2月定例会	令和4年度一般会計予算(教育委員会関係)の概要
38		令和3年度一般会計3月補正予算(教育委員会関係)の概要
39		令和4年度黒部市学校給食費
40	3月定例会	教育委員会関係例規の制定等
41		黒部市議会3月定例会一般質問・答弁要旨(教育委員会関係)

3 令和3年度黒部市教育の方針

I 人間性の基礎を培う家庭教育・地域教育

1 家庭教育

(1) 家庭の教育力の向上を図る ～学習機会の提供～

子どもの人間形成の基礎を培う家庭の教育力の向上を図るため、子育て講座等の家庭教育に関する学習機会の提供に努める。

(2) 心身ともに健康な子どもを育てる ～交流活動の機会の提供～

子どもの健康な心と体を育むため、親子や地域の人々との世代間の触れ合い・交流の機会を多くするよう努める。

(3) 明るい家庭づくりをサポートする ～子育て支援体制の整備・充実～

やすらぎのある明るい家庭づくりができるよう、子育て支援体制の整備・充実に努める。

2 地域教育

※「幼稚園」は、「こども園」を含む。以下同様。

(1) 子どもたちの社会性や実践力を育てる ～豊かな体験活動の推進～

生活する地域や環境に対する子どもたちの意識を高めながら、社会性や実践力を育成するため、郷土の伝統や文化、自然、人材を生かした社会体験や自然体験、ボランティア活動等の豊かな体験活動を地域ぐるみで推進する。

(2) 子育て支援機能を十分発揮できるようにする ～親と子の育ちの場の充実～

地域における幼児教育のセンター（親と子の育ちの場）としての役割を果たすため、保育所、幼稚園が、子育て支援機能を十分に発揮できるように努める。

II 心身ともに健康で学ぶ意欲を育てる学校教育

1 幼稚園、学校等の円滑な運営

(1) 創意工夫を生かした質の高い教育活動を推進する ～実態に応じた教育課程の編成～

幼稚園、学校において、幼児・児童・生徒や家庭・地域の実態を的確に把握し、組織的・計画的にカリキュラム・マネジメントの視点を生かした質の高い教育活動を推進する。

(2) 開かれた幼稚園、学校づくりを推進する ～学校評価等の活用と連携・協働～

園評価、学校評価を生かし、市民の信頼に応える社会に開かれた幼稚園、学校づくりを推進するため、積極的に情報発信を行い、家庭や地域との連携及び協働に努める。

(3) 相互の交流を深める ～幼児・児童・生徒への一貫した教育の推進～

保育所、幼稚園、小学校、中学校が連携し、一貫した教育を推進するため、参観や体験を通して相互の交流を深める。

2 確かな学力

(1) 資質・能力の育成と学習習慣の確立に努める ～確かな学力の育成～

① 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた指導の工夫・改善を推進する。

② 「確かな学力」の育成のために、各教科や特別活動、総合的な学習の時間において、基礎的・基本的な知識及び技能の確実な習得と思考力・判断力・表現力及び主体的に学習に取り組む態度の育成を図るとともに、

一人ひとりに応じた指導の充実に努める。

- ③ 授業と家庭学習の内容を連動させながら、課題の与え方を工夫し、学習習慣の確立に努める。
- ④ 情報モラルを身に付け、情報及び情報技術を適切かつ効果的に活用して、問題を発見・解決したり、自分の考えを形成したりしていくために必要な情報活用能力の育成に努める。

(2) 論理的な思考力や伝え合う能力を育てる ～言語活動の充実～

論理的に思考して表現する能力や、互いの考えや立場を尊重して伝え合う能力を育成するために、各教科等の特質に応じた言語活動を充実する。

(3) 1時間の授業を充実させる ～ガイダンスとカウンセリングの充実による「分かる」「できる」授業の推進～

- ① 学習のねらいと学習課題、学習活動、評価規準の整合性を図る。その上で、学習課題の提示、書いて考える活動、考えを言葉で伝え合う活動、学習の成果の確認・評価を工夫し、「分かる」「できる」授業を推進する。
- ② 集団の場面で必要な指導や援助を行うガイダンスと一人ひとりが抱える課題に個別に対応するカウンセリングの双方の指導を充実する。
- ③ 学習課題に対して指示された条件を満たして解決していこうとする意欲や能力面を意識した指導を充実する。
- ④ コンピュータや多様な情報通信ネットワークといった情報手段のほか、新聞、視聴覚教材や教育機器等、教材・教具の適切な活用を図り、児童生徒の主体的な学びの充実に努める。

(4) 児童生徒が安心して参加できる授業づくりに努める ～生徒指導の機能の充実と学習規律の確立～

- ① 教職員と児童生徒の信頼関係や児童生徒相互の人間関係づくり、自己選択や自己決定を促すという面での生徒指導の機能を生かす。
- ② 鉛筆の持ち方、情報端末やノートの使い方、返事、発言の仕方、聞き方、話し合いの仕方、学習時の姿勢等、技能面や態度面を意識した学習規律の確立に努める。

3 国際化教育

(1) 他者に配慮したコミュニケーション能力を育てる ～英会話科等と日常的な英語活動の充実～

英語による総合的なコミュニケーション能力を育成するため、英語を楽しみながら他者を理解し、自分を表現する英会話科等と日常的な英語活動の一層の充実に努める。

(2) 魅力的な教育プログラムを実施する ～英語に対する学習意欲の向上～

海外姉妹都市との連携事業や英語サマーキャンプ等、魅力的で実践的な教育プログラムを充実することにより、児童生徒の英語に対する学習意欲の向上を図る。

(3) 自他の文化を尊重し、共生する態度を育てる ～地域ぐるみによる国際化教育の推進～

日本や郷土の文化・伝統を尊重するとともに、様々な文化をもつ人々と共生する態度や資質を育てるため、地域ぐるみで国際化教育、帰国児童生徒・外国人児童生徒教育を推進する。

4 特別支援教育

(1) 教育的ニーズに応じた特別支援教育を推進する ～支援体制の充実と関係機関との連携～

- ① 特別な支援を必要とする幼児・児童・生徒に対する教育を推進するため、合理的配慮について子どもや保護者と合意形成を図るとともに、一人ひとりの能力や可能性を最大限に伸ばすための校内支援体制の充実を図る。
- ② 適応指導教室やいなか総合支援学校等の関係機関と連携を図りながら、一人ひとりの教育的ニーズに応じた指導や支援を充実する。

(2) 特別支援教育の視点を生かす ～学校運営、学年・学級経営と授業づくり～

学習の見通しをもたせる、分かりやすい言葉で短く話す、学習内容の理解を視覚的な支援を用いてサポー

トするなどの配慮を意識する。支援を必要とする子どもへのこれらの配慮は、全ての子どもに対して効果的であるという観点を十分に踏まえ、学校運営、学年・学級経営及び授業づくりに生かす。

5 心の教育

(1) 教育活動全体で「心の教育」を推進する ～豊かな人間性の育成～

- ① 児童生徒の「道徳的な判断力・心情・実践意欲と態度」を育てるために、道徳教育の要となる「特別の教科 道徳」(道徳科)の授業についての研修を一層深め、「考える道徳」「議論する道徳」の授業に向けて改善を図る。
- ② 生命を大切にし、感動する心をもった豊かな人間性を育むため、よりよい生き方を追求する道徳教育や自然に親しむ体験活動の充実を図るなど、教育活動全体を通して「心の教育」を推進する。
- ③ 情報化社会の進展に合わせ、道徳的な観点からもより一層の情報モラルの育成に努める。

(2) 心と態度を育てる ～自己有用感・人間関係を構築する力・自律心・不とう不屈の精神の育成～

- ① 幼児・児童・生徒の自己有用感を高める。
- ② 望ましい人間関係を築こうとする態度や自律心の育成を図る。
- ③ 最後までやり遂げようとする心と態度の育成を図る。

(3) いじめや不登校等を生まない、見逃さない学校(園)運営に努める ～行動の一元化とチーム支援～

- ① いじめや暴力行為、非行等の問題行動や不登校児童生徒を生まない、見逃さない環境(人的・物的)づくりと教育相談体制の整備・拡充に努める。
- ② 幼児・児童・生徒及び教職員の「自分も相手も大切にする」「差別をしない」という人権意識の高揚に取り組む。
- ③ 幼児・児童・生徒を複数の視点で見守り、「心」のサインや小さな変化を見逃さないようにするとともに、児童生徒が相談しやすく、またSOSを出しやすい環境づくりに努める。
- ④ 情報の共有と行動の一元化に向けてケース会議や学校いじめ対策組織による対策会議を計画的に開催し、チームによる支援を充実する。
- ⑤ 適応指導教室や特別支援教室の運営及び関係機関との連携を推進することにより、児童生徒の自己実現を図る。

6 読書活動

(1) 豊かな感性や創造性を育てる ～市立図書館と連携した読書活動の推進～

豊かな感性や創造性を育むため、幼児・児童・生徒が読書に親しむ環境の整備に努めるとともに、市立図書館とも連携しながら、「黒部市子ども読書活動推進計画」に基づいた活動を推進する。

7 キャリア教育

(1) 自立に向け必要な基礎となる能力を育てる ～基礎的・汎用的能力の育成～

- ① 一人ひとりの児童生徒のキャリア発達を促すよう指導・支援に努め、人間関係形成能力、自己管理能力、課題対応能力、将来設計に必要なキャリアプランニング能力等を育成する。
- ② 自己の成長や学びの足跡を記した「キャリア・パスポート」を活用するなど、学ぶことと自己の将来とのつながりを見通しながら、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を育成する。

(2) 望ましい勤労観や職業観を育てる ～体験的な活動の充実～

児童生徒一人ひとりが自己理解を深め、主体的に進路を選択できるよう中学校における「14歳の挑戦」等の体験的な活動を充実させ、望ましい勤労観や職業観の育成に努める。

8 健康・体力

(1) 健康で豊かな生活を送る習慣の定着を図る ～心身の健康づくりの推進～

- ① 健康で豊かな生活を送る習慣の定着を図るため、給食の時間、特別活動、各教科等での食育指導、学校保健活動を通して、心身の健康づくりを推進する。
- ② 新型コロナウイルスやインフルエンザ等に対する基本的な感染症対策を実践できるよう指導するとともに、学校医等の専門家と連携した保健管理体制の構築に努める。

(2) 運動に親しむ子どもを育てる ～体力の向上～

運動に親しみながら体力の向上を図るため、体育科・保健体育科の時間を核に体育的行事等の運動との関連を図った体育的諸活動の充実、家庭や地域と連携した取組を推進する。

9 安全

(1) 安全な環境をつくる ～地域ぐるみのネットワークづくりの推進～

幼稚園、学校の安全な環境づくりのため、保護者や地域住民と共に幼児・児童・生徒を守る地域ぐるみのネットワークづくりを推進する。

(2) 危険に対する判断力・対応力を育てる ～安全・防災・防犯教育の推進～

事故や災害、不審者・クマ・イノシシ対応等への幼児・児童・生徒の危険に対する的確な判断力や対応力を高めるため、安全教育（生活安全や交通安全）や防災・防犯教育を一層推進する。

10 教育環境の整備

(1) 安全・安心な環境整備に努める ～改修・改築・保守点検～

- ① 安全で安心して学習できる環境を整備するため、老朽施設の改修や改築の計画的実施に努める。
- ② 高度情報化に対応して、通信ネットワーク環境の整備、ICT機器の設備・備品の整備及び保守点検に努める。
- ③ 新型コロナウイルスやインフルエンザ等の感染防止、熱中症等への対策として、時節や状況に応じた教室内の机の配置や換気を行うとともに、空調機器を適切に活用する。

(2) 児童生徒をたくましく育てる ～適正な学校規模の実現～

児童生徒が望ましい教育環境の中でたくましく育つように、「黒部市立小中学校再編計画」に基づき、今後の児童生徒数の見通し、通学上の安全性や遠距離通学対策等を考慮しながら、保護者及び地域の理解と協力のもと、学校規模（児童生徒数、学級数）の適正化に努める。

Ⅲ 生きがいと心身の健康を支援する社会教育及びスポーツ

1 青少年の健全育成

(1) 青少年の社会性を育てる ～多様な体験活動の場の提供～

青少年の社会性を育むため、地域において多様な体験活動の場を提供するなど、家庭・学校・地域・関係機関の連携のもとに青少年の健全育成に努める。

(2) 自然や科学への興味・関心を育てる ～社会教育施設の有効活用～

身近な自然環境や吉田科学館を活用して、青少年期の自然や科学への興味・関心を育てる。

2 女性活動事業の推進

(1) 女性の自立した活動を拡大する ～活動の支援と連携～

女性の自立した活動を支援するため、女性団体の組織力向上と活性化を図り、各種事業を推進する。

3 生涯学習機会の提供

- (1) 全世代型の学習の場と機会を提供する ～社会教育施設の充実～
自主的・主体的に学ぶことのできる場及び機会を提供するため、市民の多様な学習ニーズに応じた各種講座の開催や、公民館及び博物館等社会教育施設の充実を図る。
- (2) 黒部市立中央公民館を「黒部市生涯学習文化スクエア『ぷらっと』」として賑わいのある施設を目指す ～生涯学習拠点としての位置付け～
従来の公民館として社会教育活動を行う施設としていた中央公民館の機能を、新たに生涯学習の拠点としての施設に位置付け、貸館利用の促進及び市民の文化的水準の向上を図る施設として活性化を図る。
- (3) 「(仮称)くろべ市民交流センター」を整備する ～市民交流センターの整備～
中心市街地への都市機能の立地や居住の誘導を図るため、図書館を核に生涯学習や情報の収集・発信・保存など市民の知的好奇心を満たす多機能融合施設として、「(仮称)くろべ市民交流センター」を整備する。

4 市民文化活動の推進

- (1) 芸術文化にふれる機会を増やす ～芸術文化活動の推進～
市民の芸術文化活動を推進するため、優れた芸術文化の鑑賞や親しむことができる機会を増やす。
- (2) 自発的に創作活動ができるようにする ～芸術文化活動の支援～
市民が自発的に新しい創作活動ができるよう、芸術文化活動の支援・育成に努める。
- (3) 美術館、吉田科学館の企画事業の充実を図る ～芸術文化・科学教育の充実～
市民の芸術文化の振興、科学教育の普及のため、美術館及び吉田科学館の企画事業の更なる充実を図る。

5 文化遺産及び自然遺産の保護活用

- (1) 郷土愛の醸成と高揚を図る ～保存・伝承活動の支援、地域文化の普及～
地域の伝統文化による郷土愛の醸成や高揚を図るため、芸能・伝統行事の保存・伝承活動を支援する。また、文化財の保護・調査研究、市民への地域文化の普及に努める。
- (2) 立山黒部ジオパーク事業を推進する ～世界認定に向けた取組の推進～
富山県東部に広がる多様で豊かな自然を保護・保全し、多彩な文化を継承するとともに、その活用を図り地域の継続的な発展につながる事業を積極的に推進する。

6 「市民ひとり1スポーツ」の推進

- (1) 市民がスポーツに親しむことができるようにする ～スポーツ機会の充実～
市民一人ひとりが、それぞれのライフスタイルに応じて、多様なスポーツに主体的かつ継続的に親しむことができるようにするため、市体育協会や地区体育協会と協働し、地域との連携を図りながらスポーツ機会の充実を図る。
- (2) 地域住民主体のスポーツ活動を推進する ～地域力の醸成～
地域住民が主体となったスポーツ活動を推進するために、スポーツ推進委員や総合型地域スポーツクラブの活動を通じて地域力の醸成を図り、「市民ひとり1スポーツ」の更なる定着に努める。

7 スポーツ施設の整備・充実

- (1) スポーツ施設の整備と利便性の向上を図る ～スポーツ施設の充実～
気軽にスポーツを楽しむことができるよう施設や備品の整備並びに長寿命化を計画的に進めるととも

に、身近で利用しやすい施設となるよう利便性の向上及び安全管理の強化を図る。

8 競技力の向上

(1) 全国レベルで活躍する選手を育てる ～支援体制の充実～

優秀なクラブチームや全国・ブロック大会で活躍する選手を育成するための支援を行う。

(2) 各種競技力の向上を図る ～クラブチームとの連携・支援体制の強化～

- ① 市体育協会が中心となり各競技協会や地区協会の活動を支援することで、クラブチームとの連携・支援体制を強化し、各種競技力の向上を図る。
- ② 意欲ある中学生への支援策として、競技協会を主体としたクラブ創設を促し、部活動以外の活動組織の拡大と競技力の向上を目指す。併せて、小学生への支援策についても、中学生への支援策につながる取組を図る。

9 スポーツを通じた地域振興

(1) 生涯スポーツ社会の実現を図る ～全国レベルのプレー観戦の場の提供～

生涯を通じて豊かなスポーツライフを送ることができる生涯スポーツ社会の実現を図るため、全国規模の各種大会を開催し、全国トップレベルのプレー観戦の場を市民に提供することにより、競技力向上に寄与するとともに、スポーツに対する興味・関心を高める。

(2) スポーツを通じて地域の活性化を図る ～スポーツによる本市のPR～

黒部市を訪れた選手・観客に本市の素晴らしさをPRするため、カーター記念黒部名水マラソンの開催、東京2020オリンピック・アーチェリー競技インド代表事前キャンプの受入や聖火リレーの実施、及び優秀スポーツクラブへの支援をはじめ、各種スポーツを通じて地域の活性化を図る。

10 健やかな子どもの育成とスポーツの充実

(1) 体力の向上、運動の習慣化を推進する ～運動・スポーツの好きな子どもの育成～

運動することや各種競技等のスポーツに、意欲的に取り組む子どもを育成するため、保育所、幼稚園、学校、地域、家庭、関係機関と連携し、子どもの体力向上を図る。

(2) 発育期の運動器障害の発症予防と早期発見による児童生徒の健全な育成を図る ～子どものスポーツ障害防止策の充実～

過度のトレーニング等によって、スポーツ活動を断念することがないように、中学校の運動部、スポーツクラブ、スポーツ少年団及び市民病院と連携したスポーツ障害防止策を講じる。

III 点検・評価の結果

教育委員会の事務事業の執行状況（個別事業シート一覧）

<p>(1)人間性の基礎を培う家庭教育・地域教育</p> <p>①家庭教育</p> <p>(1)親子での体験事業(親子自然体験教室) [13P]</p> <p>(2)成人式の開催 [14P]</p> <p>②地域教育</p> <p>(1)放課後子ども教室推進事業 [15P]</p>	<p>⑩教育環境の整備</p> <p>(1)学校施設の大規模改修・耐震補強工事 [42P]</p> <p>(2)黒部市立小中学校再編計画の推進 [43P]</p>
<p>(2)心身ともに健康で学ぶ意欲を育てる学校教育</p> <p>①幼稚園、学校等の円滑な運営</p> <p>(1)学校評価の取組 [16P]</p> <p>(2)幼・こ・保・小・中学校の連携 [17P]</p> <p>(3)適応指導教室(ほっとスペース「あゆみ」)事業 [18P]</p> <p>(4)奨学資金貸付・給付事業 [19P]</p> <p>(5)就学援助事業 [20P]</p> <p>(6)幼稚園教育の充実 [21P]</p> <p>②確かな学力</p> <p>(1)全国学力・学習状況調査 [22P]</p> <p>(2)教職員研修・研究委員会・研究指定校 [23P]</p> <p>(3)学校訪問 [24P]</p> <p>(4)情報教育 [25P]</p> <p>③国際化教育</p> <p>(1)英会話科等の実施 [26P]</p> <p>(2)英語サマーキャンプ [27P]</p> <p>(3)姉妹都市交流研修事業 [28P]</p> <p>(4)帰国児童生徒・外国人児童生徒教育 [29P]</p> <p>④特別支援教育</p> <p>(1)特別支援教育支援員(スタディ・メイト)事業 [30P]</p> <p>⑤心の教育</p> <p>(1)豊かな体験活動推進事業 [31P]</p> <p>(2)いじめ不登校対策 [32P]</p> <p>⑥読書活動</p> <p>(1)学校司書配置事業 [33P]</p> <p>⑦キャリア教育</p> <p>(1)14歳の挑戦事業 [34P]</p> <p>⑧健康・体力</p> <p>(1)食育の取組 [35P]</p> <p>(2)体力の向上・「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」 [36P]</p> <p>(3)スポーツエキスパート派遣事業 [37P]</p> <p>(4)給食センターの衛生管理、調理・洗浄業務、給食配達業務 [38P]</p> <p>⑨安全</p> <p>(1)安全管理 [39P]</p> <p>(2)遠距離通学対策(スクールバス運行事業・通学定期券補助金) [40P]</p> <p>(3)AED管理事業 [41P]</p>	<p>(3)生きがいと心身の健康を支援する社会教育及びスポーツ</p> <p>①青少年の健全育成</p> <p>(1)青少年育成黒部市民会議助成事業 [44P]</p> <p>②女性活動事業の推進</p> <p>(1)配偶者等暴力被害者相談事業 [45P]</p> <p>(2)女性団体の育成 [46P]</p> <p>③生涯学習機会の提供</p> <p>(1)コミュニティづくり推進事業 [47P]</p> <p>(2)生涯学習フェスティバル開催事業 [48P]</p> <p>(3)市民大学講座・市民カレッジ事業 [49P]</p> <p>(4)読書普及事業 [50P]</p> <p>(5)図書団体貸出事業 [51P]</p> <p>④市民文化活動の推進</p> <p>(1)黒部市芸術祭の開催及び芸術体験の充実 [52P]</p> <p>(2)芸術文化活動団体助成 [53P]</p> <p>(3)詩の道句集事業 [54P]</p> <p>⑤文化遺産及び自然遺産の保護活用</p> <p>(1)伝統文化の保存継承 [55P]</p> <p>(2)埋蔵文化財の発掘調査 [56P]</p> <p>(3)立山黒部ジオパーク事業 [57P]</p> <p>⑥「市民ひとり1スポーツ」の推進</p> <p>(1)市民体育大会 [58P]</p> <p>(2)スポーツ推進委員協議会の育成 [59P]</p> <p>(3)総合型地域スポーツクラブ [60P]</p> <p>⑦スポーツ施設の整備・充実</p> <p>(1)スポーツ施設の整備・充実 [61P]</p> <p>⑧競技力の向上</p> <p>(1)優秀スポーツクラブ育成補助 [62P]</p> <p>(2)出場派遣費・激励費 [63P]</p> <p>(3)選手強化 [64P]</p> <p>⑨スポーツを通じた地域振興</p> <p>(1)カーター記念黒部名水マラソン [65P]</p> <p>(2)VリーグDIVISION1黒部大会 [66P]</p> <p>(3)東京2020オリンピック・パラリンピック事前キャンプ誘致推進事業 [67P]</p> <p>⑩健やかかな子どもの育成とスポーツの充実</p> <p>(1)幼児期の体力づくり事業・ちびっ子・わんぱく教室事業 [68P]</p> <p>(2)KUROBE型地域部活動事業 [69P]</p>

(1) 人間性の基礎を培う家庭教育・地域教育

施策の分野	①家庭教育
方針・目標	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの人間形成の基礎を培う家庭の教育力の向上を図るため、子育て講座等の家庭教育に関する学習機会の提供に努める。 ・子どもの健康な心と体を育むため、親子や地域の人々との世代間の触れ合い・交流の機会を多くするよう努める。 ・やすらぎのある明るい家庭づくりができるよう、子育て支援体制の整備・充実に努める。

個別事業名	(1) 親子での体験事業(親子自然体験教室)														
担当課等	生涯学習文化課 生涯学習係														
事業費	実績	計(千円)	国費	県費	その他	一般財源									
	R 2	400		400											
	R 3	350		350											
趣旨等	<p>(本来の目標・目的・対象・意図)</p> <p>地域の自然や暮らし、伝統文化を体験学習することにより、ふるさと教育や家庭での親子の絆、地域の絆の深化を図る。</p>														
実績・成果	<p>(数値を用いて具体的に、前年度等との比較)</p> <p>小学生の親子を対象に公民館において「はつらつ公民館学び支援事業」(5拠点で実施)を実施した。</p> <p>郷土愛醸成や郷土芸能の継承、3世代交流、自然体験活動等で、新たな試みやふるさとの学びを推進する事業を実施し、公民館活動ならではの経験を提供できた。</p> <p>実施にあたり地域の方々に協力や指導をいただき、地域とのつながりが強まった。(地域振興型…地域課題の解決に取り組む事業) 荻生、若栗</p> <p>(体験交流型…ふるさとの学びや自然体験活動) 生涯学習文化スクエア、下立、浦山</p> <p>※ 新型コロナウイルス感染症予防への十分な配慮と活動の両立に取り組んだ。</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>開催回数</th> <th>受講者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>R 2</td> <td>31回</td> <td>1,019人</td> </tr> <tr> <td>R 3</td> <td>34回</td> <td>765人</td> </tr> </tbody> </table>						年度	開催回数	受講者数	R 2	31回	1,019人	R 3	34回	765人
年度	開催回数	受講者数													
R 2	31回	1,019人													
R 3	34回	765人													
点検・評価	総合評価 A (前年評価 A)			5段階評価: A, A, B, C, Dのいずれかを記載											
	<p>(上記の評価をした理由)</p> <p>黒部の子どもたちが、地元の歴史や豊かな自然を感じ、楽しみながら学びを深められることにつながる体験・ふるさと学習ができた。また、この活動を通して、地域の方々と世代を超えた交流も深めることができた。</p> <p>※ コロナ禍にあっても、今出来る工夫を皆さんで話し合い、「コロナでもできる」活動を実施し、成果があげられることを実証できた。</p>														
課題・改善	<p>コロナ禍で様々な活動が制約を受ける中、かえって人と人との心のつながりを紡ぎ直す機会となり、地域コミュニティの「つながり」が実感された。この取組を活かしたうえで、今後どのような活動に繋げていくかが課題である。</p>														
今後の方向	<p>(継続・拡充・縮小・廃止などを判断)</p> <p>地域の方々と交流しながら、学校や家庭ではできない活動を通して自然や地域について学ぶことができていると考えており、今後も同様の事業継続を支援したい。</p>														

個別事業名	(2) 成人式の開催																	
担当課等	生涯学習文化課 女性青少年係																	
事業費	実績	計(千円)	国費	県費	その他	一般財源												
	R 2	771			765	6												
	R 3	609			609													
趣旨等	<p>(本来の目標・目的・対象・意図)</p> <p>成人の日を迎える青年の希望に満ちた第一歩である成人式を市全体で祝福する。成人者が社会人としての自覚を深め、また、ふるさとのよさを再認識してもらえる式を目指す。開催に向け、成人者自らが自身の力で作り上げる成人式を目指し、希望に満ちた門出となるよう準備を進める。</p>																	
実績・成果	<p>(数値を用いて具体的に、前年度等との比較)</p> <p>◎成人式出席者</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>成人者数</th> <th>参加人数</th> <th>参加率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>R 2</td> <td>423 人</td> <td>316 人</td> <td>74.7%</td> </tr> <tr> <td>R 3</td> <td>447 人</td> <td>362 人</td> <td>81.0%</td> </tr> </tbody> </table> <p>成人者による実行委員会を立ち上げ、成人式アトラクションの内容、記念品等について決定し、司会を新成人が行った。 成人となって初めての社会貢献として、交通安全宣言署名運動に取り組んだ。</p>						年度	成人者数	参加人数	参加率	R 2	423 人	316 人	74.7%	R 3	447 人	362 人	81.0%
	年度	成人者数	参加人数	参加率														
R 2	423 人	316 人	74.7%															
R 3	447 人	362 人	81.0%															
点検・評価	総合評価 A (前年評価 AA)		5段階評価: AA, A, B, C, Dのいずれかを記載															
	<p>(上記の評価をした理由)</p> <p>成人者による実行委員会を立ち上げ、自分達の手で思い出に残る成人式にするため意見を出し合い、新成人の思い出の写真や恩師からのメッセージ映像、記念品に自分達の思いを込めることができた。成人者が司会やあらゆる場面で積極的に参加したことで成人者主体の成人式となり、列席者から好評を得た。</p>																	
課題・改善	<p>(具体的な改善内容を記載)</p> <p>成人式会場には大勢の来場者がおり、成人者や家族が受付場所から移動しづらいことが多く、ウィズコロナ時代の感染症対策として人の流れをどうコントロールするかをはじめ運営を検討する必要がある。</p> <p>なお、令和4年4月1日に施行される改正民法により、成年年齢が20歳から18歳に引き下げられることから、令和4年度より式の名称を「20歳を祝う式」に改称し、20歳の方を対象に式典を開催することに決定した。</p>																	
今後の方向	<p>(継続・拡充・縮小・廃止などを判断)</p> <p>成人者の意向を尊重した式としての開催を今後も目指しながら、実行委員会による式典運営を継続することで、温かみのある手作りの式となるよう準備をすすめる。</p>																	

施策の分野	②地域教育
方針・目標	<ul style="list-style-type: none"> 生活する地域や環境に対する子どもたちの意識を高めながら、社会性や実践力を育成するため、郷土の伝統や文化、自然、人材を生かした社会体験や自然体験、ボランティア活動等の豊かな体験活動を地域ぐるみで推進する。 地域における幼児教育のセンター(親と子の育ちの場)としての役割を果たすため、保育所、幼稚園が、子育て支援機能を十分に発揮できるよう努める。

個別事業名	(1) 放課後子ども教室推進事業																				
担当課等	生涯学習文化課 女性青少年係																				
事業費	実績	計(千円)	国費	県費	その他	一般財源															
	R 2	1,110	370	370		370															
	R 3	1,170	390	390		390															
趣旨等	<p>(本来の目標・目的・対象・意図)</p> <p>少子高齢化や核家族化の進展等、子どもを取り巻く社会環境の変化によって、家庭の教育力が低下し、地域ぐるみの子育てが重要視されている。</p> <p>放課後や週末等において、学校の余裕教室等を活用して、子どもたちの安全・安心な活動場所を確保し、地域住民等の参画により、学習や様々な体験交流活動の機会を定期的・継続的に提供することで、子どもたちが地域社会の中で心身共に健やかに育まれる環境づくりを推進する。</p>																				
実績・成果	<p>(数値を用いて具体的に、前年度等との比較)</p> <p>黒部市内全小学校9校区で、放課後や休日に、地域の人材と特色を活かした自然体験、文化活動、レクリエーション活動等を実施した。内容としては祭囃子や書道、茶道、工作、体力づくり教室など、各地区の特色を活かした教室を開催している。</p> <p>※新型コロナウイルス感染症予防への十分な配慮と活動の両立に取り組んだ。</p> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>実施校区数</th> <th>教室回数</th> <th>参加児童数</th> <th>指導者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>R 2</td> <td>9校区</td> <td>108回</td> <td>1,596人</td> <td>285人</td> </tr> <tr> <td>R 3</td> <td>9校区</td> <td>120回</td> <td>1,710人</td> <td>305人</td> </tr> </tbody> </table>						年度	実施校区数	教室回数	参加児童数	指導者数	R 2	9校区	108回	1,596人	285人	R 3	9校区	120回	1,710人	305人
年度	実施校区数	教室回数	参加児童数	指導者数																	
R 2	9校区	108回	1,596人	285人																	
R 3	9校区	120回	1,710人	305人																	
点検・評価	総合評価		A (前年評価 A)		5段階評価: AA, A, B, C, Dのいずれかを記載																
	<p>(上記の評価をした理由)</p> <p>地域の特色を活かした教室を各校区で実施することにより内容が充実し、地域に定着してきた。各教室の指導者には、子どもたちの体験のサポートを毎回熱心に行ってもらっている。祭囃子といった地域文化に触れることができる教室の開催により、地域文化の継承にもつながっている。</p> <p>屋外等での軽運動、正しい手洗い教室など、新型コロナウイルス感染防止対策を考慮したプログラムを工夫し、子どもたちが楽しく学ぶことのできる教室を開催した。</p>																				
課題・改善	<p>(具体的な改善内容を記載)</p> <p>参加回数等の観点からも子どもたちが平等に体験活動を行うことができるよう、実施場所や方法等について校区内での調整、連携をする必要がある。</p> <p>また活動を継続的に実施していくために、地域での指導者を確保するとともに、各校区の学童保育との連携を強化する必要がある。</p>																				
今後の方向	<p>(継続・拡充・縮小・廃止などを判断)</p> <p>放課後子ども教室推進事業を継続し、引き続き全小学校区での実施を目指す。指導者の確保については、スポーツ推進委員等の協力を得られるよう努めるとともに、団塊世代、地元指導者を巻き込みながら、地域の子どもは地域で育てるという意識づくりを進める。</p>																				

(2) 心身ともに健康で学ぶ意欲を育てる学校教育

施策の分野	①幼稚園、学校等の円滑な運営
方針・目標	<ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園、学校において、幼児・児童・生徒や家庭・地域の実態を適確に把握し、組織的・計画的にカリキュラム・マネジメントの視点を生かした質の高い教育活動を推進する。 ・園評価、学校評価を生かし、市民の信頼に応える社会に開かれた幼稚園、学校づくりを推進するため、家庭や地域と連携及び協働する。 ・保育所、幼稚園、小学校、中学校の一貫した教育を推進するため、参観や体験を通して相互の交流を深める。

個別事業名	(1) 学校評価の取組					
担当課等	学校教育課 学校教育係					
事業費	実績	計(千円)	国費	県費	その他	一般財源
	R 2	0				
	R 3	0				
趣旨等	<p>(本来の目標・目的・対象・意図)</p> <p>【学校経営の評価】 学校の教育目標の実現に向けて、創意工夫を活かした学校づくりに努めるため、学校経営や教育活動についてPDCAサイクルによる定期的・総合的な評価を行い、成果と課題を明確にしながら、更なる改善・向上を目指す。</p> <p>【アクションプラン】 各校の実態に応じ、教育目標と一貫性のある重点及び数値目標を、知育・徳育・体育の3部門で作成する。評価結果を公表し、家庭や地域社会からの信頼に応える学校づくりを目指す。</p> <p>【学校評議員制度】 黒部市学校評議員規程を設け実施しており、校長の推薦を基に、各校5～8人の学校評議員を委嘱している。必要に応じ年に数回、学校評議員会を開催し、教育活動の評価(児童生徒、保護者、教職員)の公表、学校評議員からの意見聴取を行い、学校評価(外部評価)の一助とする。</p>					
	<p>(数値を用いて具体的に、前年度等との比較)</p> <p>【学校経営の評価】 全小中学校で学校評価を実施した。実施内容は、各校で多少の相違はあるが、各種教育活動に関する評価を児童生徒、保護者、教職員の三者によるアンケート形式で実施し、その結果を分析・集約したものが多し。総括については、学校評議員会や学校だより、ホームページ等で公表するとともに、次年度の学校教育目標の見直し及び教育計画作成への反映に努めている。また、教員の目標達成度評価(校長へ提出)も実施している。6月までに目標と方策の作成、9月に中間評価、2月には年度の最終評価を、毎回、管理職との面談とともに実施した。校長の目標達成度評価は、教育長への報告事項とし、教育長による個別面談を実施した。</p> <p>【アクションプラン】 知育・徳育・体育の3つの観点から具体的な取組目標と方策を掲げ、達成率によって検証している。具体目標の主なもの、家庭学習の充実、挨拶の推進、望ましい生活習慣の育成等である。</p> <p>【学校評議員制度】 日々の教育活動について、その実績と自己評価について学校評議員へ提示し、助言を受けることにより、成果や課題を多面的に捉えることができた。また、評価結果を積極的に発信することで、学校の教育活動に対して保護者や地域の人々の協力が得られるとともに、地域全体で児童生徒を育成する体制づくりに繋がった。</p>					
点検・評価	総合評価		A (前年評価 A)	5段階評価: A A, A, B, C, Dのいずれかを記載		
	<p>(上記の評価をした理由)</p> <p>教育活動に対する評価は年々見直しがなされ、結果を次年度の目標に生かすなどPDCAサイクルが確立されてきた。前年度の学校評価や教育活動における成果と課題を分析することで、自校の教育活動のよさや強みを把握し、学校経営ビジョンの見直しにも役立った。</p>					
課題・改善	<p>(具体的な改善内容を記載)</p> <p>カリキュラム・マネジメントの視点やコロナ禍での新しい生活様式等を踏まえ、これまでの取組を見直ししながら、自校のよさや強みを活かした教育課程の編成に努める必要がある。</p>					
今後の方向	<p>(継続・拡充・縮小・廃止などを判断)</p> <p>内容の充実を図りながら継続実施する。</p>					

個別事業名	(2) 幼・こ・保・小・中学校の連携					
担当課等	学校教育課 学校教育係、教育センター					
事業費	実績	計(千円)	国費	県費	その他	一般財源
	R 2	0				
	R 3	0				
趣旨等	<p>(本来の目標・目的・対象・意図)</p> <p>幼・こ・保、小、中で、研修会、相互参観、幼児観察、連絡会、中学校区別校長懇談会等の連携事業を企画・実践することにより、互いの教育の内容や方法に対する理解を深め、発達の段階に応じた指導に活かす。また、一人ひとりの子どもの個性、ものの見方や考え方を共有することで、それぞれに相応しい一貫した連続性のある効果的な指導体制や指導方法を見だし、小1プロブレム（小学校に入学したばかりの1年生が、集団行動をとれないなど、学校生活に馴染めない状態が続くこと）や中1ギャップ（一部の児童が、小学生から中学1年生に進級した際に被る、心理や学問、文化的なギャップと、それによるショックのこと）の解消及び発達障害のある子どもの受入体制の整備等に役立てる。</p>					
実績・成果	<p>(数値を用いて具体的に、前年度等との比較)</p> <p>【幼児観察・連絡会】 各小学校では、幼・こ・保との連絡会を開催し、来年度入学する幼児の観察や情報交換を行った。特に発達障害のある幼児については、一貫性のある継続的な支援を行うため、効果のあった取組や保護者の教育的ニーズ等、情報共有を図った。</p> <p>【1学年生活科における交流】 中止 保・こ・幼から小学校への円滑な接続を目指して、例年、各小学校では1学年生活科の授業の中で、年長児と1年児童と一緒に活動する機会を設けているが、今年度もコロナ禍のため中止した。代わりに、生活科の学習の中で作成した手づくりおもちゃや学校紹介等の作品、お手紙など保育所に届けた学校もあった。</p> <p>【訪問研修（相互参観）】 1学期は学校訪問研修が中止となった。2学期には小・中学校において学校訪問研修に教員が相互参観を行った。</p> <p>【研修会等における小・中学教員の交流】 生徒指導に関する研修会や協議会において、中学校区ごとにグループを編成し、小・中学校教員が情報交換を行ったり、課題を共有し解決の方策を共に考えたりした。 理科研究委員会や情報教育研究委員会、外国語教育研究部会において、小・中の教員が共に研究や研修に取り組む中で、それぞれの専門性や経験から得た知見を交流することができた。</p>					
点検・評価	総合評価		A (前年評価 A)	5段階評価：AA, A, B, C, Dのいずれかを記載		
	<p>(上記の評価をした理由)</p> <p>幼・こ・保、小、中の連携について、コロナ禍のため、交流を縮小せざるを得ない状況がみられた。 少人数での教員同士の連携の在り方を工夫し、情報交換や情報共有を実施した。</p>					
課題・改善	<p>(具体的な改善内容を記載)</p> <p>校区別の教務主任、生徒指導主事等の懇談会や小学6学年担任と中学1学年担任との情報交換会等をさらに拡充する必要がある。発達の段階における課題や地域の特性等を明確にし、個別の教育支援計画等をもとに学習・生活両面における効果的な指導の進め方や円滑な接続の在り方について連携を深める必要がある。</p>					
今後の方向	<p>(継続・拡充・縮小・廃止などを判断)</p> <p>課題・改善を踏まえ、継続していく。</p>					

個別事業名	(3) 適応指導教室(ほっとスペース「あゆみ」) 事業														
担当課等	学校教育課 学校教育係、教育センター														
事業費	実績	計(千円)	国費	県費	その他	一般財源									
	R 2	3,725				3,725									
	R 3	3,446				3,446									
趣旨等	<p>(本来の目標・目的・対象・意図)</p> <p>小中学校の不登校児童生徒について、適応指導教室「ほっとスペース『あゆみ』」(黒部市勤労青少年ホーム内)において対応することにより、学校や関係諸機関と連携を図りながら、様々な援助や指導を行い、児童生徒の社会性や協調性を養い、自立心を培って学校生活への復帰や進学への支援を行う。</p>														
実績・成果	(数値を用いて具体的に、前年度等との比較)														
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>通所者数</th> <th>相談件数(来所)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>R 2</td> <td>9人</td> <td>136件(55件)</td> </tr> <tr> <td>R 3</td> <td>12人</td> <td>96件(52件)</td> </tr> </tbody> </table>						年度	通所者数	相談件数(来所)	R 2	9人	136件(55件)	R 3	12人	96件(52件)
	年度	通所者数	相談件数(来所)												
R 2	9人	136件(55件)													
R 3	12人	96件(52件)													
<p>支援については、黒部市教育センター所員との合同ミーティングの実施や、関係学校教員とのケース会議を実施した。また、個別の指導計画の作成と評価の実施、スクールソーシャルワーカーによる支援等を通して、一人ひとりの児童生徒へのより適切な支援の方法を模索しながら指導を進めた。発達障害による行動に特性が見られる児童生徒への対応のため、所員の配置を変更し、適切な支援・対応に努めた。</p> <p>登校意欲が低下し通所している児童生徒の中には、適応指導教室での学習や作業、体験活動、集団活動等を通して意欲や自信を高め、登校を再開したり、登校の状況が改善したりした例もあった。(小学生5人、中学生3人)</p> <p>月に1回程度、消毒・換気等の対策を講じ、保護者と指導員、保護者同士が懇談する場(おしゃべりカフェ)を設けた。延べ32人が参加し、保護者同士のつながりをつくる場となった。</p>															
点検・評価	総合評価		A(前年評価)	A											
	<p>(上記の評価をした理由)</p> <p>保護者向けに教育相談の案内を年3回配布しており、年間を通じて教育相談が寄せられている。相談内容については、相談者の意向を尊重しつつ、必要と考えられるものは教育センターと相談しながら当該校に連絡し、共通理解を図ることができた。</p> <p>不登校児童生徒の心の居場所として有意義な教室になっており、子ども一人ひとりの特性や実態に応じた指導ができた。指導員と保護者の信頼関係、保護者同士の好ましい人間関係が形成されたことにより、児童生徒にもよい影響があった。</p>														
課題・改善	<p>(具体的な改善内容を記載)</p> <p>通所している児童生徒は、それぞれその特性に応じた支援を必要としており、児童生徒の状況の見極めや適切な支援の在り方を検討する必要がある。また、発達障害と診断された児童生徒の利用が増加しており、中学校入学後も継続して利用するなど、長期支援の充実に向けて、指導員、教育相談員の専門的な研修が必要である。これらの対応を行うことに加え、学校との連携を更に進めることが重要である。</p>														
今後の方向	<p>(継続・拡充・縮小・廃止などを判断)</p> <p>環境整備を整え、一人ひとりに適した支援を継続する。</p>														

個別事業名	(4) 奨学資金貸付・給付事業																																																					
担当課等	学校教育課 庶務係																																																					
事業費	実績	計(千円)	国費	県費	その他	一般財源																																																
	R 2	21,600			20,968	632																																																
	R 3	17,520			17,520																																																	
趣旨等	<p>(本来の目標・目的・対象・意図) 有用な人材の育成を図るため、成績優秀であるが家計等の経済的理由から学資の支弁が困難な学生及び生徒に対し、奨学資金の貸付又は給付を行う。</p> <p>【事業概要】</p> <p>1 貸付 ＊対象：大学生等 ＊年額：240,000円、480,000円、720,000円から選択 ＊期間：採択年度から卒業まで</p> <p>2 給付 ＊対象：高校生等 ＊年額：120,000円 ＊期間：採択年度から卒業まで</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p><出願要件></p> <ul style="list-style-type: none"> ・黒部市民（就学のための市外在住可） ・学資の支弁が困難と認められる者 ・学業優秀、品行方正、健康であること </div>																																																					
実績・成果	<p>(数値を用いて具体的に、前年度等との比較) 黒部市奨学資金規則に基づき、黒部市奨学生審査委員会において、厳正かつ公正な審査を実施した。</p> <p>1 貸付事業（採択枠12人）</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R元</th> <th>R 2</th> <th>R 3</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>申請</td> <td>10</td> <td>14</td> <td>9</td> <td>9</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>採択</td> <td>10</td> <td>12</td> <td>9</td> <td>9</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>不採択</td> <td>0</td> <td>2</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> </tbody> </table> <p>2 給付事業（採択枠28人 ※R 2から）</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R元</th> <th>R 2</th> <th>R 3</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>申請者</td> <td>17</td> <td>13</td> <td>16</td> <td>14</td> <td>7</td> </tr> <tr> <td>採択者</td> <td>8</td> <td>9</td> <td>12</td> <td>14</td> <td>7</td> </tr> <tr> <td>不採択</td> <td>9</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> </tbody> </table>						年度	H29	H30	R元	R 2	R 3	申請	10	14	9	9	6	採択	10	12	9	9	6	不採択	0	2	0	0	0	年度	H29	H30	R元	R 2	R 3	申請者	17	13	16	14	7	採択者	8	9	12	14	7	不採択	9	4	4	0	0
年度	H29	H30	R元	R 2	R 3																																																	
申請	10	14	9	9	6																																																	
採択	10	12	9	9	6																																																	
不採択	0	2	0	0	0																																																	
年度	H29	H30	R元	R 2	R 3																																																	
申請者	17	13	16	14	7																																																	
採択者	8	9	12	14	7																																																	
不採択	9	4	4	0	0																																																	
点検・評価	<p>総合評価 A（前年評価 A） 5段階評価：AA, A, B, C, Dのいずれかを記載</p> <p>(上記の評価をした理由) 貸付事業、給付事業とも採択枠を大きく下回った。ただし、申請については世帯収入、家族構成、学業成績を総合的に勘案し、厳正かつ公正な審査を実施した。 貸付期間中の休学、復学、進学に伴う返済の猶予等、奨学生の個々の状況に柔軟に対応し、利便性の高い制度運営に努めた。 貸付金の返還は滞りなく行われた。(R 3年度返済者 105人：18,672千円)</p>																																																					
課題・改善	<p>(具体的な改善内容を記載) 申請件数が前年度より少なかった原因について、対象者が少なかったことや無償化により、大学等の授業料や入学金が免除され、奨学金を借りるまでに至らなかったことなどが考えられるが、児童生徒の状況を確認しながら、奨学資金を必要な方に届けるため、周知の方法について見直し、検討していく必要がある。</p>																																																					
今後の方向	<p>(継続・拡充・縮小・廃止などを判断) 令和4年度から市内の医療介護人材の確保を目的に、医療介護職を志す大学生等を対象とした支援を実施する。また、高校等の給付金について、成績要件を緩和するほか、支給額を月額17,000円に増額する。</p>																																																					

個別事業名	(5) 就学援助事業							
担当課等	学校教育課 学校教育係							
事業費	実績	計(千円)	国費	県費	その他	一般財源		
	R 2	21,147	1,018		2,877	17,252		
	R 3	27,830	1,190		3,926	22,714		
趣旨等	<p>(本来の目標・目的・対象・意図)</p> <p>経済的事情によって小学校及び中学校への就学に困難を有する児童生徒や特別支援を要する児童生徒の保護者に対し、就学に必要な援助を行う。</p>							
実績・成果	(数値を用いて具体的に、前年度等との比較)							
	<小学校：児童数 (2,025 人) >							
	年度	要保護	準要保護	特別支援	援助費(千円)	日スポ等(千円)	給食費助成金等(千円)	事業費計(千円)
	R 2	2人	98人	51人	6,761	3,032	1,724	11,523
	R 3	1人	94人	57人	8,751	3,534	4,728	17,013
対象者合計 152 人 (7.5%)								
※準要保護人数はこの他、就学予定者R 2で12人、R 3で14人あり(金額は援助費欄に含む)。								
<中学校：生徒数 (1,070 人) >								
年度	要保護	準要保護	特別支援	援助費(千円)	日スポ等(千円)	給食費助成金等(千円)	事業費計(千円)	
R 2	0人	65人	16人	7,780	1,844	-	9,624	
R 3	1人	76人	11人	8,432	2,385	-	10,817	
対象者合計 88 人 (8.2%)								
<p>就学に要する経費(学校給食費・学用品費・通学用品費・校外活動費・修学旅行費・新入学児童生徒学用品費・通学費・交流学习交通費等)の一部援助、日本スポーツ振興センター災害共済給付制度の掛け金の一部補助、第3子の給食費の一部助成を実施した。</p> <p>なお、平成29年度より入学前の就学予定者に対しても学用品費等を助成している。</p>								
点検・評価	総合評価		A (前年評価 A)	5段階評価：A A, A, B, C, Dのいずれかを記載				
	(上記の評価をした理由)							
<p>こども支援課や各学校と連携を図り、年度途中の児童扶養手当受給対象者や転入・転出・転居等、各種支援の該当者の情報共有による確実な把握に努め、適切な対応を行った。</p>								
課題・改善	(具体的な改善内容を記載)							
<p>真に必要としている方が援助を受けることができるよう、引き続き制度の周知について改善を検討する必要がある。</p>								
今後の方向	(継続・拡充・縮小・廃止などを判断)							
引き続き事業を継続する。								

個別事業名	(6) 幼稚園教育の充実																																									
担当課等	こども支援課 保育所・幼稚園係																																									
事業費	実績	計(千円)	国費	県費	その他	一般財源																																				
	R 2	10,599	988	1,540	131	7,940																																				
	R 3	8,526	826	1,010	73	6,617																																				
趣旨等	<p>(本来の目標・目的・対象・意図)</p> <p>幼児期にふさわしい遊びや生活を通して「多様な体験を通じた豊かな感性の育成」や「日常生活の中で喜んで話す、聞くなどの態度や基本的生活習慣の育成」といった教育目標の達成を目指す。</p>																																									
実績・成果	<p>(数値を用いて具体的に、前年度等との比較)</p> <p style="text-align: right;">(園児数は年度末)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th></th> <th>R 2</th> <th>R 3</th> <th>増減</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>幼稚園数</td> <td>1園</td> <td>1園</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>学級数</td> <td>3級</td> <td>3級</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>園児数</td> <td>49人</td> <td>38人</td> <td>△11人</td> </tr> <tr> <td>決算額</td> <td>10,599千円</td> <td>8,526千円</td> <td>△2,073千円</td> </tr> <tr> <td>うち管理費</td> <td>6,446千円</td> <td>6,501千円</td> <td>55千円</td> </tr> <tr> <td>うち就学援助費</td> <td>3,453千円</td> <td>1,570千円</td> <td>△1,883千円</td> </tr> <tr> <td>うち大規模改造事業</td> <td>—千円</td> <td>—千円</td> <td>—千円</td> </tr> <tr> <td>新型コロナウイルス感染症対策費</td> <td>700千円</td> <td>455千円</td> <td>△245千円</td> </tr> </tbody> </table>							R 2	R 3	増減	幼稚園数	1園	1園	—	学級数	3級	3級	—	園児数	49人	38人	△11人	決算額	10,599千円	8,526千円	△2,073千円	うち管理費	6,446千円	6,501千円	55千円	うち就学援助費	3,453千円	1,570千円	△1,883千円	うち大規模改造事業	—千円	—千円	—千円	新型コロナウイルス感染症対策費	700千円	455千円	△245千円
		R 2	R 3	増減																																						
幼稚園数	1園	1園	—																																							
学級数	3級	3級	—																																							
園児数	49人	38人	△11人																																							
決算額	10,599千円	8,526千円	△2,073千円																																							
うち管理費	6,446千円	6,501千円	55千円																																							
うち就学援助費	3,453千円	1,570千円	△1,883千円																																							
うち大規模改造事業	—千円	—千円	—千円																																							
新型コロナウイルス感染症対策費	700千円	455千円	△245千円																																							
	<p>[幼稚園長期休園日預かり保育]</p> <p>長期休暇中における預かり保育の実施 (R 3年度)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>時期</th> <th>申込人数(人)</th> <th>利用日数</th> <th>平均利用日数(日)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>夏季</td> <td>7</td> <td>33</td> <td>4.71</td> </tr> <tr> <td>冬季</td> <td>1</td> <td>4</td> <td>4.00</td> </tr> <tr> <td>学年末</td> <td>4</td> <td>15</td> <td>3.75</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>12</td> <td>52</td> <td>4.33</td> </tr> </tbody> </table>						時期	申込人数(人)	利用日数	平均利用日数(日)	夏季	7	33	4.71	冬季	1	4	4.00	学年末	4	15	3.75	計	12	52	4.33																
時期	申込人数(人)	利用日数	平均利用日数(日)																																							
夏季	7	33	4.71																																							
冬季	1	4	4.00																																							
学年末	4	15	3.75																																							
計	12	52	4.33																																							
点検・評価	総合評価 B (前年評価 A)		5段階評価: A A, A, B, C, Dのいずれかを記載																																							
	<p>(上記の評価をした理由)</p> <p>安心、安全、信頼のおける幼稚園運営を目標とし、幼稚園教育要領に基づき幼稚園教育に取り組んでいる。保護者は、恵まれた施設、環境にある幼稚園に、学校教育の前段階として質の高い教育を期待して就園させていると考えられる。</p> <p>安全面に十分配慮し、主体的に遊ぶ環境整備や援助方法を工夫し、友達と一緒に遊ぶこと、生活のリズムを整えること、必要な生活習慣や態度を身に付けるとともに、新型コロナウイルス感染症予防を含めた健康な体づくりを重点として取り組んだ。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため異年齢児交流や地域の人々との触れ合い活動が、ほとんど実施できない状況だった。</p> <p>なお、教育時間外や長期休暇中の預かり保育は、保護者のパート就労等が増加傾向にあったが新型コロナウイルス感染症の影響からか昨年度と比較すると減少している。運用的には、就労に関わらず、保護者が必要とする場合に応じて実施している。</p>																																									
課題・改善	<p>(具体的な改善内容を記載)</p> <p>市内唯一の単独幼稚園として、市内各地区から就園している。核家族の増加、県外からの移住、アパート住まい等による、近所付き合いや地域との関わり等において希薄化している傾向がみられる。幼稚園が拠り所となって地域や保護者同士との関係を構築していくことが必要である。</p> <p>保護者のニーズに寄り添いながらも、遊びの中での総合的な学びの大切さを保護者に理解してもらう必要がある。また、従来の子どもの生活が保障できるように、コロナ禍での活動の工夫を行う必要がある。</p> <p>単独幼稚園の特徴を活かしながら、幼稚園教育の充実を図り、幼児の心身発達の助長に資する未就園児親子交流や子育て支援拠点としての役割について、周知していくことが大切である。</p> <p>在籍園児数は減少傾向にある。</p>																																									
今後の方向	<p>(継続・拡充・縮小・廃止などを判断)</p> <p>家庭・小学校との連携を図り、円滑な幼稚園の運営を継続するとともに、入園児童数の動向を注視する。</p>																																									

施策の分野	②確かな学力
方針・目標	<ul style="list-style-type: none"> ・「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業の工夫と改善を推進する。 ・「確かな学力」を身に付けさせるため、各教科や特別活動、総合的な学習の時間において、基礎的・基本的な知識及び技能の確実な習得と思考力・判断力・表現力及び主体的に学習に取り組む態度の育成を図るとともに、個に応じた指導の充実に努める。 ・授業と家庭学習の内容を連動させながら、課題の与え方を工夫し、学習習慣の確立に努める。 ・論理的に思考して表現する能力や、互いの考えや立場を尊重し、他者に配慮した伝え合う能力を育成するために、各教科等における言語活動を充実する。 ・学習のねらいと学習課題、学習活動、評価規準の整合性を図る。その上で、学習課題の設定、書いて考える活動、考えを言葉で伝え合う活動、学習の成果の確認・評価を工夫し、「分かる」「できる」授業を推進する。 ・集団の場面で必要な指導や援助を行うガイダンスと一人ひとりが抱える課題に個別に対応するカウンセリングの双方からの指導を充実する。 ・学習課題に対して指示された条件を満たして解決していこうとする意欲や能力面を意識した指導を充実する。 ・教職員と児童生徒の信頼関係や児童生徒相互の人間関係づくり、自己選択や自己決定を促すといった生徒指導の機能を生かす。 ・鉛筆の持ち方やノートの使い方、返事、発言の仕方、聞き方、話し合いの仕方、姿勢等の態度面を意識した学習規律の確立に努める。

個別事業名	(1) 全国学力・学習状況調査					
担当課等	学校教育課 学校教育係、教育センター					
事業費	実績	計(千円)	国費	県費	その他	一般財源
	R 2	0				
	R 3	0				
趣旨等	<p>(本来の目標・目的・対象・意図)</p> <p>【全国学力・学習状況調査の分析】</p> <p>小学6年生と中学3年生の児童生徒を対象に、学力と学習状況を把握・分析し、改善を図ることを目的に黒部市として実施した。</p>					
実績・成果	<p>(数値を用いて具体的に、前年度等との比較)</p> <p>市内の全小中学校(11校)が参加した。調査結果は、黒部市教育センターにおいて分析し、11月に各校に配付した。小中学校では、この分析結果を参考にしながら授業改善に努めるとともに、児童生徒個人の結果にコメントを付けて手渡すなど、今後の学習に活かすようにした。また、保護者へは、学校だより等で周知した。</p> <p>平均正答率については小中学校ともに、全調査において全国の結果を上回っており、良好であった。富山県の平均正答率と比較しても、ほとんどの教科において上回っていた。</p> <p>結果の分析では、「設問別正答率の学校間の開き」「事例分析」等を示し、小中学校が学力向上に向けた取組をする際に参考となるデータを提供した。</p>					
点検・評価	総合評価 A (前年評価 A)		5段階評価：A A, A, B, C, Dのいずれかを記載			
	(上記の評価をした理由)					
課題・改善	<p>(具体的な改善内容を記載)</p> <p>今後も、適切にデータを処理しグラフ化するなど、分かりやすい提示をもとに、学力・学習状況を把握していく必要がある。</p>					
今後の方向	(継続・拡充・縮小・廃止などを判断)					
	調査結果を活かし、改善を図りながら継続する。					

個別事業名	(2) 教職員研修・研究委員会・研究指定校					
担当課等	学校教育課 学校教育係、教育センター					
事業費	実績	計(千円)	国費	県費	その他	一般財源
	R 2	360		360		
	R 3	304		304		
趣旨等	<p>(本来の目標・目的・対象・意図)</p> <p>【教職員研修】 児童生徒の確かな学力や豊かな人間性、健康・体力を育むために、各種の教職員研修会を実施し、教職員の資質・能力・指導力の向上を図る。</p> <p>【研究委員会】 社会科・理科・情報教育における教材等の作成や見直し、今日的な課題に関する研修を行う。</p> <p>【学力向上市町村教育委員会プラン研究委託事業】 桜井小、明峰中を拠点校として、学力向上に関する研究を推進するとともに、得られた成果の市内各校への普及に努める。</p>					
実績・成果	<p>(数値を用いて具体的に、前年度等との比較)</p> <p>「教員のニーズに応じた研修会」「明日に生きる研修会」となるよう、黒部市教育センターが中心となり以下の研修会等の企画・運営に努めた。</p> <p>① 教職員研修〈研修会・講演会〉(参加人数：延べ375人)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学級経営研修会(初任者)(8人) ・教科実技研修会(理科)(14人) ・特別支援教育研修会(14人) ・情報教育研修会(179人) ・生徒指導主事等研修会3回(52人) ・いじめ問題等研修会2回(22人) ・学力向上研修会(中止) ・外国語教育研究部会2回(26人) ・学級づくりに関する講演会(39名) ・生徒指導講演会(中止) ・道徳に関する講演会(21名) <p>②研究委員会</p> <ul style="list-style-type: none"> ○社会科研究委員会(小学校教諭9人、2回開催) <ul style="list-style-type: none"> ・小学3年・4年の社会科で学ぶ身近な地域や市(県)の社会的な事象についての理解を深め、地域社会に対する誇りと愛情を育てるための学習資料を作成した。 ○理科研究委員会(小学校教諭7人・中学校教諭2人、2回開催) <ul style="list-style-type: none"> ・小学校における理科の学習活動を充実させ、児童の理科の見方・考え方の育成に資するため、観察、実験に活用できる資料やワークシート等を作成したり、指導力向上を目指す実技研修を行ったりした。 ○情報教育研究委員会(小学校教諭9人・中学校教諭2人、1回開催) <ul style="list-style-type: none"> ・授業支援ソフトを活用した授業の在り方を学び、利活用を図った。 <p>③学力向上市町村教育委員会プラン研究委託事業 拠点校は、研究テーマに基づき学力向上について実践的な研究に取り組み、事業・研修の公開を積極的に行った。</p>					
点検・評価	総合評価		A(前年評価 A)		5段階評価：A A, A, B, C, Dのいずれかを記載	
	<p>(上記の評価をした理由)</p> <p>新型コロナウイルス感染拡大を考慮し、講演会等開催を見合わせた研修会が多かった。</p> <p>教育センターで実施する研修会においては、各校における課題や悩み等の把握に努め、教員が求めるニーズに応じた研修会となるように、少人数での実施等も工夫を工夫した。</p>					
課題・改善	<p>(具体的な改善内容を記載)</p> <p>新規の研修会を開催する場合は、教員の負担増となることのないよう配慮し、他の研修会を減らすなどの見直しを継続していく。必要とされる内容等を十分に精査して、研修会、講演会を実施する必要がある。</p>					
今後の方向	<p>(継続・拡充・縮小・廃止などを判断)</p> <p>各種研修会の精選化を図りながら継続する。</p>					

個別事業名	(3) 学校訪問																	
担当課等	学校教育課 学校教育係、教育センター																	
事業費	実績	計(千円)	国費	県費	その他	一般財源												
	R 2	0																
	R 3	0																
趣旨等	<p>(本来の目標・目的・対象・意図)</p> <p>学校訪問研修は、各学校(園)の教育目標実現のため、国(文部科学省)・富山県教育委員会・黒部市教育委員会の指導方針に則し、学校(園)運営・教育指導及び研修に関して指導・助言を行い、当面する課題を中心に解明を図り、教育実践の効果を高めることを目的とする。</p> <p>学習指導要領の趣旨を踏まえながら、県教育委員会の教育指標「一人ひとりを見つめ、育てる」の具現化を目指し、教育指導と校内研修が一層充実するように指導・助言する。</p>																	
実績・成果	<p>(数値を用いて具体的に、前年度等との比較)</p> <p>【学校訪問研修】</p> <p>・通常訪問(9小学校、1幼稚園、2中学校)を行った。黒部市教育委員会からは、教育長、教育部長、学校教育課長、学校教育班長、黒部市教育センター所長及び指導主事、可能な限り教育委員も授業を参観し、指導・助言にあたった。</p> <p>＜学校訪問研修での参観授業数()内は学級数＞令和2年度は2学期のみ</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th></th> <th>小学校</th> <th>中学校</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>R 2</td> <td>42 (38)</td> <td>22 (16)</td> <td>64 (54)</td> </tr> <tr> <td>R 3</td> <td>104 (97)</td> <td>49 (35)</td> <td>153 (132)</td> </tr> </tbody> </table> <p>【学校巡回訪問】</p> <p>1・2学期に例年と同様に、通常訪問研修を実施しない学校のみを対象として、市教委・市教セによる学校訪問を実施した。若手教員にとって、1学期と2学期に継続した懇談の機会があり、効果的な指導に繋がった。</p>							小学校	中学校	合計	R 2	42 (38)	22 (16)	64 (54)	R 3	104 (97)	49 (35)	153 (132)
	小学校	中学校	合計															
R 2	42 (38)	22 (16)	64 (54)															
R 3	104 (97)	49 (35)	153 (132)															
点検・評価	総合評価 A (前年評価 A)		5段階評価: A A, A, B, C, Dのいずれかを記載															
	<p>(上記の評価をした理由)</p> <p>学校訪問研修では、学校の実態や課題等を聴取するとともに、授業を参観することを通して、学校の課題改善のための指導・助言を行うことができた。</p> <p>市教委・市教セによる学校訪問研修では、若手教員の授業のよかった点を認め、励ますとともに、具体的な改善点を挙げて指導・助言することで、学級経営や教科指導等に関する課題の解決に繋げることができた。</p>																	
課題・改善	<p>(具体的な改善内容を記載)</p> <p>通常訪問・支援型訪問とともに目的に応じて研修日程や研修内容を学校が主体となって決定することとなった。市教委・市教セによる学校訪問についても、各校、各教員の課題に応じて実施できるよう、事前の相談や打ち合わせを丁寧に行っていく必要がある。</p>																	
今後の方向	<p>(継続・拡充・縮小・廃止などを判断)</p> <p>課題・改善を踏まえ継続する。</p>																	

個別事業名	(4) 情報教育																					
担当課等	学校教育課 施設係																					
事業費	実績	計(千円)	国費	県費	その他	一般財源																
	R 2	333,096	224,179		49,900	59,017																
	R 3	47,626	1,980			45,646																
趣旨等	<p>(本来の目標・目的・対象・意図)</p> <p>児童生徒が、適切にICT（情報通信技術）を活用し、一人一人の能力特性に応じた個別学習や児童生徒間で学習に必要な情報を相互作用的に用いる協働学習ができるよう情報教育をすすめる。</p> <p>情報教育の一層の充実、改善を図るため、情報教育機器システムのハード、ソフト両面及びインターネットに係る基盤等の整備を行う。</p>																					
実績・成果	<p>(数値を用いて具体的に、前年度等との比較)</p> <p>1 児童生徒用パソコンの整備状況（パソコン1台当たりの児童生徒数）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>パソコン台数</th> <th>児童生徒数</th> <th>黒部市</th> <th>全国平均</th> <th>国の目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>R 2</td> <td>3,147台</td> <td>3,088人</td> <td>1.0人/台</td> <td rowspan="2">1.4人/台</td> <td rowspan="2">1人/台※</td> </tr> <tr> <td>R 3</td> <td>3,147台</td> <td>3,104人</td> <td>1.0人/台</td> </tr> </tbody> </table> <p>※児童生徒数は、各年5月1日現在（全国平均は、R3.3.1《令和2年度》現在） ※国は、児童・生徒1人1台の整備を目指している。</p>						年度	パソコン台数	児童生徒数	黒部市	全国平均	国の目標値	R 2	3,147台	3,088人	1.0人/台	1.4人/台	1人/台※	R 3	3,147台	3,104人	1.0人/台
	年度	パソコン台数	児童生徒数	黒部市	全国平均	国の目標値																
	R 2	3,147台	3,088人	1.0人/台	1.4人/台	1人/台※																
R 3	3,147台	3,104人	1.0人/台																			
<p>2 教職員用校務パソコンの整備状況（充足率）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>パソコン台数</th> <th>教員数</th> <th>黒部市</th> <th>全国平均</th> <th>国の目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>R 2</td> <td>317台</td> <td>256人</td> <td>123.8%</td> <td rowspan="2">122.5%</td> <td rowspan="2">100%</td> </tr> <tr> <td>R 3</td> <td>317台</td> <td>249人</td> <td>127.3%</td> </tr> </tbody> </table> <p>※教員数は、各年5月1日現在（全国平均は、R3.3.1《令和2年度》現在）</p>						年度	パソコン台数	教員数	黒部市	全国平均	国の目標値	R 2	317台	256人	123.8%	122.5%	100%	R 3	317台	249人	127.3%	
年度	パソコン台数	教員数	黒部市	全国平均	国の目標値																	
R 2	317台	256人	123.8%	122.5%	100%																	
R 3	317台	249人	127.3%																			
<p>3 端末を効果的に活用するための体制づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業支援ソフトを導入 ・ICT機器の不具合にかかる電話・現地対応窓口を設置 ・ICT支援員（4人）を各学校に配置 ・デジタル教科書の試行導入（一部学校） 																						
点検・評価	総合評価 A（前年評価 A）		5段階評価：A A, A, B, C, Dのいずれかを記載																			
	<p>(上記の評価をした理由)</p> <p>教職員用校務パソコンは、全国平均を上回る台数を維持。児童生徒用パソコンについては、児童生徒1人1台端末の整備を達成している。端末を効果的に活用するための体制づくりを進めることができた。</p>																					
課題・改善	<p>(具体的な改善内容を記載)</p> <p>児童生徒1人1台端末が整備されたところであるが、今後は、更なる授業での活用や家庭への持ち帰り、活用時の情報モラル教育等をすすめていく必要がある。</p>																					
今後の方向	<p>(継続・拡充・縮小・廃止などを判断)</p> <p>端末を授業で十分に活用するための授業支援ソフトの導入、端末運用を手助けするICT支援員の配置、端末故障等に対応する電話窓口、教職員等の利活用研修、児童生徒への情報モラル教育を継続して実施する。また、複数クラスで端末を快適に動作させるためのネットワーク回線改良や、職員室無線APの増設など、ネットワーク環境の改善を図る必要がある。</p> <p>【今後の予定】 <令和4年度></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ネットワーク回線速度の改善 ・職員室無線APの増設 																					

施策の分野	③国際化教育
方針・目標	<ul style="list-style-type: none"> ・英語による総合的なコミュニケーション能力を育成するため、英会話を楽しみながら相手を理解し、自分を表現する「英会話科」と日常的な英語活動の充実に一層努める。 ・海外姉妹都市との連携事業や英語サマーキャンプ等、魅力的で実践的な教育プログラムを充実することにより、児童生徒の英語に対する学習意欲の向上を図る。 ・日本や郷土の文化・伝統を尊重するとともに、様々な文化をもつ人々と共生する態度や資質を育てるため、地域ぐるみで国際化教育、帰国児童生徒・外国人児童生徒教育を推進する。

個別事業名	(1) 英会話科の実施																				
担当課等	学校教育課 庶務係																				
事業費	実績	計(千円)	国費	県費	その他	一般財源															
	R 2	43,112			84	43,028															
	R 3	51,275			100	51,175															
趣旨等	<p>(本来の目標・目的・対象・意図)</p> <p>国際感覚と実践的なコミュニケーション能力を身に付け、地域社会や国際社会に貢献できる子どもの育成を目指し、小中学校の児童生徒に英会話科授業を実施する。その方策として、文部科学省による教育課程特例校(英会話科)の指定を受け、小学校では、ALT(外国語指導助手)・担任・JAT(小学校英会話講師)、中学校では、ALT・JET(中学校英会話講師)で指導している。</p>																				
実績・成果	<p>(数値を用いて具体的に、前年度等との比較)</p> <p>【人員体制】 ALT・7人 JAT・6人 JET・2人</p> <p>英会話科授業には、平成18年度から特区、平成21年度からは特例校として、取り組んできた。令和2年度から、新学習指導要領の全面実施に関連して、小学校は特例校の指定を廃止した。令和3年度は小学1・2年は英会話として10時間、小学3・4年は外国語活動として35時間、小学5・6年は外国語科として70時間、中学校は特例校の指定を継続し、英会話科として、中学1・2年は25時間、中学3年は35時間、ネイティブスピーカー(ALT)がなるべく参加し、授業を行った。</p> <p>英会話科では担任以外にALTやJAT、JETと複数の指導者がいることで、児童生徒と対一の直接会話の場面を多く取ることができている。</p> <p>児童生徒の英会話科に対する意識調査では、「英語の勉強は好きだ」という設問に対し、肯定的な回答の割合が、小学校1年生で94.8%である。この割合は学年が上がるほど、低くなる傾向にはあるが、中学校3年生においても64.3%が肯定的な回答をしており、児童生徒はコミュニケーション活動等を通じ全体的に楽しみながら学習している。</p> <p>英語検定については、新型コロナウイルス感染症の影響から、受検を控える生徒がいたことなどが影響し、取得率が下がったと考えられる。</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th colspan="3">中学生の英語検定3級以上の取得率</th> </tr> <tr> <th>年度</th> <th>黒部市(12月末)</th> <th>目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H30</td> <td>33.8%</td> <td rowspan="4">50.0%</td> </tr> <tr> <td>R元</td> <td>39.6%</td> </tr> <tr> <td>R2</td> <td>37.9%</td> </tr> <tr> <td>R3</td> <td>33.2%</td> </tr> </tbody> </table>						中学生の英語検定3級以上の取得率			年度	黒部市(12月末)	目標	H30	33.8%	50.0%	R元	39.6%	R2	37.9%	R3	33.2%
中学生の英語検定3級以上の取得率																					
年度	黒部市(12月末)	目標																			
H30	33.8%	50.0%																			
R元	39.6%																				
R2	37.9%																				
R3	33.2%																				
点検・評価	総合評価 B (前年評価 B)		5段階評価: A A, A, B, C, Dのいずれかを記載																		
	(上記の評価をした理由) 英語検定については、新型コロナウイルス感染症の影響から、取得率が下がったと考えられるが、児童生徒の英会話科に対する意識調査では、「英会話科の授業が好きだ」という項目に対し、肯定的な回答が多く、英会話に対する興味や意識の高揚につながっている。																				
課題・改善	(具体的な改善内容を記載) 英語検定実施日に学校行事や部活動の大会時期等と重ならないように学校とともに検討する必要がある。																				
今後の方向	(継続・拡充・縮小・廃止などを判断) 引き続き、国際化教育の推進に向け、英会話科授業のあり方等について検討していく。																				

個別事業名	(2) 英語サマーキャンプ																												
担当課等	学校教育課 庶務係																												
事業費	実績	計(千円)	国費	県費	その他	一般財源																							
	R 2	0																											
	R 3	0																											
趣旨等	<p>(本来の目標・目的・対象・意図)</p> <p>夏休みを利用し、ALT (外国語指導助手) と小学5・6年生、中学1年生による2泊3日の英語合宿を行う。</p> <p>共同生活をしながら、ワークショップ、スポーツ、キャンプファイヤー、バーベキューなど、英会話を交えた活動を通じ、英語や外国文化に親しみ、楽しみながら英語コミュニケーション能力の向上・強化を目指す。(会場：黒部市ふれあい交流館)</p> <p>毎回、希望者を募り実施する。(定員50人程度・参加者負担金5,000円/人)</p>																												
実績・成果	(数値を用いて具体的に、前年度等との比較)																												
	<p>1 参加者</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>小学生</th> <th>中学生</th> <th>小中計</th> <th>ALT</th> <th>英会話講師</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>R元</td> <td>37</td> <td>21</td> <td>58</td> <td>7</td> <td>7</td> </tr> <tr> <td>R 2</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>R 3</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table> <p>2 実施期間 令和3年8月23日(月)～8月25日(水) ※当初予定</p> <p>3 主な活動</p> <p>①チームタイム (最終日の英語劇発表に向け班ごとに劇の練習[全7回])</p> <p>②パフォーマンス (ALTと英会話講師による児童生徒参加型のクイズ等)</p> <p>③ALTインタビュー (全てのALTに対し1人ずつ質問をしまわるゲーム)</p> <p>④英語ワークショップ (ALTと英語を使いながら工作)</p> <p>⑤バーベキュー (異国の料理を調理)</p> <p>⑥キャンプファイヤー (英語を使ったアメリカ式のキャンプファイヤー)</p> <p>⑦プレゼンテーション (キャンプの集大成として英語による寸劇を披露)</p>						区分	小学生	中学生	小中計	ALT	英会話講師	R元	37	21	58	7	7	R 2	—	—	—	—	—	R 3	—	—	—	—
区分	小学生	中学生	小中計	ALT	英会話講師																								
R元	37	21	58	7	7																								
R 2	—	—	—	—	—																								
R 3	—	—	—	—	—																								
点検・評価	総合評価		C (前年評価 C)		5段階評価: AA, A, B, C, Dのいずれかを記載																								
	<p>(上記の評価をした理由)</p> <p>新型コロナウイルス感染症の影響により令和2年度同様中止となった</p>																												
課題・改善	<p>(具体的な改善内容を記載)</p> <p>例年においては、楽しみながら英会話や異文化に3日間、密に触れることができる活動となっており、興味関心を伸ばす面では大変有効な事業となっているが、英会話の力を伸ばすという面では課題がある。キャンプでの取組を学校へフィードバックする方法について検討する必要がある。</p> <p>関係者等からは、内容を精査し、1泊2日の事業とした方がよいのではないかとという意見もあり、所期の目的を達成しつつも、より参加しやすく、また様々なニーズに合った内容を検討する必要がある。</p> <p>複数回目の参加者だけでなく、英語に苦手意識をもつ児童生徒が興味を抱くような新たな活動を導入することも検討する必要がある。</p>																												
今後の方向	<p>(継続・拡充・縮小・廃止などを判断)</p> <p>例年においては、2泊3日の共同生活を通じ、日常英会話に繰り返し接することにより、英会話を身近に感じ、身に付けるよい機会となっている。児童生徒にとっても、夏休みにおける貴重な体験事業として定着しており、今後も内容の改善、発展に取り組みながら、引き続き実施する。</p>																												

個別事業名	(3) 姉妹都市交流研修事業																	
担当課等	学校教育課 庶務係																	
事業費	実績	計(千円)	国費	県費	その他	一般財源												
	R 2	0																
	R 3	0																
趣旨等	<p>(本来の目標・目的・対象・意図)</p> <p>姉妹都市のアメリカ(メーコン・ビブ郡)及びオランダ(スドウェスト・フリースラン市)との間で、生徒等の派遣及び受入を実施し、ホームステイ、学校訪問、交流活動、現地見学などを通じて、実践的な英語コミュニケーションの機会を得、外国文化に対する興味と理解を高める。</p>																	
実績・成果	<p>(数値を用いて具体的に、前年度等との比較)</p> <p><研修概要></p> <ul style="list-style-type: none"> ・期間 新型コロナウイルス感染症の影響により中止 ※前回派遣時は11月上中旬に実施。 ・研修地 アメリカ合衆国ジョージア州メーコン・ビブ郡 ・内容 ホームステイ(5泊)、学校訪問(3日間)、メーコン・ビブ郡市長表敬訪問など ・主催等 主催：黒部国際化教育推進協議会、共催：黒部市、黒部市教育委員会 <p><研修参加者></p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修生 なし ※市内2中学校から原則3年生各4人、2年生各4人 校長推薦 ・引率者 なし <p>新型コロナウイルス感染症の影響で出入国の際に、隔離期間が設けられており、学校生活等に多大な支障が生じることから、平常時でなければ海外研修の実施は困難であると判断し、やむなく事業を中止することとなった。</p> <p><交流研修実績(生徒数)></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>派遣</th> <th>受入</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>R元</td> <td>未実施(スドウェスト・フリースラン市)</td> <td>メーコン・ビブ郡(男子5人、女子10人)</td> </tr> <tr> <td>R2</td> <td>中止(メーコン・ビブ郡)</td> <td>未実施(スドウェスト・フリースラン市)</td> </tr> <tr> <td>R3</td> <td>中止(メーコン・ビブ郡)</td> <td>未実施(スドウェスト・フリースラン市)</td> </tr> </tbody> </table>						年度	派遣	受入	R元	未実施(スドウェスト・フリースラン市)	メーコン・ビブ郡(男子5人、女子10人)	R2	中止(メーコン・ビブ郡)	未実施(スドウェスト・フリースラン市)	R3	中止(メーコン・ビブ郡)	未実施(スドウェスト・フリースラン市)
年度	派遣	受入																
R元	未実施(スドウェスト・フリースラン市)	メーコン・ビブ郡(男子5人、女子10人)																
R2	中止(メーコン・ビブ郡)	未実施(スドウェスト・フリースラン市)																
R3	中止(メーコン・ビブ郡)	未実施(スドウェスト・フリースラン市)																
点検・評価	総合評価 C(前年評価 C)		5段階評価：AA, A, B, C, Dのいずれかを記載															
	<p>(上記の評価をした理由)</p> <p>例年においては、大変貴重な機会であり、参加する生徒も意欲をもって前向きに参加しているが、アメリカへの入国や日本への帰国の際の自主隔離期間等も考えると、平常時でなければ、事業の実施は困難である。</p>																	
課題・改善	<p>(具体的な改善内容を記載)</p> <p>メーコン・ビブ郡との交流事業の再開に向けて、受入先の担当者等と緊密に連携し、調整を図っていく必要がある。</p> <p>海外姉妹都市のうち、スドウェスト・フリースラン市(オランダ)との派遣交流が、先方の事情により途絶えており、市姉妹都市交流担当課と連携しながら、インターネットの活用を含め交流再開を模索していく必要がある。</p>																	
今後の方向	<p>(継続・拡充・縮小・廃止などを判断)</p> <p>黒部国際化教育の成果を実践的に発揮できる事業であり継続していく。</p>																	

個別事業名	(4) 帰国児童生徒・外国人児童生徒教育																											
担当課等	学校教育課 学校教育係																											
事業費	実績	計(千円)	国費	県費	その他	一般財源																						
	R 2	2,493			1,000	1,493																						
	R 3	2,715			1,100	1,615																						
趣旨等	<p>(本来の目標・目的・対象・意図)</p> <p>帰国児童生徒及び外国人児童生徒が、日本の学校生活、生活様式に適応できるように支援する。帰国児童生徒に対しては、一人ひとりに応じた学習指導を、外国人児童生徒に対しては、日本語指導を中心に行う。</p> <p>帰国児童生徒教育研究会に補助金を交付し、研究活動を促進する。</p>																											
実績・成果	<p>(数値を用いて具体的に、前年度等との比較)</p> <p>学校生活や生活様式における困りごとや悩みごとについて、個別に話を聞くなど、生活改善に努めてきた。また、一人ひとりの能力に応じた、個別指導(教室外)《指導書では「入り込み指導」「取り出し指導」と表記》を行うことにより、苦手教科の克服や日本語理解につながり、意欲的に学習に臨むなど、少しずつ学校生活に馴染めるようになった。</p> <p>〈在籍状況〉</p> <p>R 3 帰国児童生徒数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>人数</th> <th>内訳</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>帰国後3年未満</td> <td>18人</td> <td>小学生9人、中学生9人</td> <td rowspan="2">49人</td> </tr> <tr> <td>帰国後3年以上</td> <td>31人</td> <td>小学生14人、中学生17人</td> </tr> </tbody> </table> <p>R 3 外国人児童生徒数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>人数</th> <th>内訳(保護者国籍)</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>小学校</td> <td>11人</td> <td>ブラジル1人、パラグアイ1人、ブラジル・フィリピン1人、フィリピン3人、中国4人、中国・台湾1人、</td> <td rowspan="2">15人</td> </tr> <tr> <td>中学校</td> <td>4人</td> <td>ブラジル1人、ブラジル・フィリピン1人、中国1人、フィリピン1人、</td> </tr> </tbody> </table> <p>〈主な取組事例〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サマースクール ・個別指導(教室外)《入り込み指導 345回(中央小2人、たかせ小1人)、取り出し指導 79回(中央小1人、たかせ小1人)》 ・保護者会の実施(学校生活等の相談)2回 (1回目 大人3人、2回目 大人4人、子供4人) ・帰国児童生徒教育研究会による会報「Access」発行(年2回) ・外国の文化や生活についての掲示物の貸し出し 						区分	人数	内訳	計	帰国後3年未満	18人	小学生9人、中学生9人	49人	帰国後3年以上	31人	小学生14人、中学生17人	区分	人数	内訳(保護者国籍)	計	小学校	11人	ブラジル1人、パラグアイ1人、ブラジル・フィリピン1人、フィリピン3人、中国4人、中国・台湾1人、	15人	中学校	4人	ブラジル1人、ブラジル・フィリピン1人、中国1人、フィリピン1人、
	区分	人数	内訳	計																								
	帰国後3年未満	18人	小学生9人、中学生9人	49人																								
	帰国後3年以上	31人	小学生14人、中学生17人																									
区分	人数	内訳(保護者国籍)	計																									
小学校	11人	ブラジル1人、パラグアイ1人、ブラジル・フィリピン1人、フィリピン3人、中国4人、中国・台湾1人、	15人																									
中学校	4人	ブラジル1人、ブラジル・フィリピン1人、中国1人、フィリピン1人、																										
点検・評価	総合評価 A (前年評価 A)		5段階評価: A, A, B, C, Dのいずれかを記載																									
	<p>(上記の評価をした理由)</p> <p>個別指導(教室外)を通じた一人ひとりに相応しい指導により、対象の児童生徒は、学校生活に適応し、学習能力も高まった。</p> <p>保護者会では、進路や学校生活のことについて、活発に意見交流をすることができた。</p>																											
課題・改善	<p>(具体的な改善内容を記載)</p> <p>学校や学級担任との連携を図り、個々の児童生徒に応じた指導を継続する。</p> <p>個別指導や付き添い指導をしている外国人児童生徒のよさを生かしながら個別指導や付き添い指導ができるように、学習の様子や生活の状況を担任やスタディ・メイトと共有する。</p> <p>帰国・外国人児童生徒が編入した際に効果的な対応ができるように、これまでの指導事例や効果的な対応等について累積しておく必要がある。</p>																											
今後の方向	<p>(継続・拡充・縮小・廃止などを判断)</p> <p>課題・改善を踏まえ、帰国・外国人児童生徒への指導等を継続する。</p>																											

施策の分野	④特別支援教育
方針・目標	<ul style="list-style-type: none"> ・特別な支援が必要な幼児・児童・生徒に対する教育を推進するため、合理的配慮について子どもや保護者と合意形成を図るなど、支援体制の充実を図る。 ・専門機関等と連携を図りながら、一人ひとりの教育的ニーズに応じた適切な指導や支援を充実する。 ・学習の見通しをもたせる、分かりやすい言葉で短く話す、学習内容の理解を視覚的な支援を用いてサポートするなど、支援を必要とする子どもへの配慮は、すべての子どもに対して効果的であるという視点で、学校・学年・学級運営及び授業づくりに努める。

個別事業名	(1) 特別支援教育支援員(スタディ・メイト) 事業					
担当課等	学校教育課 学校教育係					
事業費	実績	計(千円)	国費	県費	その他	一般財源
	R 2	26,067				26,067
	R 3	25,735				25,735
趣旨等	<p>(本来の目標・目的・対象・意図)</p> <p>特別な支援を必要とする児童生徒への対応として、特別支援教育支援員(スタディ・メイト)を配置し、LD(学習障害)、ADHD(注意欠陥多動性障害)、自閉症等を含む障害のある子どもの学校生活の補助、黒板の読み上げ、教員の話の繰り返して聞かせるなどの学習サポート、校外活動の介助等の支援を実施する。</p>					
実績・成果	<p>(数値を用いて具体的に、前年度等との比較)</p> <p>支援が必要な児童生徒が、落ち着いて授業を受けたり、友達と仲よく遊んだりするなど、楽しく学校生活を過ごすことができるようになった。また、相乗効果として、学級全体が落ち着いた状態で学習に取り組むようになった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・配置数 小学校9校及び中学校2校に29人(前年度と同数) ・スタディ・メイト養成講座受講者(1人受講) ・市主催の研修会(12月13日開催 参加者25人) 					
点検・評価	総合評価 A(前年評価 A)		5段階評価: A, A, B, C, Dのいずれかを記載			
	<p>(上記の評価をした理由)</p> <p>児童生徒が落ち着いて授業を受け、学校生活を過ごすことができるようになったとともに教員の負担軽減にもつながった。</p> <p>市主催による、業務内容及び福利厚生の説明を行う研修会を開催したことで、他校のスタディ・メイトの状況や情報交換ができた。</p>					
課題・改善	<p>(具体的な改善内容を記載)</p> <p>学校やスタディ・メイト自身から勤務時間数や配置人員が足りないとの意見があるため、適正な時間・人員配分について検討する必要があると考えられる。</p>					
今後の方向	<p>(継続・拡充・縮小・廃止などを判断)</p> <p>支援を要する児童生徒の増加に伴い、一部の学校でスタディ・メイトの時間が不足している状況が見られるため、時間数の増や人員増について検討しつつ、事業を継続する。</p>					

施策の分野	⑤心の教育
方針・目標	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒に「道徳的な判断力・心情・実践意欲と態度」を育てるために、道徳教育の要となる「特別の教科 道徳」(道徳科)の授業についての研修を深め「考える道徳」「議論する道徳」の授業へと質的転換を図る。 ・生命を大切にし、感動する心をもった豊かな人間性を育むため、よりよい生き方を追求する道徳教育や自然に親しむ体験活動の充実を図るなど、教育活動全体を通して「心の教育」を推進する。 ・幼児・児童・生徒の自己有用感を高める。 ・望ましい人間関係を築こうとする態度や自律心の育成を図る。 ・最後までやり遂げようとする心と態度の育成を図る。 ・いじめや暴力行為、非行等の問題行動や不登校児童生徒を生まない、見逃さない環境(人的・物的)づくりと教育相談体制の整備・拡充に努める。 ・児童生徒及び教職員の「自分も相手も大切にする」という人権意識の高揚に取り組む。 ・児童生徒を複数の視点で見守り、「心」のサインや小さな変化を見逃さないようにする。 ・情報の共有と行動の一元化に向けてケース会議や学校いじめ対策組織による対策会議を計画的に開催し、チームによる支援を充実する。

個別事業名	(1) 豊かな体験活動推進事業					
担当課等	学校教育課 学校教育係					
事業費	実績	計(千円)	国費	県費	その他	一般財源
	R 2	2,560				2,560
	R 3	2,560				2,560
趣旨等	(本来の目標・目的・対象・意図) 生命を大切にし、自然に親しむ教育や体験学習の充実を図り、豊かな感性と人間性を育む。					
実績・成果	<p>(数値を用いて具体的に、前年度等との比較)</p> <p>市内9小学校、2中学校全ての学校で実施。(※児童生徒数等により予算配分)</p> <p>[小学校]</p> <p>学校の畑での野菜作りや、学校田での田植えや稲刈り体験を通し、農業の楽しさや大変さ、収穫の喜びを味わった。地域探検で見つけた昆虫や水生生物を飼育観察することで、自然の豊かさや環境保護の大切さを学んだ。</p> <p>また、例年行っている三世代交流や地域の工場見学など、地域住民との交流は新型コロナウイルス感染症の影響により縮小せざるを得なかったが、郷土文化を学び、地域の中で育ち、地域の一員であることや地域活力の大切さなどについて学んだ。</p> <p>[中学校]</p> <p>施設訪問や職場体験のかわりに福祉関連施設の職員や保護者を学校へ招いて講義してもらい、働くことの意義と大変さを学ぶとともに、両親への感謝の気持ちが芽生えた。北方領土に関する学習や活動に参加して、生活・文化・自然等を学習し、黒部との縁や歴史について理解を深めた。</p> <p>また、農作物の栽培、学校花壇の手入れ、合唱コンクールでのステージ発表など、幅広い分野での活動を展開した。</p>					
点検・評価	総合評価 AA (前年評価 AA)		5段階評価：AA, A, B, C, Dのいずれかを記載			
	(上記の評価をした理由) 企業見学や講演会を通じて、自ら学ぶ力、生きる力を身に付けることができた。 また、インターネットを活用して調べ学習を進めることで幅広いテーマについて調べ、自分なりの考えを深めることができた。					
課題・改善	(具体的な改善内容を記載) 学校、家庭、地域社会が密に連携し、活動を推進できる協力体制づくりを進め、児童生徒が自然体でたくましく育つ環境をつくっていく必要がある。 また、低下傾向にある家庭、地域の教育力を高める必要がある。					
今後の方向	(継続・拡充・縮小・廃止などを判断) 地域社会と連携を図りながら継続する。					

個別事業名	(2) いじめ不登校対策					
担当課等	学校教育課 学校教育係					
事業費	実績	計(千円)	国費	県費	その他	一般財源
	R 2	0				
	R 3	0				
趣旨等	(本来の目標・目的・対象・意図) いじめや不登校を生まない環境(人的・物的)づくりと教育相談体制の整備・充実に努める。					
実績・成果	(数値を用いて具体的に、前年度等との比較) [令和3年度のいじめの認知件数や長期欠席者の実態]					
		R 2		R 3		
		いじめ認知件数	長期欠席者数	いじめ認知件数	長期欠席者数	
	小学校	13件	29件	20件	30件	
	中学校	4件	30件	7件	41件	
<p><いじめ対策></p> <p>各学校では、毎学期学校いじめ防止基本方針に基づいて、いじめ見逃し0を目指すための視点に沿って達成目標を設定し、その達成状況を自己評価しながら、いじめの防止等の取組を進めた。特に、担任等が日々の児童生徒の様子の把握に努め、教職員間の情報共有により、学校や家庭と連携を図りながら、早期の指導に努めた。さらに、市教育委員会主催のいじめ問題に係る研修会の開催や、ネットいじめやSNSによる問題行動等の事案について機会を捉えて情報提供を行うようにした。</p> <p><不登校対策></p> <p>毎月各学校の欠席の多い児童生徒の調査を取りまとめ、実態の把握とともに改善の手立てについて、情報交換した。当該児童生徒については、担任や学年主任、生徒指導主事を中心に、児童生徒に積極的に声をかけたり電話連絡や家庭訪問をしたりしながら、信頼関係の構築や、保護者との連携にも配慮した。また、保健室登校の児童生徒には養護教諭、学校に足が向かない児童生徒には適応指導教室等との連携を図りながら、居場所づくりに努めた。</p> <p>黒部市教育センターを中心に、いじめの状況等や長期欠席者数等を分析し、校長会で各学校の取組等を検討し改善に向けて情報交換した。その他、カウンセリング指導員やスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、関係機関等の専門家の協力を得ながら、ケース会議や相談の場を設け、いじめや不登校の改善に向けて取組を進めた。</p>						
点検・評価	総合評価		A (前年評価 A)		5段階評価: A A, A, B, C, Dのいずれかを記載	
	(上記の評価をした理由) いじめに係るアンケートや面接等を通して、児童生徒の実態を把握し、いじめと思われる事案については、全校体制で早期に対応するよう努め、個別の指導や見守り、学年や学校全体での支援を継続することによって、いじめの解消につなげた。 不登校については、小中学校共に増加傾向で、問題が複雑化、長期化してきている。学校も保護者も対応策に苦慮しており、やや行き詰まり感がある。					
課題・改善	(具体的な改善内容を記載) 「いじめ見逃し0宣言ーいじめ問題に係る手引書ー」を活用した研修を継続し、いじめの未然防止や早期発見・適切な対応をより一層努めていく。不登校対策については、学校や家庭、関係機関との連携を深めながら対応を工夫していく必要がある。また、小中学校が連携を深め、一体となって対応を進めていく。さらには、タブレットを活用し、学校と不登校児童生徒が遠隔による心のつながりを図るようになっていく。					
今後の方向	(継続・拡充・縮小・廃止などを判断) 学校や家庭、関係機関と連携しながら充実に努めていく。					

施策の分野	⑥読書・情報教育
方針・目標	<ul style="list-style-type: none"> ・豊かな感性や創造性を育むため、幼児・児童・生徒が読書に親しむ環境の整備に努めるとともに、市立図書館とも連携しながら、「黒部市子ども読書活動推進計画」に基づいた活動を推進する。 ・情報や情報手段を適切に選択・活用する能力や情報モラルを育成するため、発達段階に応じた情報教育を推進する。

個別事業名	(1) 学校司書配置事業					
担当課等	学校教育課 学校教育係					
事業費	実績	計(千円)	国費	県費	その他	一般財源
	R 2	6,382				6,382
	R 3	6,948				6,948
趣旨等	(本来の目標・目的・対象・意図) 多くの図書に親しみ、豊かな感性や創造性を育む。					
実績・成果	<p>(数値を用いて具体的に、前年度等との比較)</p> <p>学校司書7人を週2～5回、全小中学校に派遣し、図書の紹介、読み聞かせ、図書の整理などを学校図書館担当教諭と共に行い、児童生徒の要望に応じて、市立図書館への図書の借用申請も積極的に行った。</p> <p>この他、読書に意欲的に取り組む児童生徒が増えるよう、全校一斉読書活動や朝読書の実施、地区ボランティアによる読み聞かせの会の開催など、図書に触れ合う機会を積極的に設定した。</p> <p>前年度予定されていた学校図書館問題研究会富山大会がオンラインで開催されたが、学校司書の参加はできなかった。また、市主催の研修会も未実施であった。</p>					
点検・評価	総合評価 A (前年評価 A)		5段階評価: A A, A, B, C, Dのいずれかを記載			
	(上記の評価をした理由) 文部科学省の学校図書館整備等5か年計画では平成29年度から令和3年度までに小中学校のおおむね1.5校に1人程度の学校司書配置を掲げているが、本市においてはこの目標に到達している。					
課題・改善	(具体的な改善内容を記載) 平成26年6月に学校図書館法の一部を改正する法律が施行され、学校司書が法律に位置付けられた。今後もこの体制を継続していく必要がある。					
今後の方向	(継続・拡充・縮小・廃止などを判断) 子どもたちの読書への関心を高めながら継続する。					

施策の分野	⑦キャリア教育
方針・目標	<ul style="list-style-type: none"> 一人ひとりの児童生徒のキャリア発達を促すよう指導・支援に努め、人間関係形成能力、自己管理能力、課題対応能力、キャリアプランニング能力等を育成する。 児童生徒一人ひとりが自己理解を深め、主体的に進路を選択できるよう体験的な活動を充実させ、望ましい勤労観や職業観の育成に努める。

個別事業名	(1) 14歳の挑戦事業					
担当課等	学校教育課 学校教育係					
事業費	実績	計(千円)	国費	県費	その他	一般財源
	R 2	0				
	R 3	687		343		344
趣旨等	<p>(本来の目標・目的・対象・意図)</p> <p>望ましい勤労観や職業観を身に付けた生徒を育てることを目的とし、市内全ての中学2年生が、5日間の職場体験活動に参加している。</p> <p>この活動を通じて、生徒の「生きる力」を育むとともに、家庭・地域の教育力の向上を図る。</p>					
実績・成果	<p>(数値を用いて具体的に、前年度等との比較)</p> <p>参加対象：市内2中学校2年生（令和3年度対象生徒数346人）</p> <p>実施期間：例年9月末から10月にかけての5日間で実施</p> <p>職場体験を通じて、自己肯定感の醸成、将来の目標設定につながり、健全な職業観の育成や働くことの意味を理解するなど社会性の育成に成果を挙げている。</p> <p>令和3年度は地域の企業に受け入れを打診したが、新型コロナウイルス感染症の影響により受け入れ先の確保が困難となったため、両中学校とも、企業から講師をお招きし、「働くこと」をテーマに講演を実施した。</p>					
	清明中学校	9月29日～30日、10月4日			3日間	講師8人
	明峰中学校	9月28日～30日				講師2人
点検・評価	<p>総合評価 B (前年評価 C) 5段階評価：A A, A, B, C, Dのいずれかを記載</p> <p>(上記の評価をした理由)</p> <p>新型コロナウイルス感染症の影響により受け入れ先の確保が困難となり中止の判断をした。職業体験は実施できなかったが、地域で働く人を学校に招いて話を聴く機会を設け、社会の一員として働くことの意味ややりがい等について意識を高めた。</p>					
課題・改善	<p>(具体的な改善内容を記載)</p> <p>コロナ禍において事業を実施するための受入事業所への協力要請と、受入事業所側の要望・ニーズへの対応の調整が課題である。</p>					
今後の方向	<p>(継続・拡充・縮小・廃止などを判断)</p> <p>市内事業者の理解度が高く、恒例の事業として定着しており、引き続き、家庭及び事業所との連携を密にしながら継続していく。</p>					

施策の分野	⑧健康・体力
方針・目標	<ul style="list-style-type: none"> 健康で豊かな生活を送る習慣の定着を図るため、学校給食や授業での食育指導、学校保健活動を通して、心身の健康づくりを推進する。 運動に親しみながら体力の向上を図るため、体育科・保健体育科の時間を中心とした体育的諸活動の充実、家庭や地域と連携した取組を推進する。

個別事業名	(1) 食育の取組																	
担当課等	学校給食センター 庶務係																	
事業費	実績	計(千円)	国費	県費	その他	一般財源												
	R 2	0																
	R 3	0																
趣旨等	<p>(本来の目標・目的・対象・意図)</p> <p>地域、学校、家庭との連携・協力を図りながら、学校給食を通じて、豊かな心を育み、健康な人間の育成を目指す。知育・徳育・体育のバランスの取れた教育を推進するために、調査等を行い、その結果を基に実施する。</p>																	
実績・成果	<p>(数値を用いて具体的に、前年度等との比較)</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童・保護者に対して食に関する教育の実施 (栄養教諭等が学校訪問した回数) <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>給食回数</th> <th>授業時間</th> <th>訪問校</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>R 2</td> <td>37 回/年間</td> <td>0 時間/年間</td> <td>8 校</td> </tr> <tr> <td>R 3</td> <td>10 回/年間</td> <td>0 時間/年間</td> <td>3 校</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> 黒部市学校給食研究会 「食への理解を深め、健康に生きるための望ましい食習慣を身に付ける指導はどうあるべきか」をテーマに各学校で研究実践を行った。 						年度	給食回数	授業時間	訪問校	R 2	37 回/年間	0 時間/年間	8 校	R 3	10 回/年間	0 時間/年間	3 校
年度	給食回数	授業時間	訪問校															
R 2	37 回/年間	0 時間/年間	8 校															
R 3	10 回/年間	0 時間/年間	3 校															
点検・評価	総合評価 A (前年評価 B)		5段階評価: A A, A, B, C, Dのいずれかを記載															
	<p>(上記の評価をした理由)</p> <p>学校給食訪問は、新型コロナウイルス感染症予防のため、各小学校の巡回の回数を減らしたが、実施できた。</p> <p>また、巡回の回数が減ったが、その分を補うためにあいさつ、姿勢、食べ方など給食マナーに関する呼び掛けやポスター掲示 (7回⇒11回/年間)、保護者へのお知らせ (ホームページ (閲覧数 2,248 件) 昨年度の 1.5 倍) などの積極的な取組を行った。</p>																	
課題・改善	<p>(具体的な改善内容を記載)</p> <p>小学生や中学生の朝食摂取率や偏食率は若干変動が見られるが、全体的に前年度とほぼ横ばいだった。引き続き食事の回数についてのみならず、食事の内容について指導する必要がある。</p> <p>食育指導は、生涯にわたり健やかな体と心を保ちながら生きる能力を身に付けるために必要である。今後も「黒部市食育推進計画」に基づき、各学校での指導の成果と課題を明確にしなが、学校給食や各教科の中で、食育に関する指導を行うことが求められる。</p>																	
今後の方向	(継続・拡充・縮小・廃止などを判断) 継続して実施する。																	

個別事業名	(2) 体力の向上・「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」					
担当課等	学校教育課 学校教育係、教育センター					
事業費	実績	計(千円)	国費	県費	その他	一般財源
	R 2	0				
	R 3	0				
趣旨等	<p>(本来の目標・目的・対象・意図)</p> <p>「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」の結果をもとに、市内の児童生徒の体力、運動能力、運動習慣の状況を把握・分析し、体力向上に係る施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。</p>					
実績・成果	<p>(数値を用いて具体的に、前年度等との比較)</p> <p>小学5年生において「令和3年度富山県児童生徒体力・運動能力」の入学年度別経年比較では、男子はどの項目においても、小学校2年生時より県平均を上回っている。また、女子についても、ほとんどの項目で県平均を上回っている。このことから、体力・運動能力の高い学年であると考えられる。なお、前回の調査より長座体前屈の伸びが大きく、体育の授業の始めや終わりに、柔軟運動を意識して取り入れていることが成果であると考えられる。</p> <p>中学2年生において「令和3年度富山県児童生徒体力・運動能力」の入学年度別経年比較では、男女とも6年生時と比較すると、50m走に落ち込みが見られる一方で、20mシャトルランの伸びが大きい。体育館の上にランニング走路があり、いつでも走る環境が、持久力の伸びにつながっていると考えられる。また、反復横跳びにおいて、男子は6年生時より改善がみられる。このことから、敏捷性や走力を高めるために、ジャンプ系やダッシュ系のトレーニング、腕振りやもも上げ等を授業の開始時にウォーミングアップとして取り入れていくのがよいと思われる。</p>					
点検・評価	総合評価 A (前年評価 A)		5段階評価: A A, A, B, C, Dのいずれかを記載			
	<p>(上記の評価をした理由)</p> <p>「学校の新しい生活様式」における体力づくり等について課題を取り上げ、研修会を開催したことにより、各学校において、科学的な根拠に基づいた体力づくり等の企画・運営に繋がった。</p>					
課題・改善	<p>(具体的な改善内容を記載)</p> <p>新型コロナウイルス感染症拡大防止を踏まえた生活様式や運動の仕方が児童生徒に求められている。児童生徒の体力・運動能力の課題を把握し、その解決策を考えていくことが必要である。</p>					
今後の方向	<p>(継続・拡充・縮小・廃止などを判断)</p> <p>課題・改善を踏まえ、継続する。</p>					

個別事業名	(3) スポーツエキスパート派遣事業																	
担当課等	学校教育課 学校教育係																	
事業費	実績	計(千円)	国費	県費	その他	一般財源												
	R 2	1,221		288		933												
	R 3	1,287		240		1,047												
趣旨等	<p>(本来の目標・目的・対象・意図)</p> <p>中学校運動部に、スポーツの専門的な技術指導者（外部指導者：スポーツエキスパート）を派遣し、運動部顧問と連携を取りながら中学校の部活動の充実と生徒の体力向上を図る。</p>																	
実績・成果	<p>(数値を用いて具体的に、前年度等との比較)</p> <p>派遣者数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>学校名</th> <th>清明中</th> <th>明峰中</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>R 2</td> <td>11 人</td> <td>12 人</td> <td>23 人</td> </tr> <tr> <td>R 3</td> <td>13 人</td> <td>11 人</td> <td>24 人</td> </tr> </tbody> </table> <p>実技指導力を有する 24 人をスポーツエキスパートとして委嘱し、市内両中学校に派遣した。スポーツエキスパートの指導により、部活動の活性化を図り、生徒の競技力の向上や部活動を通じた連帯感の醸成、達成感を得ることができた。</p> <p>指導者（24 人：野球、剣道、卓球、柔道、バスケットボール、バドミントン、ソフトテニス、陸上競技、バレーボール、サッカー、アーチェリー）</p> <p>※スポーツエキスパートについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員以外のスポーツの専門的実技指導力を有する 20 歳以上の者に対し、競技歴、取得ライセンス、指導歴などを踏まえ教育委員会が委嘱する。 ・1 回の指導は 2 時間程度（年間 30 回を上限：県 24 回＋市 6 回） 						学校名	清明中	明峰中	計	R 2	11 人	12 人	23 人	R 3	13 人	11 人	24 人
	学校名	清明中	明峰中	計														
	R 2	11 人	12 人	23 人														
R 3	13 人	11 人	24 人															
点検・評価	総合評価		A（前年評価	A）														
	5段階評価：AA, A, B, C, Dのいずれかを記載																	
課題・改善	<p>(上記の評価をした理由)</p> <p>生徒をスポーツに親しませながら、健康と体力の増進、競技力の向上を図ることができたとともに、教員（部活動顧問）の負担軽減につながった。</p>																	
	<p>(具体的な改善内容を記載)</p> <p>地域部活動への移行を踏まえ、必要な部活動と人員の見直しを検討する必要がある。</p>																	
今後の方向	<p>(継続・拡充・縮小・廃止などを判断)</p> <p>各部活動の所属生徒数や活動状況に応じて適切な規模が維持できるよう継続する方向である。</p>																	

個別事業名	(4) 給食センターの衛生管理、調理・洗浄業務、給食配送業務					
担当課等	学校給食センター 庶務係					
事業費	実績	計(千円)	国費	県費	その他	一般財源
	R 2	99,551			16	99,535
	R 3	111,918			16	111,902
趣旨等	<p>(本来の目標・目的・対象・意図)</p> <p>給食センターの給食受配校（2中学校、8小学校、1幼稚園）に対し、安全・安心な給食を確実に提供するため、衛生管理の徹底及び調理・洗浄・配送業務の適切な実施を図る。</p>					
実績・成果	<p>(数値を用いて具体的に、前年度等との比較)</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和3年度給食実施実績（遅滞なく完全実施） 実施延べ日数 204日 延べ給食数（副食）626,859食（約3,073食/日） 衛生管理の徹底（健康管理、食材の検収、設備点検の強化） 食中毒 0件（前年度0件） 副食への虫等の異物混入 8件（前年度 7件） 調理・洗浄業務、給食配送業務の業務委託 各業務を専門業者へ委託するとともに、適切な指示と各々の連携により、迅速かつ確実に業務が遂行された。 					
点検・評価	総合評価 A（前年評価 A）		5段階評価：AA, A, B, C, Dのいずれかを記載			
	<p>(上記の評価をした理由)</p> <ul style="list-style-type: none"> 給食実施日において、新型コロナウイルス感染症対策として、学期の開始や終了時期が変則となったりしたが、滞りなく給食を提供することができた。また、適切に対応できるような環境（食材の納入量や献立内容の調整・準備）を整え、給食を欠くことなく完全実施できた。 食材の検収や下処理等の観察により異物混入を最小限に抑えることができた。（副食の場合、給食配送前に異物を約98.5%発見（R2:90.8%） 給食配送業務において、学校の要望に応じた配送時間の変更について適宜対応できた。 					
課題・改善	<p>(具体的な改善内容を記載)</p> <p>衛生管理や調理・洗浄業務、配送業務は概ね適切に実施されている。今後、施設の老朽化に伴う設備の保守点検の強化、計画的な設備の更新が必要である。</p>					
今後の方向	<p>(継続・拡充・縮小・廃止などを判断)</p> <p>調理・洗浄業務及び配送業務について、5年毎に委託業者の見直しを行うとともに、業務実態（給食配給校の変更等）に応じて委託内容を検討する。</p>					

施策の分野	⑨安全
方針・目標	<ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園、学校の安全な環境づくりのため、保護者や地域住民と共に幼児・児童・生徒を守る地域ぐるみのネットワークづくりを推進する。 ・事故や災害、不審者等への幼児・児童・生徒の危険に対する確かな判断力や対応力を高めるため、安全教育(生活安全や交通安全)や防災・防犯教育を一層推進する。

個別事業名	(1) 安全管理																																	
担当課等	学校教育課 学校教育係																																	
事業費	実績	計(千円)	国費	県費	その他	一般財源																												
	R 2	473		304		159																												
	R 3	515		342		173																												
趣旨等	(本来の目標・目的・対象・意図) 児童生徒が、安全に安心して学校生活を送ることができるように、必要な事業を学校、地域、家庭が連携して実施する。																																	
実績・成果	(数値を用いて具体的に、前年度等との比較)																																	
	交通・防犯関係では、幸いにも年度中は、児童生徒の生命に関わる重大事故等の事案は発生しなかったが、児童生徒が関係する交通事故が9件発生した。																																	
	通学路に関して、平成28年度より通学路合同点検を行っているが、通常の交通安全の観点に加え、防犯の観点も含めた安全点検として8月に関係部局と実施した。																																	
	この他、例年どおり小学校新1年生に防犯ブザーを貸与し、登下校時の自己防衛について指導を行った。 また、不審者情報については、速やかに各小中学校に情報提供した。																																	
	<table border="1"> <tr> <td colspan="7">〈新1年生防犯ブザー貸与者数〉</td> </tr> <tr> <td>年度</td> <td colspan="6">貸与者数</td> </tr> <tr> <td>R 2</td> <td colspan="6">307人</td> </tr> <tr> <td>R 3</td> <td colspan="6">352人</td> </tr> </table>						〈新1年生防犯ブザー貸与者数〉							年度	貸与者数						R 2	307人						R 3	352人					
〈新1年生防犯ブザー貸与者数〉																																		
年度	貸与者数																																	
R 2	307人																																	
R 3	352人																																	
	<table border="1"> <tr> <td colspan="5">〈不審者情報〉</td> </tr> <tr> <td>年度</td> <td>不審者情報</td> <td>不審電話情報</td> <td>その他情報</td> <td>合計</td> </tr> <tr> <td>R 2</td> <td>5件</td> <td>0件</td> <td>0件</td> <td>5件</td> </tr> <tr> <td>R 3</td> <td>6件</td> <td>0件</td> <td>0件</td> <td>6件</td> </tr> </table>						〈不審者情報〉					年度	不審者情報	不審電話情報	その他情報	合計	R 2	5件	0件	0件	5件	R 3	6件	0件	0件	6件								
〈不審者情報〉																																		
年度	不審者情報	不審電話情報	その他情報	合計																														
R 2	5件	0件	0件	5件																														
R 3	6件	0件	0件	6件																														
	※黒部市のみの件数(その他情報にクマ出没情報は含まれていない。)																																	
点検・評価	総合評価		A (前年評価 A)		5段階評価: AA, A, B, C, Dのいずれかを記載																													
	(上記の評価をした理由) 平成28年度より通学路合同点検を行っているが、8月に交通安全と防犯の両面の観点から通学路合同点検を関係部局と行った。他県で発生した通学中の児童が死傷する事故を受け、観点を絞り点検箇所を選定、現地確認を実施した。 また、国の補助事業を活用して地域の安全パトロール隊のベスト等の物品購入費用を助成し、児童生徒の見守り体制を拡充した。																																	
課題・改善	(具体的な改善内容を記載) 交通や防犯の観点から、関係部局と通学路の点検を行っているが、費用面で信号機を設置できないなど、対策が難しい箇所も多い。引き続き関係部局と連携を続けていくほか、地域の安全パトロール隊等の協力も得ていく必要がある。																																	
今後の方向	(継続・拡充・縮小・廃止などを判断) 引き続き、小学校新1年生全員へ防犯ブザーの貸与を行うほか、国の補助事業を活用した地域の安全パトロール隊への防犯ベスト購入等について助成するなどの拡充を図る。																																	

個別事業名	(2) 遠距離通学対策（スクールバス運行事業・通学定期券補助金）					
担当課等	学校教育課 庶務係					
事業費	実績	計(千円)	国費	県費	その他	一般財源
	R 2	50,198	2,716			47,482
	R 3	52,516	2,290			50,226
趣旨等	<p>(本来の目標・目的・対象・意図)</p> <p>遠距離児童生徒の通学手段を確保するため、スクールバスの運行及び電車通学に要する定期券購入費用に対し補助する。</p>					
実績・成果	(数値を用いて具体的に、前年度等とも比較)					
	1 スクールバス運行実績					
	学校名	対象エリア	運行期間	使用バス	利用人数	
	たかせ小学校	東布施	通年	大型(市有)	41人	
		鏡野・上田家野	冬期	ジャボタクシー	5人	
	桜井小学校	高速道路山側	通年	マイクロ(市有)	9人	
		山田新の一部	冬期	冬期はジャボタクシー併用	20人	
	宇奈月小学校	愛本、下立1区	通年	マイクロ(市有)	22人	
	清明中学校	浜石田、犬山	通年	マイクロ(市有)	21人	
		犬山、田家新	通年	中型(市有)	33人	
		田家新、田家野、山田	通年	大型(市有)	53人	
		田家野、神谷、山田	通年	マイクロ(市有)	27人	
		東布施	通年	中型(市有)	19人	
	明峰中学校	愛本	通年	ワゴン(市有)	6人	
	※通年：4/1～3/31 (概ね小学校4km超、中学校6km超) ※冬期：12/1～3/31 (概ね小学校2km超、中学校3km超)					
2 通学定期券補助実績(富山地方鉄道)						
学校名	区間	補助期間	補助率	利用人数		
宇奈月小学校	宇奈月温泉駅 ～ 愛本駅	→浦山駅	通年	全額	22人	
	下立駅 栃屋駅	〃	冬期	1/2	27人	
	宇奈月温泉駅 ～ 栃屋駅	→荻生駅	通年	全額	118人	
点検・評価	総合評価 A (前年評価 A)		5段階評価：A, A, A, B, C, Dのいずれかを記載			
(上記の評価をした理由)						
<ul style="list-style-type: none"> ・遠距離児童生徒の通学手段を確保し、登下校の安全確保及び通学時間の平準化と短縮化が図られた。 ・基本的な新型コロナウイルス感染症対策(車内除菌、車内換気、手指消毒液の配置など)に加えて、乗車率を緩和できるよう適宜対策を図りながら遠距離通学対策を実施した。 ・学校、バス運行業者、富山地方鉄道(株)と緊密な連絡調整を行った。 						
課題・改善	(具体的な改善内容を記載)					
<ul style="list-style-type: none"> ・両中学校の遠距離通学対策の円滑な実施に努めるとともに、全般的により安全な遠距離通学対策に留意する必要がある。 						
今後の方向	(継続・拡充・縮小・廃止などを判断)					
<ul style="list-style-type: none"> ・通学時間の平準化と短縮化を図るため、スクールバスの運行及び通学定期券補助を継続していく。 						

個別事業名	(3) AED管理事業					
担当課等	学校教育課 学校教育係					
事業費	実績	計(千円)	国費	県費	その他	一般財源
	R 2	1,405				1,405
	R 3	774				774
趣旨等	<p>(本来の目標・目的・対象・意図)</p> <p>AED(自動体外式除細動器)を全小中学校に配置し、緊急時の児童生徒の救命に資する。小学校は各校1台(生地小学校、石田小学校は2台、旧東布施小学校1台、合計12台設置。中学校は、清明中学校1台、明峰中学校2台、旧鷹施中学校1台、旧宇奈月中学校1台、合計5台設置し、小中合計17台設置している。</p>					
実績・成果	<p>(数値を用いて具体的に、前年度等との比較)</p> <p>AEDの設置により、日頃の学校活動及び学校施設を利用した児童生徒のスポーツ活動を安心して実施することができた。</p> <p>AEDの管理記録がいつでも誰でも分かるよう、また、毎月の管理記録を随時、確認した。</p> <p>教職員を対象としたAED講習会は、過去3年間において全職員が受講できるよう計画的に実施している。</p>					
点検・評価	総合評価 A (前年評価 A)		5段階評価: A, A, B, C, Dのいずれかを記載			
	<p>(上記の評価をした理由)</p> <p>滞りなく定期点検、パット取替、バッテリー交換を行い、適切に管理できた。</p>					
課題・改善	<p>(具体的な改善内容を記載)</p> <p>AEDの使用方法の周知のみならず、全職員が緊急時に対応できるよう、救命救急講習を併せて実施していく必要がある。</p>					
今後の方向	<p>(継続・拡充・縮小・廃止などを判断)</p> <p>AEDの保守点検を毎年実施していく。</p> <p>全ての教職員が常に心肺蘇生処置を実施できるよう、計画的に研修を行う。</p>					

施策の分野	⑩教育環境の整備
方針・目標	<ul style="list-style-type: none"> ・安全で安心して学習できる環境を整備するため、老朽施設の改修や改築、学校施設の空調化の計画的実施に努める。 ・高度情報化に対応して、ICT機器の設備・備品の整備及び保守点検に努める。 ・児童生徒が望ましい教育環境の中でたくましく育つように、「黒部市立小中学校再編計画」に基づき、今後の児童生徒数の見通し、通学上の安全性や遠距離通学対策等を考慮しながら、保護者及び地域の理解と協力のもと、学校規模(児童生徒数、学級数)の適正化に努める。

個別事業名	(1) 学校施設の大規模改修・耐震補強工事					
担当課等	学校教育課 施設係					
事業費	実績	計(千円)	国費	県費	その他	一般財源
	R 2	77,638	23,817		40,200	13,351
	R 3	178,053	93,162		84,100	791
趣旨等	(本来の目標・目的・対象・意図) 経年劣化などによる施設の改修及び学校活動に適した質的施設整備を行い、よりよい学習環境の改善を図ることを目的とする。					
実績・成果	(数値を用いて具体的に、前年度等との比較) 以下の整備等を実施した。 R 2 ・中央小学校プール耐震補強工事 ・黒部市学校施設長寿命化計画の策定 R 3 ・生地小学校プール耐震補強工事 ・小学校ランチルーム空調設備設置工事					
点検・評価	総合評価 A (前年評価 A)		5段階評価: A A, A, B, C, Dのいずれかを記載			
	(上記の評価をした理由) 設置から44年が経過し、老朽化していた生地小学校プールについて、耐震補強工事を行い、近代的なFRP製のプールへと改修した。 また、暑さ対策や新型コロナウイルス感染症対策等のため、全小学校のランチルームに空調の整備を完了した。					
課題・改善	(具体的な改善内容を記載) 所管課や教職員をはじめとする関係者が協議して策定する施設整備計画及び個別施設の長寿命化計画に基づいた、的確かつ経済的な施設整備が必要である。					
今後の方向	(継続・拡充・縮小・廃止などを判断) 引き続き児童生徒の安全・安心を第一義として、しっかりと学習に取り組むことができる、望ましい学習環境を整備していく。 そのために、策定した学校施設長寿命化計画を基に、状況の変化を踏まえつつ、各学校の大規模改修を進めていく。 【今後の予定】 <令和4年度以降> ・小学校トイレ環境改善工事(洋式化及び多機能トイレの設置) ・小学校外壁、屋上防水改修工事					

個別事業名	(2) 黒部市立小中学校再編計画の推進					
担当課等	学校教育課 庶務係					
事業費	実績	計(千円)	国費	県費	その他	一般財源
	R 2	6,252			3,000	3,252
	R 3	0				
趣旨等	<p>(本来の目標・目的・対象・意図)</p> <p>平成24年10月に策定した「黒部市立小中学校再編計画」に基づき、適正な学校規模の実現を図る。今後の児童生徒数の見通しを踏まえつつ、各学校の教育活動、家庭・学校・地域との関係、学校教育施設の状況、市民の意向、新たな通学区域の設定と通学環境の安全性確保などを考慮した上で、計画の着実な実施を推進する。</p> <p>【計画期間】平成25年度～令和9年度（15年間）</p> <p>＊前期計画：平成25～平成29年度（小学校再編：東布施・田家、前沢・三日市）</p> <p>＊後期計画：平成30～令和4年度（中学校再編：宇奈月・桜井、鷹施・高志野）</p> <p>＊将来構想：令和5～令和9年度（小学校再編：生地・村椿、荻生・若栗）</p>					
実績・成果	<p>(数値を用いて具体的に、前年度等との比較)</p> <p>1 小学校の統合</p> <p>(1) 学校教育基本計画及び小学校再編計画基礎調査の実施</p> <p>学校の適正規模という観点や将来の児童数推計にも改めて留意しながら、いくつかの学校再編パターンについて内部検討を行った。</p> <p>2 中学校の統合</p> <p>令和2年度に清明中学校と明峰中学校が開校しており、令和3年度については中学校統合に関する事業はなし。</p> <p>3 その他</p> <p>(1) 跡地利活用の検討</p> <p>上記基礎調査に関連して、旧学校施設4校について対話型市場調査の結果、それぞれ利活用案の提案者と個別ヒアリングを継続的に行った。</p>					
点検・評価	総合評価 A (前年評価 A)		5段階評価：A A, A, B, C, Dのいずれかを記載			
	(上記の評価をした理由)					
課題・改善	<p>(具体的な改善内容を記載)</p> <p>小学校の再編や閉校となった旧学校施設の跡地利用等について検討を深める必要がある。</p>					
今後の方向	<p>(継続・拡充・縮小・廃止などを判断)</p> <p>小学校の再編については、令和4年度において学校規模の考え方等を段階的に示せるよう、引き続き内部検討を進める。小中学校の跡地利用については「黒部市未来会議」などの市民の声を踏まえつつ、公有財産活用検討委員会で議論を進めていく。</p>					

(3) 生きがいと心身の健康を支援する社会教育及びスポーツ

施策の分野	①青少年の健全育成
方針・目標	<ul style="list-style-type: none"> ・青少年の社会性を育むため、地域において多様な体験活動の場を提供するなど、家庭・学校・地域・関係機関の連携のもとに青少年の健全育成に努める。 ・身近な自然環境や吉田科学館を活用して、青少年期の自然や科学への興味・関心を育てる。

個別事業名	(1) 青少年育成黒部市民会議助成事業														
当課等	生涯学習文化課 女性青少年係														
事業費	実績	計(千円)	国費	県費	その他	一般財源									
	R 2	108				108									
	R 3	108				108									
趣旨等	<p>(本来の目標・目的・対象・意図)</p> <p>青少年育成黒部市民会議補助を行い、県民会議との連携や市の様々な青少年行事を通じて青少年の健全育成を図っている。(主な行事：夏・秋のさわやか運動、11 月子ども・若者育成市民啓発事業、意見発表大会、善行青少年表彰式、有害環境浄化パトロール等)</p>														
実績・成果	<p>(数値を用いて具体的に、前年度等との比較)</p> <p>夏と秋のさわやか運動では、あいの風黒部駅等市内 6 カ所で、通学・通勤者に対してのあいさつや声かけ運動を実施した。</p> <p>青少年健全育成の啓発として、他団体(2 団体)の活動報告を聞き、活動の幅を広げる機会を設けた。また、コロナ禍における学校教育現場の取組みをテーマに講演を実施した。</p> <p>少年少女活動実践意見発表大会では、児童・生徒が日常の体験で感じたことや実践に基づく意見発表(5 人)の場を設け、学校や地域での活動が今後の模範として認められる青少年(6 個人、9 団体)に対して、善行青少年表彰を行った。</p> <p>有害環境浄化パトロールでは、市内のコンビニ・書店等の店主等に対して有害環境浄化への理解と協力を求めるとともに、児童生徒の利用状況等の聞き取りを行った。</p> <p>また、夏休みと冬休み前には、休み中の安全な過ごし方を呼び掛けるチラシを市民会議と教育委員会が共同で作成し、市内小中学生全員に配布している。</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th>行事名</th> <th>R 2 参加人数</th> <th>R 3 参加人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>夏のさわやか運動</td> <td>中止</td> <td>112 人</td> </tr> <tr> <td>秋のさわやか運動</td> <td>45 人(市民会議会員のみ)</td> <td>111 人</td> </tr> </tbody> </table>						行事名	R 2 参加人数	R 3 参加人数	夏のさわやか運動	中止	112 人	秋のさわやか運動	45 人(市民会議会員のみ)	111 人
行事名	R 2 参加人数	R 3 参加人数													
夏のさわやか運動	中止	112 人													
秋のさわやか運動	45 人(市民会議会員のみ)	111 人													
点検・評価	総合評価	A (前年評価 A)	5段階評価：A A, A, B, C, Dのいずれかを記載												
	<p>(上記の評価をした理由)</p> <p>コロナ感染対策を徹底し、規模縮小等の工夫をしながら各事業を実施した。毎年 11 月の「子ども・若者育成支援強調月間」に合わせ、子ども・若者育成支援のための諸事業、諸活動を集中的に実施することにより、市民の子ども・若者育成支援に対する理解を深めるとともに、各種活動への積極的な参加を促し、市民運動の一層の充実と定着を図った。</p>														
課題・改善	<p>(具体的な改善内容を記載)</p> <p>青少年問題が複雑多様化している今日、青少年一人ひとりに目を向け、地域で守り育てる意識づけ、環境づくりをしていく必要がある。そのためには、市民会議が積み重ねてきた活動を今後も継続していくとともに、関係団体との連携を強化し、効果的な活動や呼び掛けを行い、地域全体で青少年問題に取り組んでいく必要がある。</p>														
今後の方向	<p>(継続・拡充・縮小・廃止などを判断)</p> <p>青少年育成黒部市民会議運営費補助金については今後も継続する。また、市民会議の活動への助成だけではなく、市として青少年の健全育成の呼び掛けや若者をサポートする活動を検討していくとともに、関係団体の自発的な活動の促進に努める。</p>														

施策の分野	②女性活動事業の推進
方針・目標	<ul style="list-style-type: none"> ・「くろべ男女共同参画プラン」に基づき、男女間のあらゆる暴力の根絶と安全・安心で心豊かに暮らせるように活動を支援する。 ・男女共同参画都市宣言等の普及啓発活動や地域社会全体の連携を図りながら、男女で支え合う地域づくりを推進する。

個別事業名	(1) 配偶者等暴力被害者相談事業																	
担当課等	生涯学習文化課 女性青少年係																	
事業費	実績	計(千円)	国費	県費	その他	一般財源												
	R 2	282				282												
	R 3	282				282												
趣旨等	<p>(本来の目標・目的・対象・意図)</p> <p>DV (ドメスティック・バイオレンス: Domestic Violence の略) の実態は、国においても大きな問題であり、配偶者等からの暴力をめぐる問題は年々増えており、潜在化しているものも多いと考えられる。DV法改正により市町村での対応強化と被害防止が求められている。市では総合振興計画個別事業の重点事業である男女共同参画事業の中において配偶者等暴力被害者への支援策として位置付けている「女性のための専門相談」を定期的実施し、女性が悩みを相談しやすいよう専門知識をもつ民間カウンセラーが定期的に対応し、切れ目のない支援を行うことを目的とする。</p>																	
実績・成果	<p>(数値を用いて具体的に、前年度等との比較)</p> <p>DV相談の専門知識を有する女性の相談員が対応することや、予約から相談まで人目を気にせず行える体制とするなど、安心して相談できる仕組みを整え実施した。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>実施回数</th> <th>相談者数</th> <th>相談件数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>R 2</td> <td>12回</td> <td>16人</td> <td>8件</td> </tr> <tr> <td>R 3</td> <td>12回</td> <td>10人</td> <td>13件</td> </tr> </tbody> </table> <p>「女性のための専門相談」の開催日時を広報くろべと市ホームページに掲載し、周知を行った。また、相談日程等を明記したミニリーフレットを市内公共施設の女性トイレに設置し、潜在的な相談を必要とする方への周知に努めた。</p> <p>また、相談窓口を有する課の担当者を対象とした研修会を開催し、DV被害に関する知識と被害支援を行う職員自身の二次受傷の予防について学習した。</p>						年度	実施回数	相談者数	相談件数	R 2	12回	16人	8件	R 3	12回	10人	13件
年度	実施回数	相談者数	相談件数															
R 2	12回	16人	8件															
R 3	12回	10人	13件															
点検・評価	総合評価 A (前年評価 A)		5段階評価: A A, A, B, C, Dのいずれかを記載															
	<p>(上記の評価をした理由)</p> <p>民間の専門知識を備えたカウンセラーが相談に応じ、個人のプライバシーにも十二分に配慮し、安心して利用できるように実施している。</p> <p>現状としては、相談窓口の予約にまで結びついていないことも想定し、ミニリーフレットを設置することにより、潜在的な支援を必要とする方への利用啓発に努めている。</p>																	
課題・改善	<p>(具体的な改善内容を記載)</p> <p>DVは周囲の目に触れない閉鎖した場所で行われることが多く、潜在化し被害が深刻化しやすい。最近では若いカップルや若い夫婦間でのDVが増加傾向にあり、被害者が怪我を負う事案も多く見られる。被害者が家庭内で孤立しないよう、そして重大事件や事故になる前に、相談できる場所があるということを更に周知し、相談利用を促進することにより、必要な支援につなげていかなければならない。また、継続して寄り添う伴走型支援により支援の幅を広げ、相談者と相談員の信頼関係を築きながら安心して相談できる見守り体制が必要である。</p>																	
今後の方向	<p>(継続・拡充・縮小・廃止などを判断)</p> <p>近年の相談者は、DVや生活困窮、高齢者、障がい、子育て分野などの重層的な課題を抱え、DVであれば生涯学習文化課、生活困窮であれば福祉課といったように相談先が多岐にわたるケースが増えている。そのため、関係各課が連携・情報共有を行うなど、相談体制の充実に努め、被害者の支援に取り組む必要がある。</p>																	

個別事業名	(2) 女性団体の育成					
担当課等	生涯学習文化課 女性青少年係					
事業費	実績	計(千円)	国費	県費	その他	一般財源
	R 2	108				108
	R 3	108				108
趣旨等	<p>(本来の目標・目的・対象・意図)</p> <p>市内6団体で構成する「くろべ女性団体連絡協議会」を中心とした女性団体の組織力向上と福祉の増進に努め、女性活動の活性化と各種事業を推進することにより、女性リーダーの育成を目指す。</p>					
実績・成果	<p>(数値を用いて具体的に、前年度などとも比較)</p> <p>3年ぶりに女性議会を開催し、各常任委員会での学習会を重ね、地域のさまざまな課題について熱心に調査・研究をし、本会議では女性ならではの視点で質問や提案を行った。</p> <p>第10回黒部市女性議会 主催 くろべ女性団体連絡協議会 会期 令和3年7月12日(月)組織議会から 令和3年10月12日(火)本会議まで 93日間 会場 市議会議場・・・・・・・・・・・・・・・・組織議会・本会議 市役所・大布施公民館等・・・・・・・・委員会・学習会 議員 18人</p> <p>なお、新型コロナウイルス感染症の影響により、例年実施している女性のつどい、カーター記念黒部名水マラソン等の各種行事への協力参加は中止となった。</p>					
点検・評価	総合評価		A(前年評価 A)		5段階評価: A A, A, B, C, Dのいずれかを記載	
	<p>(上記の評価をした理由)</p> <p>男女共同参画社会に向けて、女性の地域活動、社会における役割が非常に大きくなっている今日、第10回黒部市女性議会を開催し、市政への関心を深め、女性の立場から問題を見つめ、これからの地域活動に自ら参画した。</p> <p>また、協議会として、常に様々な事柄に興味・関心をもち、女性が積極的に社会参加できる体制づくりと機会の提供に努めた。</p>					
課題・改善	<p>(具体的な改善内容を記載)</p> <p>女性団体の自発的な活動推進については、効果的な事業推進が図られるよう支援する必要がある。また、会員の高齢化に伴い会員数が減少しており、新規会員の加入と育成を進めていく必要がある。</p>					
今後の方向	<p>(継続・拡充・縮小・廃止などを判断)</p> <p>今後も継続して支援を行う。</p> <p>活動のあり方について方向性を定め、事業実施と女性リーダー育成方法について検討していくとともに、女性が積極的に社会参加できる体制づくりに努める。</p>					

施策の分野	③生涯学習機会の提供
方針・目標	<ul style="list-style-type: none"> ・自主的・主体的に学ぶことのできる場及び機会を提供するため、市民の多様な学習ニーズに応じた各種講座の開催や、公民館及び博物館等社会教育施設の充実を図る。 ・中心市街地への都市機能の立地や居住の誘導を図るため、図書館を核に生涯学習や情報の収集・発信・保存など市民の知的好奇心を満たす多機能を有する施設として、(仮称)くろべ市民交流センターを整備する。

個別事業名	(1) コミュニティづくり推進事業														
担当課等	生涯学習文化課 生涯学習係														
事業費	実績	計(千円)	国費	県費	その他	一般財源									
	R 2	7,400				7,400									
	R 3	7,300				7,300									
趣旨等	<p>(本来の目標・目的・対象・意図)</p> <p>少子高齢化社会の中、地域コミュニティの維持は、各種行政サービスの推進にあたっての生命線となっている。住民の多様な学習ニーズに応えながら、地区公民館を拠点とした学習活動を推進し、地域コミュニティの強化を図る。</p>														
実績・成果	<p>(数値を用いて具体的に、前年度等との比較)</p> <p>16地区の公民館において、書道、水墨画、刺繍、生花、民謡、大正琴、茶道、体操等の地域の特色、住民ニーズに応じた多種多様な講座や教室、サークル活動、地域行事を開催し、生涯学習を通じたコミュニティづくりを推進した。</p> <p>また、平成29年度から引き続き重点館を設定し、3館(大布施公民館、前沢公民館、内山公民館)に事業委託をした。</p> <p>※ 新型コロナウイルス感染症予防の十分な配慮と活動の両立に取り組んだ。</p> <p>[公民館利用者実績]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>利用回数</th> <th>利用者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>R 2</td> <td>8,315回</td> <td>109,729人</td> </tr> <tr> <td>R 3</td> <td>9,391回</td> <td>124,292人</td> </tr> </tbody> </table>						年度	利用回数	利用者数	R 2	8,315回	109,729人	R 3	9,391回	124,292人
年度	利用回数	利用者数													
R 2	8,315回	109,729人													
R 3	9,391回	124,292人													
点検・評価	総合評価 A (前年評価 A)		5段階評価: A, A, B, C, Dのいずれかを記載												
	<p>(上記の評価をした理由)</p> <p>各公民館において、コロナ禍だからこそ生まれた企画や、デジタル技術を活用した事業等、地域の特色を出しながら新たな事業を実施し、地域課題を自らの力で解決するまちづくりが図られた。</p>														
課題・改善	<p>(具体的な改善内容を記載)</p> <p>公民館における利用者の高齢化と固定化が進んでおり、特に、地域活動の将来を担うリーダー育成の観点から、働く世代や若年層の新しい公民館ユーザーを増加させていくことが重要である。そのためには、あらゆる世代の生涯学習ニーズを把握し、時代に対応した生涯学習機会の提供とともに、インターネットを通じた催事・貸館の予約環境の整備や情報発信が必要である。</p>														
今後の方向	<p>(継続・拡充・縮小・廃止などを判断)</p> <p>各公民館におけるコミュニティづくり推進事業は、継続・拡充が強く求められている。地域の課題は自ら解決する自立したまちづくりを推進するためにも、地域活動の拠点施設として地区公民館が機能を発揮できるよう、今後も事業を継続していく。</p>														

個別事業名	(2) 生涯学習フェスティバル開催事業																
担当課等	生涯学習文化課 生涯学習係、生涯学習文化スクエア「ぷらっと」																
事業費	実績	計(千円)	国費	県費	その他	一般財源											
	R 2	281				281											
	R 3	648				648											
趣旨等	(本来の目標・目的・対象・意図) 各公民館等の活動や学習成果を広く市民に発表し、生涯学習の活性化を図る。																
実績・成果	(数値を用いて具体的に、前年度等との比較)																
	<p>生涯学習フェスティバル（1月29日（土）～30日（日）開催）では、各公民館から選ばれた作品（手芸、絵画、工作、書道、写真等）を展示した。</p> <p>マルチホールにおいて、各館を舞台に活動するサークル団体のステージ発表を行った。コロナ禍で発表の場が奪われた皆さんの口惜しさが報われ、気持ちが晴れるような内容であった。</p> <p>また、エントランスホールでは、愛本地区の大森^{くにとし}洲季さんによるピアノリサイタルを開催し、地域に根ざしながらも、その分野でご活躍の方にスポットを当て、支援の輪が広がるよう披露の場を提供した。この取り組みに共感した花職人^{エミグリーンムーン} emigreenmoonの原 恵美さんが曲に合わせてフラワーアレンジメントショーとしてコラボレーションしたり、司会を地元公民館主事が買って出たり、これまでにない有機的な連携によりさらに魅力が高まるなど、ふるさと教育を推進する事業となり、コロナ禍が再燃する時期にもかかわらず、来場者が前年比28.5%増加し、コロナ禍でも事業をあきらめない好事例として示すことができた。</p> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>展示観覧者</th> <th>アトラクション来場者</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>R 2</td> <td>401 人</td> <td>129 人</td> <td>530 人</td> </tr> <tr> <td>R 3</td> <td>405 人</td> <td>276 人</td> <td>681 人</td> </tr> </tbody> </table>						年度	展示観覧者	アトラクション来場者	計	R 2	401 人	129 人	530 人	R 3	405 人	276 人
年度	展示観覧者	アトラクション来場者	計														
R 2	401 人	129 人	530 人														
R 3	405 人	276 人	681 人														
点検・評価	総合評価 AA (前年評価 A)		5段階評価：AA, A, B, C, Dのいずれかを記載														
	(上記の評価をした理由) 来場者増加につなげるため、プログラム編成を工夫した。 広報活動は、公共施設でのチラシの配布、広報くろべや市ホームページへの掲載、各地区公民館、小中学校等への周知等を行い、来場者の増加に向けてPRを図った。 一度に大勢来場してもコロナ対策を徹底できるように、受付係を増員することで、検温や「緊急連絡先記入用紙」の提出もスムーズに行えた。また、各コーナーに手指消毒を設置しながら、安全、安心に生涯学習活動へ参加いただくことができた。																
課題・改善	(具体的な改善内容を記載) 市内各公民館のサークル活動者にとって、発表の機会として、また、活動の目標として、積極的な活動のエネルギー源になるものであり、観客の確保を図る上で、飽きさせない魅力的な企画としていく必要がある。																
今後の方向	(継続・拡充・縮小・廃止などを判断) 各公民館での活動を改めて広く披露することで、より一層市民の活力を向上させるとともに、市内のサークル活動が普段利用する拠点を超えて交流し、刺激し合う場となっている。今後は、これまでの実績と本事業で培った英知を地域活動へ還元し、地域活動の活性化や地域教育の推進に繋げるため、今後も黒部市公民館連絡協議会と連携を図りながら継続していく。																

個別事業名	(3) 市民教養講座・市民カレッジ事業																						
担当課等	生涯学習文化課 生涯学習係、黒部市生涯学習文化スクエア「ぷらっと」																						
事業費	実績	計(千円)	国費	県費	その他	一般財源																	
	R 2	348			60	288																	
	R 3	601			62	539																	
趣旨等	(本来の目標・目的・対象・意図) 市民が気軽に参加できる生涯学習の場を提供し、市民大学講座・市民カレッジ事業の展開を図りながら、人のつながりによる地域活性化を実現する。																						
実績・成果	(数値を用いて具体的に、前年度等との比較) 市民教養講座 (R 3年度から名称変更。旧：市民大学講座) は、地域の産業や特徴的な活動に関する講演等を7回開催。また、令和3年4月、中央公民館から生涯学習文化スクエアへと名称変更し、季節に応じたイベントを3回、併せて計10回開催した。(うち8回は「黒部市老人クラブ連合会」「市民カレッジシニア元気教室」と共催) 市民カレッジ一般教室は、市民から要望のある講座等を開催し、興味をもった方々によるサークル化への移行を意図しながら実施した。 市民カレッジシニア元気教室では、市民教養講座と共催で、災害をテーマとした講演や、伝統芸能鑑賞などを実施した。																						
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>講座数</th> <th>開催回数</th> <th>延べ受講者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">R 2</td> <td>市民大学講座</td> <td>9回</td> <td>231人</td> </tr> <tr> <td>市民カレッジ</td> <td>53回</td> <td>776人</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">R 3</td> <td>市民教養講座</td> <td>10回</td> <td>333人</td> </tr> <tr> <td>市民カレッジ</td> <td>37回</td> <td>977人</td> </tr> </tbody> </table>						年度	講座数	開催回数	延べ受講者数	R 2	市民大学講座	9回	231人	市民カレッジ	53回	776人	R 3	市民教養講座	10回	333人	市民カレッジ	37回
年度	講座数	開催回数	延べ受講者数																				
R 2	市民大学講座	9回	231人																				
	市民カレッジ	53回	776人																				
R 3	市民教養講座	10回	333人																				
	市民カレッジ	37回	977人																				
点検・評価	総合評価 A (前年評価 A)		5段階評価：AA, A, B, C, Dのいずれかを記載																				
	(上記の評価をした理由) 市民ニーズに対応するため講座内容を厳選した。参加者の増加に向け、子育て世代、勤労者世代が参加しやすいよう、土日での開催に取り組んだ。 広報については、広報くろべ、市ホームページ、公民館ホームページ及び防災行政無線などを利用し、周知と普及に努めた。																						
課題・改善	(具体的な改善内容を記載) 行政が実施する生涯学習事業として、市民ニーズと民間サービスとのバランスを意識したうえで、講座内容を検討していく必要がある。また、広く市民の参加が進むよう、これまでの広報に工夫を凝らす必要がある。 施設のあり方を見直し、営利活動にも利用に幅を広げたことから、受講料を伴う教室・講座等の貸館利用の増加を目指す営業努力も必要である。																						
今後の方向	(継続・拡充・縮小・廃止などを判断) 人生100年時代を迎え、これまでの社会教育の領域を超えた全世代型の生涯学習活動の拠点としてより充実させるとともに、物販や教室等の貸館としての利用や文化活動の場としての利用促進を図るため、時代のニーズに柔軟に対応した企画を実施していく。 広報くろべ、館報、みらいTV、コミュニティ放送、市ホームページ等を活用するほか、広報媒体と表現方法も見直しながら、活動や行事の「見える化」を推進する。																						

個別事業名	(4) 読書普及事業					
担当課等	図書館 奉仕係					
事業費	実績	計(千円)	国費	県費	その他	一般財源
	R 2	36,570			1,142	35,428
	R 3	47,835	2,079		5,428	40,328
趣旨等	(本来の目標・目的・対象・意図) 市民の多様なニーズに応え、一人ひとりが本との出会いを通じて、暮らしの中に図書館が息づき、「いつでも・どこでも・だれでも」が利用しやすい施設整備及び図書館活動の推進を図る。					
実績・成果	(数値を用いて具体的に、前年度等との比較)					
	・図書館利用状況					
	年度	館名	貸出冊数	貸出人数	入館者数	開館日
	R 2	黒部市立図書館	167,168 冊	32,367 人	67,488 人	292 日
		宇奈月館	39,021 冊	8,210 人	14,774 人	293 日
合計		206,189 冊	40,577 人	82,262 人		
R 3	黒部市立図書館	180,599 冊	34,929 人	64,436 人	288 日	
	宇奈月館	39,852 冊	8,375 人	14,967 人	280 日	
	合計	220,451 冊	43,304 人	79,403 人		
・予約・相互貸借利用件数・企画展の回数						
年度	館名	予約件数	相互貸借件数	企画展回数		
R 2	黒部市立図書館	15,185 件	1,297 件	9 回		
	宇奈月館	4,102 件	199 件	21 回		
	合計	19,287 件	1,496 件			
R 3	黒部市立図書館	14,138 件	989 件	9 回		
	宇奈月館	3,874 件	185 件	8 回		
	合計	18,012 件	1,174 件			
・図書受入冊数 ※CD・DVD等を含む数						
館名	R 2	R 3				
黒部市立図書館	5,831 冊 (内 寄贈 692 冊)	7,992 冊 (内 寄贈 525 冊)				
宇奈月館	1,853 冊 (内 寄贈 544 冊)	1,539 冊 (内 寄贈 550 冊)				
合計	7,684 冊 (内 寄贈 1,236 冊)	9,531 冊 (内 寄贈 1,075 冊)				
点検・評価	総合評価 A (前年評価 A)		5段階評価: A A, A, B, C, Dのいずれかを記載			
	(上記の評価をした理由) 新型コロナウイルス感染症対策として、開館時間の短縮や閲覧の制限等を行ったことに加え、図書館情報システムの入替え作業と蔵書点検作業のための2週間にわたる休館により、入館者数は3.5%の減少となったが、貸出冊数の上限を10冊から20冊に増やす等の対策を講じたこともあり、貸出冊数は6.9%、貸出人数は6.7%の増加となった。図書館資料の充実及び郷土資料の収集に努めるとともに、企画展や読み聞かせボランティアの研修会開催のほか、学校、保育所等との連携により読書の普及を図った。					
課題・改善	(具体的な改善内容を記載) 多様化する住民のニーズに応えるため、更なる図書館資料の充実と利用しやすい環境づくりに努める必要がある。また、資料収集やレファレンスなどサービス向上に資する職員研修や新図書館への移行に向けた適正な図書資料収集、職員数の検討、図書館ボランティアの育成等が必要である。					
今後の方向	(継続・拡充・縮小・廃止などを判断) 図書館資料の充実と利用しやすい環境づくりを継続して進めるとともに、黒部市立図書館、宇奈月館それぞれにおいて特色ある運営を目指す。魅力ある蔵書構築のため、資料の収集、除籍、整理等を進める。また令和5年度に開館する新図書館を見据えて策定された「黒部市立図書館サービス計画」に基づき効果的かつ計画的に事業実施していく。					

個別事業名	(5) 図書団体貸出事業					
担当課等	図書館 奉仕係					
事業費	実績	計(千円)	国費	県費	その他	一般財源
	R 2	60				60
	R 3	60				60
趣旨等	(本来の目標・目的・対象・意図) 子どもたちがより多くの本に接する機会を増やし、本に親しんでもらうことを目的とする。					
実績・成果	(数値を用いて具体的に、前年度等との比較)					
	① 保育所、幼稚園、小学校等への団体貸出実績					
	館名		年度	団体登録数	利用団体数	貸出冊数
	黒部市立図書館		R 2	195	641	12,848
R 3			191	620	13,370	
宇奈月館		R 2	33	389	4,166	
		R 3	33	426	4,428	
② 「小・中学校国語教科書に紹介された本」のセット貸出の実施 教科書において紹介された本を学年・学級単位で1セット・2週間貸し出した。 小学校⇒932冊（1学年3セット・6学年で18セット） 中学校⇒231冊（1学年1セット・3学年で3セット）						
年度		団体貸出学校数		延べ貸出冊数		
R 2		小学校7校・中学校1校		5,020冊		
R 3		小学校8校		7,031冊		
③学校への「ふるさと文学」の貸出の実施（小学校1校・中学校1校）						
④学童保育への団体貸出実施 合計4,256冊						
【R 3実績内訳】						
黒部市立図書館 9地区			計2,722冊（R 2：2,702冊）			
黒部市立図書館宇奈月館			計1,534冊（R 2：1,646冊）			
点検・評価	総合評価		A（前年評価 A）	5段階評価：A A, A, B, C, Dのいずれかを記載		
	(上記の評価をした理由) 保育所、幼稚園、小学校等への団体貸出の実績は、令和2年度と比べ団体登録数はほぼ横ばいの1.8%減少、利用団体数は団体貸出のPRを行ったこともあり23.1%増加、貸出冊数は4.6%の増加となった。 「小・中学校国語教科書に紹介された本」の団体貸出は、黒部市立図書館内にコーナーを設置、資料を広く活用してもらうため貸出期間の短縮や各学校の希望日に合わせた日程調整を行った結果、中学校からの利用はなかったが、小学校からの利用は1校増の8校となり、貸出冊数は40%の増加となった。 学童保育への団体貸出の貸出冊数は令和2年度より2.1%減少した。					
課題・改善	(具体的な改善内容を記載) 小学校や幼稚園・保育所等の利用はあるが、中学校・公民館の利用が少ないため、読書普及活動とあわせた利用策を講じる。					
今後の方向	(継続・拡充・縮小・廃止などを判断) 各団体への所蔵本の積極的なPR及びニーズを把握し、より一層読書普及活動に努める。学校関係については、より利用しやすいものとなるよう、教員や学校司書の意見も取り入れながら活用促進を図る。					

また、広報誌やSNSを利用した情報発信や、宇奈月館では赤ちゃんタイムの継続等、利用しやすい環境づくりに努めた。

施策の分野	④市民文化活動の推進
方針・目標	<ul style="list-style-type: none"> 市民の芸術文化活動を推進するため、優れた芸術文化を鑑賞したり親しんだりすることができる機会を増やす。 市民が、自発的に新しい創作活動ができるよう芸術文化活動の支援・育成に努める。 市民の芸術文化の振興、科学教育の普及のため、美術館及び吉田科学館の企画事業の更なる充実を図る。

個別事業名	(1) 黒部市芸術祭の開催及び芸術体験の充実																	
担当課等	生涯学習文化課 文化振興係																	
事業費	実績	計(千円)	国費	県費	その他	一般財源												
	R 2	23,788		833	20,000	2,955												
	R 3	28,593		833	20,000	7,760												
趣旨等	<p>(本来の目標・目的・対象・意図)</p> <p>市民が多様な文化に触れる機会を創出し、芸術文化の向上と振興を図る。</p>																	
実績・成果	<p>(数値を用いて具体的に、前年度等との比較)</p> <p><芸術祭 市美術展></p> <p>美術展は、市内在住者、勤務者、通学者及び出身者、中学生以上の方の絵画・書・写真・彫刻工芸デザイン作品を募集し、コラーレで開催した。</p> <p>会期：令和3年11月5日～9日（5日間）（事業費956千円）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>観覧者数</th> <th>一般 出品点数</th> <th>審査員・運営委員・賛助 出品点数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>R 2</td> <td>739 人</td> <td>85 点</td> <td>18 点</td> </tr> <tr> <td>R 3</td> <td>992 人</td> <td>99 点</td> <td>37 点</td> </tr> </tbody> </table> <p><芸術祭 劇団フロンティア公演></p> <p>12月25日・26日、コラーレにおいて演劇公演「クリスマスキャロル」を4回開催した。（補助金137千円）</p> <p><アーティスト in くらべ 青少年交流事業></p> <p>令和4年3月4日～6日にわたり、東京藝術大学の若き演奏家を招聘し、中高生への指導会及びコンサートを宇奈月国際会館セレネで開催した。</p> <p>指導会参加者数：11人、コンサート鑑賞者数241人（事業費2,500千円）</p> <p><黒部舞台芸術鑑賞会 黒部シアター2021></p> <p>令和3年10月8日～10日（3日間）にわたり演劇公演「世界の果てからこんにちはⅡ」を前沢ガーデン野外ステージで開催した他、関連事業として「第9回シアター・オリックス ドキュメンタリー」上映+鈴木忠志 Q&A とプレミアムトークを宇奈月国際会館セレネで開催した。</p> <p>参加者数：658人、内、青少年無料鑑賞会参加者10人（補助金15,000千円）</p>						年度	観覧者数	一般 出品点数	審査員・運営委員・賛助 出品点数	R 2	739 人	85 点	18 点	R 3	992 人	99 点	37 点
	年度	観覧者数	一般 出品点数	審査員・運営委員・賛助 出品点数														
	R 2	739 人	85 点	18 点														
R 3	992 人	99 点	37 点															
点検・評価	総合評価 A（前年評価 A）			5段階評価：AA, A, B, C, Dのいずれかを記載														
	<p>(上記の評価をした理由)</p> <p>美術展については、市制15周年記念式典とタイアップで実施し、相乗効果によって出品者及び出品点数は増加した。幅広い年代層において芸術文化の向上が図られている。</p>																	
課題・改善	<p>(具体的な改善内容を記載)</p> <p>美術展は、各種団体や中学校・高等学校など若い世代への周知の強化を図り、多くの方から応募出品されるような工夫が必要である。</p>																	
今後の方向	<p>(継続・拡充・縮小・廃止などを判断)</p> <p>参加者の裾野が広がるよう各事業のPR方法を工夫し、市民の芸術文化活動を推進するとともに、特色ある文化芸術の創造・発信する機会を充実し、その振興を図っていく。</p>																	

個別事業名	(2) 芸術文化活動団体助成																							
担当課等	生涯学習文化課 文化振興係																							
事業費	実績	計(千円)	国費	県費	その他	一般財源																		
	R 2	1,768			190	1,578																		
	R 3	1,768			190	1,578																		
趣旨等	<p>(本来の目標・目的・対象・意図)</p> <p>市内に活動拠点を置く各種文化・芸術団体に対し補助金を交付し、活動の活性化を図る。</p>																							
実績・成果	<p>(数値を用いて具体的に、前年度等との比較)</p> <p><黒部川・水のコンサート&フェスティバル></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>参加者</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>R 2</td> <td>中止</td> </tr> <tr> <td>R 3</td> <td>中止</td> </tr> </tbody> </table> <p><黒部市芸術文化協会> 第9回芸術文化祭。39 団体、4 個人会員、総会員数 436 人。 (補助金 528 千円)</p> <p><日本黒部学会> 特別講演会の開催。(補助金 190 千円)</p> <p><湯の街ふれあい音楽祭モーツァルト@宇奈月> 9 月に開催を予定していた音楽祭を、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により 3 月 20 日に延期し、会場をセレネに限定し「スペシャルコンサート」を行った。 (補助金 800 千円)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>総観客数</th> <th>演奏者数</th> <th>演奏会場</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>R 2</td> <td></td> <td>中止</td> <td></td> </tr> <tr> <td>R 3</td> <td></td> <td>125 人</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p><第 14 回名水の里ドイツ・レクイエムコンサート> コロナ禍により 2020 年より延期になっていたコンサートを 4 月 25 日にコラーレにおいて開催。鑑賞者 400 人 (補助金 250 千円)</p>						年度	参加者	R 2	中止	R 3	中止	年度	総観客数	演奏者数	演奏会場	R 2		中止		R 3		125 人	
年度	参加者																							
R 2	中止																							
R 3	中止																							
年度	総観客数	演奏者数	演奏会場																					
R 2		中止																						
R 3		125 人																						
点検・評価	<p>総合評価 A (前年評価 A) 5段階評価：AA, A, B, C, Dのいずれかを記載</p> <p>(上記の評価をした理由)</p> <p>コロナ禍により多くの子どもたちが参加する黒部川・水のコンサート&フェスティバルは中止を余儀なくされたが、芸術文化祭や湯の街ふれあい音楽祭モーツァルト@宇奈月の開催、日本黒部学会の特別講演会、第 14 回名水の里ドイツ・レクイエムコンサートの開催に際し、補助金交付による支援を行うことにより、芸術の振興や文化の向上に寄与している。</p>																							
	<p>(具体的な改善内容を記載)</p> <p>団体の更なる自立と充実した事業が継続的に実施されるよう、支援内容を見直ししていく必要がある。</p>																							
課題・改善																								
今後の方向	<p>(継続・拡充・縮小・廃止などを判断)</p> <p>各団体の自立を促すとともに、黒部市芸術文化協会による芸術文化祭などの民間の取組と行政施策の位置付けを整理し、費用対効果等の評価を行いながら、継続する。</p>																							

施策の分野	⑤文化遺産及び自然遺産の保護活用
方針・目標	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の伝統文化による郷土愛の醸成や高揚を図るため、芸能・伝統行事の保存・伝承活動を支援する。また、文化財の保護・調査研究、市民への地域文化の普及に努める。 ・富山県東部にわたる自然遺産、多様で豊かな自然を保護・保全し、多彩な文化を継承するとともに、その活用を図り地域の継続的な発展に繋がる事業を推進する。

個別事業名	(1) 伝統文化の保存継承					
担当課等	生涯学習文化課 文化振興係					
事業費	実績	計(千円)	国費	県費	その他	一般財源
	R 2	310			310	
	R 3	460			460	
趣旨等	<p>(本来の目標・目的・対象・意図)</p> <p>市内各地域で受け継がれてきている芸能や技術の保存伝承を図るため、各文化財の保存会を支援している。保存会で中心的に活躍する指導者を黒部市伝承芸能伝承技術士として認定し、指導者の育成に努める。</p>					
実績・成果	<p>(数値を用いて具体的に、前年度等との比較)</p> <p>保存会を中心とした地区住民の力で伝承芸能は継承されてきた。</p> <p>各地区公民館より、推薦いただいた指導者を、地域の伝承芸能技術士として認定している。令和3年度は3地区(郷土芸能しばんば、明日獅子舞・明日稚児舞、下立獅子舞)における4人の指導者を認定し、認定者は合計121人となった。</p> <p>◎国指定文化財 明日稚児舞事業 補助金 100千円×1団体=100千円</p> <p>◎県・市指定文化財保存会補助 補助金 50千円×3団体=150千円</p> <p>◎伝承芸能獅子舞保存会補助 補助金 30千円×7団体=210千円</p>					
点検・評価	総合評価 A(前年評価 A)		5段階評価: AA, A, B, C, Dのいずれかを記載			
	<p>(上記の評価をした理由)</p> <p>コロナ禍において行事の中止を余儀なくされた保存会が多かった一方で、行事の開催・中止にかかわらず、保存・継承のための取り組み(道具の購入など)の状況に応じて、保存会へ補助金を交付した。各保存会において指導者育成とともに伝承芸能の継承が図られている。</p> <p>平成14年度から運用を開始した伝承芸能の指導者の認定制度は、他の自治体ではあまり見受けられないものであり、本市独自の取組となっている。本制度による認定の価値を高め、また維持できるよう努めている。</p>					
課題・改善	<p>(具体的な改善内容を記載)</p> <p>各地で行われている伝承芸能の獅子舞の団体からは伝承技術士の推薦はあるが、その他の分野から推薦があまりないため認定者が少ない。</p> <p>今後、多くの分野で活動している人を幅広く発掘する必要がある。また、継承していくための方策を検討していく必要がある。</p>					
今後の方向	<p>(継続・拡充・縮小・廃止などを判断)</p> <p>伝承芸能の継承・指導者育成のため、今後も継続する。</p>					

個別事業名	(2) 埋蔵文化財の発掘調査					
担当課等	生涯学習文化課 文化振興係					
事業費	実績	計(千円)	国費	県費	その他	一般財源
	R 2	131				131
	R 3	0				0
趣旨等	(本来の目標・目的・対象・意図) 開発行為に伴う遺跡の確認調査によって記録保存と開発行為との協議・調整を図る。					
実績・成果	(数値を用いて具体的に、前年度等との比較) 令和3年度は、開発行為に伴い事業者より土木工事についての届出・通知が5件あったものの、包蔵地に大きな影響を及ぼすものがなかったことから、試掘調査は実施せず、慎重工事または工事立会の対応にとどまった。					
点検・評価	総合評価 A (前年評価 A)		5段階評価: AA, A, B, C, Dのいずれかを記載			
	(上記の評価をした理由) 包蔵地と確認されている個所について、試掘調査や必要に応じて工事の立会いを行い、速やかに調査を行った。					
課題・改善	(具体的な改善内容を記載) ほ場整備などの大型開発事業について、常に情報を収集し把握に努め、円滑に埋蔵文化財保存に取り組む必要がある。					
今後の方向	(継続・拡充・縮小・廃止などを判断) 予め、ほ場整備等大規模開発の時期・規模等の情報収集を行い、全体の把握に努める。 また市内試掘については、速やかに調査できるよう努める。					

個別事業名	(3) 立山黒部ジオパーク事業 ～世界認定に向けた取組の推進～					
担当課等	生涯学習文化課 ジオパーク推進班					
事業費	実績	計(千円)	国費	県費	その他	一般財源
	R 2	8,850		1,218	3,000	4,632
	R 3	7,773		0	0	7,773
趣旨等	<p>(本来の目標・目的・対象・意図)</p> <p>富山県東部9市町村及び富山湾海域からなる「立山黒部ジオパーク」について、大地やそれに関わる生態系、文化などの地域資源を持続可能な形で活用し、地域振興を進めるため、民間主導のジオパーク事業を構成自治体と連携しながら支援する。</p> <p>また、ユネスコ世界ジオパークへの登録を目指す。</p> <p>※ジオパーク</p> <p>地球科学的な価値をもつ遺産をジオサイト(=ジオパークの見どころとなる場所)として保全し、教育やツーリズムに活用しながら、持続可能な開発を進める認定プログラム</p>					
実績・成果	<p>(数値を用いて具体的に、前年等との比較)</p> <p>1 立山黒部ジオパーク事業</p> <ul style="list-style-type: none"> エリア内の9市町村で構成する支援自治体会議の会長及び事務局を担当する自治体として総会及び幹事会を開催し、積極的にジオパーク活動の推進支援を行った。 事務職員1人を立山黒部ジオパーク協会(以下、協会とする)に派遣するとともに、協会が主導する保全部会及び保全計画の策定などで連携した。 黒部峡谷鉄道及び協会とともに黒部峡谷トロッコ電車・ジオパーク体験学習について、市内小学校を対象として実施した(市内9校、児童431人参加)。 地域内でのジオパークの保護活用活動を推進するため「下立の大理石」を中心としたジオサイト活用に向けた現状調査を富山国際大学、協会、地元関係者等と行った。 市内拠点施設となる吉田科学館や地域観光ギャラリー、歴史民俗資料館、公民館等と密接な連携を図り、ジオパーク自然教室、市民カレッジ事業などでの活用に努めた。 <p>2 地域観光ギャラリー展示空間事業</p> <ul style="list-style-type: none"> コロナ禍により8月14日(土)より9月末まで休止したが、土日祝日、紅葉期間中等延べ82日間において地域学芸員による解説ガイドを配置し、来場者に展示物を紹介した(ガイド配備中の来場者は約3,050人)。 					
点検・評価	総合評価 A (前年評価 A)			5段階評価: A A, A, B, C, Dのいずれかを記載		
	<p>(上記の評価をした理由)</p> <p>日本ジオパークの再認定時に指摘を受けた課題への改善策として、下立の大理石における保護・活用に係る調査を実施した。</p> <p>コロナ禍により前年度中止となった黒部峡谷トロッコ電車・ジオパーク体験学習について、中止学年の受入れも増やして対応した。</p>					
課題・改善	<p>(具体的な改善内容を記載)</p> <p>ジオパークを推進させるためには、自治体間の連携や積極的関与が必須となる。協会が作成したアクションプランに基づき、着実に事業を推進し、ジオパーク全体として一体感を出す必要がある。</p> <p>併せて、市民へのジオパーク活動の浸透が求められる。</p>					
今後の方向	<p>(継続・拡充・縮小・廃止などを判断)</p> <p>ジオパークはユネスコ正式プログラムであり、持続可能な開発目標(SDGs)達成に向けた活動として、持続可能な開発のための教育(ESD)に積極的に取り組む。</p> <p>協会が中心となって、活発な活動がエリア全体に波及し、世界ジオパークが求めるレベルを目指して活動実績を積み上げていく。</p>					

施策の分野	⑥「市民ひとり1スポーツ」の推進
方針・目標	<ul style="list-style-type: none"> 市民一人ひとりが、それぞれのライフスタイルに応じて、多様なスポーツに主体的かつ継続的に親しむことができるようにするため、市体育協会や地区体育協会と協働し、地域との連携を図りながらスポーツ機会の充実を図る。 地域住民が主体となったスポーツ活動を推進するために、スポーツ推進委員や総合型地域スポーツクラブの活動を通じて地域力の醸成を図り、「市民ひとり1スポーツ」の更なる定着に努める。

個別事業名	(1) 市民体育大会											
担当課等	スポーツ課 スポーツ推進係											
事業費	実績	計(千円)	国費	県費	その他	一般財源						
	R 2	1,000				1,000						
	R 3	600				600						
趣旨等	<p>(本来の目標・目的・対象・意図)</p> <p>市民が一堂に集い、スポーツの実践により体力の向上、健康の増進、レクリエーションによる親睦協和を図り、より健全で明るい市民生活を営むことを目的とする。</p>											
実績・成果	<p>(数値を用いて具体的に、前年度等との比較)</p> <p>専門委員会等を開催し、各地区の実情を考慮しながら、多くの市民が参加しやすい大会を目指して準備をすすめていたが、新型コロナウイルス感染症の影響により全種目中止とした。代替事業として、地域スポーツ事業を実施した。</p> <p>市民体育大会開催競技、種目数</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>種目数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>R 2</td> <td>15 競技 (17 種目) を中止</td> </tr> <tr> <td>R 3</td> <td>15 競技 (17 種目) を中止、地域スポーツ事業実施(代替事業)</td> </tr> </tbody> </table>						年度	種目数	R 2	15 競技 (17 種目) を中止	R 3	15 競技 (17 種目) を中止、地域スポーツ事業実施(代替事業)
年度	種目数											
R 2	15 競技 (17 種目) を中止											
R 3	15 競技 (17 種目) を中止、地域スポーツ事業実施(代替事業)											
点検・評価	総合評価		B (前年評価 B)		5段階評価: A A, A, B, C, Dのいずれかを記載							
	<p>(上記の評価をした理由)</p> <p>全地区から多くの市民が参加する大会並びに地域が一体となってスポーツに取り組むことができる機会を提供することにより、地域振興やスポーツ推進に大きく寄与している。</p> <p>令和3年度は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により全種目中止としたが、代替事業として、運動不足解消、スポーツを通じた地域交流機会の創出を目的と、各地区で実施する「地域スポーツ事業」を実施し、市民のスポーツに取り組む機会の確保に努めた。</p>											
課題・改善	<p>(具体的な改善内容を記載)</p> <p>市民のスポーツニーズを把握し、市民が参加しやすい種目・試合方法について、各競技団体、各地区体育協会等関係団体との検討を要する。</p> <p>また、種目によっては、選手を確保できない地区があり、人口が多い地区との差が広がりつつあることから、ふるさと選手制度について提案・協議し、今後、試験的導入を行うこととした。</p>											
今後の方向	<p>(継続・拡充・縮小・廃止などを判断)</p> <p>より多くの市民が安全・安心に参加できる大会となるよう、新型コロナウイルス感染症対策を講じつつ、参加者がわかりやすく競技しやすいルールづくりを創意工夫しながら、引き続き開催していく。</p>											

個別事業名	(2) スポーツ推進委員協議会の育成																								
担当課等	スポーツ課 スポーツ推進係																								
事業費	実績	計(千円)	国費	県費	その他	一般財源																			
	R 2	1,753				1,753																			
	R 3	1,753				1,753																			
趣旨等	<p>(本来の目標・目的・対象・意図)</p> <p>住民に対してスポーツ実技の指導及びスポーツに関する指導・助言を行うことにより、市民の生活を明るく豊かにし、スポーツの普及向上を図るとともに会員相互の親睦を図る。(スポーツ推進員 53 人)</p>																								
実績・成果	(数値を用いて具体的に、前年度等との比較)																								
	<教室・研修会開催数と参加人数>																								
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th colspan="2">R 2</th> <th colspan="2">R 3</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>スポーツ教室</td> <td>中止</td> <td>—</td> <td>中止</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>出前教室</td> <td>8回</td> <td>120人</td> <td>6回</td> <td>90人</td> </tr> <tr> <td>全体研修会</td> <td>3回</td> <td>74人</td> <td>3回</td> <td>67人</td> </tr> </tbody> </table> <p>◆スポーツ教室 ニュースポーツの普及を目的に、小学生から高齢者まで幅広く教室に参加できるよう内容を工夫して、これまで各中学校区にて教室を開催してきたが、昨年度に続き、今年度も新型コロナウイルス感染症によりすべて中止となった。</p> <p>◆出前教室 各地区の要望を受けて、小学生から高齢者まで幅広い年齢層を対象にニュースポーツ体験会(スライディングペタング等)を実施した。</p> <p>◆全体研修会 新型コロナウイルス感染症の影響により県外での研修はなくなったが、市や地区(黒部市主管)で開催する研修会へ積極的に参加し、自己の活動に対して見直しを図るとともに、意欲向上が図られた。</p>						年度	R 2		R 3		スポーツ教室	中止	—	中止	—	出前教室	8回	120人	6回	90人	全体研修会	3回	74人	3回
年度	R 2		R 3																						
スポーツ教室	中止	—	中止	—																					
出前教室	8回	120人	6回	90人																					
全体研修会	3回	74人	3回	67人																					
点検・評価	総合評価 A (前年評価 A)		5段階評価: AA, A, B, C, Dのいずれかを記載																						
	<p>(上記の評価をした理由)</p> <p>「委員が企画から運営までを努める地区スポーツ教室の展開」をテーマとして、積極的にニュースポーツの普及が図られている。参加者を募っての教室開催をはじめ、講師として出前教室を開催するなど、地区のニーズに応じた活動の展開は、各地区より一定の評価を得ている。</p> <p>令和3年度は多くのイベントが中止となったが、例年、カーター記念黒部名水マラソン、市民体育大会等のスポーツイベントの運営にも継続的かつ積極的な協力がなされており、本市のスポーツ推進に欠かさせない存在となっている。</p>																								
課題・改善	<p>(具体的な改善内容を記載)</p> <p>引き続き、活動内容の評価が適切に行われるよう、PDCAサイクルを活用し、活動の評価並びに問題点を洗い出し、よりよい活動となるよう継続的な改善に取り組んでいく必要がある。また、委員の高齢化やなり手不足が懸念されており、新たな委員の掘り起こし並びに対応策を検討していく必要がある。</p>																								
今後の方向	<p>(継続・拡充・縮小・廃止などを判断)</p> <p>活動内容・方法について、課題改善を図りながら継続していく。</p>																								

個別事業名	(3) 総合型地域スポーツクラブ						
担当課等	スポーツ課 スポーツ推進係						
事業費	実績	計(千円)	国費	県費	その他	一般財源	
	R 2	790				790	
	R 3	860				860	
趣旨等	<p>(本来の目標・目的・対象・意図)</p> <p>各種スポーツを気軽に楽しみ、継続的に親しみながら地域住民の健康の保持増進と会員相互の親睦・交流を図る。</p>						
実績・成果	<p>(数値を用いて具体的に、前年度等との比較)</p> <p>総合型地域スポーツクラブは、「KUROBE スポーツファミリー」「KUスポーツクラブ Will」の2クラブがあり、教室型のクラブとしてそれぞれ活動を展開している。</p> <p>また、教室の他に、「自然散策」「かち歩き」など、両クラブ共にウォーキングイベントを開催している。</p>						
		KUROBE スポーツファミリー		KUスポーツクラブ Will		合計	
	年度	会員数	教室数	会員数	教室数	会員数	教室数
	R 2	1,356 人	47	103 人	6	1,459 人	53
	R 3	1,499 人	47	117 人	6	1,616 人	53
点検・評価	総合評価		A (前年評価 A)		5段階評価: AA, A, B, C, Dのいずれかを記載		
	<p>(上記の評価をした理由)</p> <p>新型コロナウイルス感染症の影響が続いているが、必要な対策を講じながら活動を実施、参加者数がコロナ前の数字に及ばないものの、回復傾向にある。教室内容が多種多様で充実しており、「市民ひとり1スポーツ」の推進に大いに貢献している。また、アンケートを通じて、市民ニーズの把握に努め、教室の見直しを図っている。</p>						
課題・改善	<p>(具体的な改善内容を記載)</p> <p>引き続き、市民一人ひとりが、それぞれのライフスタイルに応じて、多様なスポーツに親しむことができるよう、創意工夫した活動を展開していく必要がある。</p> <p>特に30～50代の年代が参加できる取組が必要である。</p>						
今後の方向	<p>(継続・拡充・縮小・廃止などを判断)</p> <p>利用者が継続して取り組めるよう、内容の充実を図るとともに、市民ニーズを的確に捉え、新たな利用者の獲得に努めながら継続していく。</p>						

施策の分野	⑦スポーツ施設の整備・充実
方針・目標	・気軽にスポーツを楽しむことができるよう施設整備並びに長寿命化を計画的に進めるとともに、身近で利用しやすい施設となるよう利便性の向上及び安全管理の強化を図る。

個別事業名	(1) スポーツ施設の整備・充実																									
担当課等	スポーツ課 スポーツ推進係																									
事業費	実績	計(千円)	国費	県費	その他	一般財源																				
	R 2	12,433	732		8,900	2,801																				
	R 3	68,570	32,870	248	34,543	909																				
趣旨等	(本来の目標・目的・対象・意図) 市民が安心してスポーツを楽しむことができるようスポーツ施設の整備を計画的に進めるとともに、身近で利用しやすい施設となるよう利便性の向上や安全管理に努める。																									
実績・成果	(数値を用いて具体的に、前年度等との比較) <主な施設補修> ○総合体育センター (67,353千円) 受水槽更新工事、トレーニング室床補修 ほか ○健康スポーツプラザ (991千円) …排水処理工事、空調室外機移設工事 ○錬成館 (27千円) …駐車場水路補修 ○学校開放体育施設 (199千円) …グラウンド照明等修繕 <社会体育施設及び学校開放利用者数(人)>																									
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>R 2</th> <th>R 3</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総合体育センター</td> <td>145,264</td> <td>172,294</td> </tr> <tr> <td>宇奈月体育センター</td> <td>4,615</td> <td>5,001</td> </tr> <tr> <td>健康スポーツプラザ</td> <td>9,029</td> <td>10,535</td> </tr> <tr> <td>錬成館</td> <td>7,225</td> <td>6,887</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>166,133</td> <td>194,717</td> </tr> <tr> <td>学校開放</td> <td>39,661</td> <td>42,474</td> </tr> </tbody> </table>						年度	R 2	R 3	総合体育センター	145,264	172,294	宇奈月体育センター	4,615	5,001	健康スポーツプラザ	9,029	10,535	錬成館	7,225	6,887	計	166,133	194,717	学校開放	39,661
年度	R 2	R 3																								
総合体育センター	145,264	172,294																								
宇奈月体育センター	4,615	5,001																								
健康スポーツプラザ	9,029	10,535																								
錬成館	7,225	6,887																								
計	166,133	194,717																								
学校開放	39,661	42,474																								
点検・評価	総合評価 A (前年評価 A)		5段階評価：A A, A, B, C, Dのいずれかを記載																							
	(上記の評価をした理由) 利用者が安心してスポーツに取り組むことができる環境づくりに努めるとともに、安全で身近なスポーツ施設としての機能を果たすため、計画的な施設補修、保守点検に取り組んだ。																									
課題・改善	(具体的な改善内容を記載) 全般的に施設の老朽化が進んでおり、的確な維持補修のための具体的長寿命化計画の策定が喫緊の課題であり、より多くの市民が安心して手軽にスポーツに親しむことができる環境整備を行っていく必要がある。																									
今後の方向	(継続・拡充・縮小・廃止などを判断) 市民が安心してスポーツに取り組めるよう、施設毎の劣化度調査に基づきながら環境整備を継続していく。本市スポーツの拠点施設である総合体育センターについては、引き続き、国庫補助を活用しながら、施設の長寿命化対策を図っていく。																									

施策の分野	⑧競技力の向上
方針・目標	<ul style="list-style-type: none"> ・優秀なクラブチームや全国・ブロック大会で活躍する選手を育成するための支援を行う。 ・市体育協会が中心となり各競技協会や地区協会の活動を支援することで、クラブチームとの連携・支援体制を強化し、富山県民体育大会での総合優勝もしくは上位を目指すための各種競技力の向上を図る。 ・意欲ある中学生への支援策として、競技協会を主体としたクラブ創設を促し、部活動以外の活動組織の拡大と競技力の向上を目指す。

個別事業名	(1) 優秀スポーツクラブ育成補助																							
担当課等	スポーツ課 スポーツ推進係																							
事業費	実績	計(千円)	国費	県費	その他	一般財源																		
	R 2	41,609			31,609	10,000																		
	R 3	59,609			44,609	15,000																		
趣旨等	<p>(本来の目標・目的・対象・意図)</p> <p>優秀スポーツクラブ (KUROBE アクアフェアリーズ) の活動を支援することにより、地域の活性化や「黒部」の認知度アップを進める。また、地域貢献として、市内各種スポーツイベントへの参加協力やバレーボール教室等の開催の実施に係る必要な支援を行う。</p>																							
実績・成果	<p>(数値を用いて具体的に、前年度等との比較)</p> <p><KUROBE アクアフェアリーズの活動について></p> <p>各大会の成績</p> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width:30%;">大会名</th> <th style="width:35%;">R 2</th> <th style="width:35%;">R 3</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Vサマーリーグ</td> <td>新型コロナウイルスの影響で中止</td> <td>東部大会 2位/12チーム</td> </tr> <tr> <td>北信越国民体育大会</td> <td style="text-align:center;">〃</td> <td>3位 (国体出場ならず)</td> </tr> <tr> <td>国民体育大会</td> <td colspan="2" style="text-align:center;">〃</td> </tr> <tr> <td>天皇杯・皇后杯</td> <td style="text-align:center;">〃</td> <td>準々決勝敗退 (ベスト16)</td> </tr> <tr> <td>V1リーグ</td> <td>レギュラウンド 4勝16敗 11位/12チーム 順位決定戦 0勝3敗 4位/4チーム V.LEAGUE DIVISION1 WOMEN 12位/12チーム</td> <td>レギュラウンド 3勝30敗 12位/12チーム V・チャレンジマッチ 1勝1敗</td> </tr> </tbody> </table> <p>大会参加のほか、各種イベントへの協力に加え、「アクア夢プロジェクト」事業を開始し、市内の保育所・幼稚園から中学校までの子どもたちにバレーボールを通じた交流や講義を行うなど、市民球団として様々な地域貢献活動に積極的に参加した。</p>						大会名	R 2	R 3	Vサマーリーグ	新型コロナウイルスの影響で中止	東部大会 2位/12チーム	北信越国民体育大会	〃	3位 (国体出場ならず)	国民体育大会	〃		天皇杯・皇后杯	〃	準々決勝敗退 (ベスト16)	V1リーグ	レギュラウンド 4勝16敗 11位/12チーム 順位決定戦 0勝3敗 4位/4チーム V.LEAGUE DIVISION1 WOMEN 12位/12チーム	レギュラウンド 3勝30敗 12位/12チーム V・チャレンジマッチ 1勝1敗
	大会名	R 2	R 3																					
	Vサマーリーグ	新型コロナウイルスの影響で中止	東部大会 2位/12チーム																					
	北信越国民体育大会	〃	3位 (国体出場ならず)																					
	国民体育大会	〃																						
	天皇杯・皇后杯	〃	準々決勝敗退 (ベスト16)																					
V1リーグ	レギュラウンド 4勝16敗 11位/12チーム 順位決定戦 0勝3敗 4位/4チーム V.LEAGUE DIVISION1 WOMEN 12位/12チーム	レギュラウンド 3勝30敗 12位/12チーム V・チャレンジマッチ 1勝1敗																						
点検・評価	総合評価 B (前年評価 A)		5段階評価: AA, A, B, C, Dのいずれかを記載																					
	<p>(上記の評価をした理由)</p> <p>Vリーグ DIVISION 1へ昇格して4年、新型コロナウイルスの影響を受ける難しいシーズンとなり、レギュラウンドでは最下位となった。次シーズンの残留は決めたものの、運営面を含めたチーム力の継続的な強化が必要である。一方、新たに夢プロジェクトをスタートさせるなど、地域貢献活動に積極的に取り組んだ。</p>																							
課題・改善	<p>(具体的な改善内容を記載)</p> <p>Vリーグ DIVISION 1で戦っていくためには、常に有力な人材確保と地域のバックアップが必要であり、継続的な支援を図っていく必要がある。今後は、安定的な運営のための組織力強化、幅広い地域貢献活動やPR活動を積極的に行い、市民から愛されるチームになることが望まれる。</p>																							
今後の方向	<p>(継続・拡充・縮小・廃止などを判断)</p> <p>運営面も含めた支援を継続していく。</p>																							

個別事業名	(2) 出場派遣費・激励費																																																																						
担当課等	スポーツ課 スポーツ推進係																																																																						
事業費	実績	計(千円)	国費	県費	その他	一般財源																																																																	
	R 2	421				421																																																																	
	R 3	4,771				4,771																																																																	
趣旨等	<p>(本来の目標・目的・対象・意図)</p> <p>全国大会等に出場する選手に派遣費・激励費を支給し、大会出場への意識高揚を図るとともに、参加者の経費負担を軽減し十分に活動できる環境をつくる。</p>																																																																						
実績・成果	<p>(数値を用いて具体的に、前年度等との比較)</p> <p><全国大会・ブロック大会出場派遣費・激励費> (監督等引率者分を含む)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th colspan="2">R 2</th> <th colspan="2">R 3</th> </tr> <tr> <th>種別</th> <th>人数</th> <th>金額</th> <th>人数</th> <th>金額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>小学生</td> <td>18人</td> <td>186,575円</td> <td>77人</td> <td>961,700円</td> </tr> <tr> <td>中学生</td> <td>4人</td> <td>124,710円</td> <td>105人</td> <td>2,335,220円</td> </tr> <tr> <td>高校生</td> <td>13人</td> <td>96,000円</td> <td>88人</td> <td>522,000円</td> </tr> <tr> <td>一般</td> <td>1人</td> <td>8,000円</td> <td>61人</td> <td>308,000円</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>36人</td> <td>415,285円</td> <td>331人</td> <td>4,126,920円</td> </tr> </tbody> </table> <p>※黒部市「小・中学生」スポーツ振興資金(全国大会5千円、ブロック大会3千円)を含む。</p> <p>小学生と中学生には派遣費として大会にかかる交通費と宿泊費、高校生と一般には激励費を支給している。激励費は、全国大会8千円、ブロック大会4千円となっている(北信越国体5千円、国民体育大会10千円)。</p> <p><富山県民体育大会出場激励費> (監督等引率含)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th colspan="2">R 2</th> <th colspan="2">R 3</th> </tr> <tr> <th>種別</th> <th>人数</th> <th>金額</th> <th>人数</th> <th>金額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2部一般</td> <td>4人</td> <td>4,000円</td> <td>321人</td> <td>321,000円</td> </tr> <tr> <td>2部中学</td> <td>1人</td> <td>1,000円</td> <td>222人</td> <td>222,000円</td> </tr> <tr> <td>3部</td> <td>1人</td> <td>—円</td> <td>101人</td> <td>101,000円</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>5人</td> <td>5,000円</td> <td>644人</td> <td>644,000円</td> </tr> </tbody> </table> <p>激励費は、一般・中学とも一律1千円を支給している。</p>						年度	R 2		R 3		種別	人数	金額	人数	金額	小学生	18人	186,575円	77人	961,700円	中学生	4人	124,710円	105人	2,335,220円	高校生	13人	96,000円	88人	522,000円	一般	1人	8,000円	61人	308,000円	合計	36人	415,285円	331人	4,126,920円	年度	R 2		R 3		種別	人数	金額	人数	金額	2部一般	4人	4,000円	321人	321,000円	2部中学	1人	1,000円	222人	222,000円	3部	1人	—円	101人	101,000円	合計	5人	5,000円	644人	644,000円
	年度	R 2		R 3																																																																			
	種別	人数	金額	人数	金額																																																																		
	小学生	18人	186,575円	77人	961,700円																																																																		
	中学生	4人	124,710円	105人	2,335,220円																																																																		
	高校生	13人	96,000円	88人	522,000円																																																																		
	一般	1人	8,000円	61人	308,000円																																																																		
	合計	36人	415,285円	331人	4,126,920円																																																																		
	年度	R 2		R 3																																																																			
	種別	人数	金額	人数	金額																																																																		
2部一般	4人	4,000円	321人	321,000円																																																																			
2部中学	1人	1,000円	222人	222,000円																																																																			
3部	1人	—円	101人	101,000円																																																																			
合計	5人	5,000円	644人	644,000円																																																																			
点検・評価	<p>総合評価 A (前年評価 A) 5段階評価: A, A, B, C, Dのいずれかを記載</p> <p>(上記の評価をした理由)</p> <p>全国大会・ブロック大会出場選手は、新型コロナウイルス感染症の影響が前年に比べ減少し各大会が再開されたことから、大幅に増加した。</p> <p>県民体育大会においても、夏季大会が再開され、出場者が大幅に増加した。</p>																																																																						
	<p>(具体的な改善内容を記載)</p> <p>スポーツで活躍する選手の経済的負担を軽減し、全国大会等で、より高いレベルの技術に触れることができる環境づくりに努める。</p>																																																																						
課題・改善	<p>(継続・拡充・縮小・廃止などを判断)</p> <p>支援の効果を検証しつつ、継続する。</p>																																																																						
今後の方向	<p>(継続・拡充・縮小・廃止などを判断)</p> <p>支援の効果を検証しつつ、継続する。</p>																																																																						

個別事業名	(3) 選手強化																			
担当課等	スポーツ課 スポーツ推進係																			
事業費	実績	計(千円)	国費	県費	その他	一般財源														
	R 2	380				380														
	R 3	759				759														
趣旨等	(本来の目標・目的・対象・意図) 富山県民体育大会・富山県駅伝競走大会へ黒部市を代表して出場する選手等に対し、大会で十分な活動ができる環境をつくる。																			
実績・成果	(数値を用いて具体的に、前年度等との比較)																			
	1 富山県民体育大会 534 千円 2部(郡市対抗)成績																			
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th colspan="2">R 2</th> <th colspan="2">R 3</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2部一般</td> <td>中止</td> <td>－人</td> <td>3位</td> <td>323人</td> </tr> <tr> <td>2部中学</td> <td>中止</td> <td>－人</td> <td>10位</td> <td>218人</td> </tr> </tbody> </table>						年度	R 2		R 3		2部一般	中止	－人	3位	323人	2部中学	中止	－人	10位
年度	R 2		R 3																	
2部一般	中止	－人	3位	323人																
2部中学	中止	－人	10位	218人																
2 新規ジュニアスポーツクラブ活動補助金 225 千円 創設クラブ																				
<table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>R 2</th> <th>R 3</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>新規クラブ</td> <td>【1クラブ】 アーチェリー</td> <td>【3クラブ】 アーチェリー、ソフトボール、スキー</td> </tr> </tbody> </table>						年度	R 2	R 3	新規クラブ	【1クラブ】 アーチェリー	【3クラブ】 アーチェリー、ソフトボール、スキー									
年度	R 2	R 3																		
新規クラブ	【1クラブ】 アーチェリー	【3クラブ】 アーチェリー、ソフトボール、スキー																		
点検・評価	総合評価 B (前年評価 B)		5段階評価：A A, A, B, C, Dのいずれかを記載																	
	(上記の評価をした理由) 2年ぶりに開催された夏季県民体育大会では、2部一般において、上位の成績を収めており、一定程度の選手強化・補助の効果が現れている。																			
課題・改善	(具体的な改善内容を記載) 富山県民体育大会中学の部は、毎年、中位から下位に位置することが多いため、学校と連携し、中学全体の競技力向上が必要である。また、今後はクラブチーム等を活用した練習や指導体制の充実を図るなどの選手育成・強化策が必要である。																			
今後の方向	(継続・拡充・縮小・廃止などを判断) 令和元年度から、よりスポーツに取り組んでいきたい中学生を対象に、競技協会を中心とした新規スポーツクラブ創設を促す補助金制度を新設しており、引き続き本制度を活用し、競技力の底上げと向上を図っていく。																			

施策の分野	⑨スポーツを通じた地域振興
方針・目標	<p>・生涯を通じて豊かなスポーツライフを送ることができる生涯スポーツ社会を実現するため、全国規模の各種大会を開催し、全国トップレベルのプレー観戦の場を市民に提供し、競技力向上に寄与するとともに、スポーツに対する興味・関心を高める。</p> <p>・黒部市を訪れた選手・観客に本市の素晴らしさをPRするとともに、カーター記念黒部名水マラソン、東京2020オリンピック・パラリンピック事前キャンプ誘致(バレーボール・アーチェリー競技)や機運醸成活動の再開、及び優秀スポーツクラブへの支援をはじめ、各種スポーツを通じて地域の活性化を図る。</p>

個別事業名	(1) カーター記念黒部名水マラソン																							
担当課等	スポーツ課 フルマラソン係																							
事業費	実績	計(千円)	国費	県費	その他	一般財源																		
	R2	15,500			15,500																			
	R3	13,000			13,000																			
趣旨等	<p>(本来の目標・目的・対象・意図)</p> <p>大会を通じてランナー及び観客に黒部市の素晴らしさをPRするとともに、本市との交流の輪を広げ、大会を通じて地域の活性化を図る。また、トップレベルの選手を招くことにより、競技ランナーは更なる強化につなげてもらう。一般ランナーは、スポーツに対する興味・関心を高めてもらい、健康・体力づくりの意識付けにつなげていく。</p>																							
実績・成果	<p>(数値を用いて具体的に、前年度等との比較)</p> <p>第38回黒部名水マラソンについては、新型コロナウイルス感染症対策を講じ、当初予定の5月23日(日)を11月28日(日)と半年延期して直前まで開催を模索したが、依然として増加する感染者数とランナー及びボランティアや大会に携わる方々の安全確保が困難なことから、2大会続けての中止を決定した。申込時には参加料を徴収しない手法を取り、大会回数や西暦を入れない参加賞等を作成したことで、次回大会への再活用を図った。</p> <p>【種目】</p> <p>①マラソン(一般)、②10km(一般)、③5km(一般、高校生)、④3km(中学生、小学生)、⑤ジョギング(小学生以上)、⑥車いす(一般)</p> <p>【エントリー数(人)】</p> <table border="1" style="width:100%; text-align:center;"> <thead> <tr> <th>開催年度</th> <th>市内</th> <th>県内</th> <th>県外</th> <th>合計</th> <th>ゲスト</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>R2</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>R3</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table>						開催年度	市内	県内	県外	合計	ゲスト	R2	—	—	—	—	—	R3	—	—	—	—	—
開催年度	市内	県内	県外	合計	ゲスト																			
R2	—	—	—	—	—																			
R3	—	—	—	—	—																			
点検・評価	総合評価 AA(前年評価 AA)		5段階評価: AA, A, B, C, Dのいずれかを記載																					
	<p>(上記の評価をした理由)</p> <p>第38回大会についても前年から続く新型コロナウイルス感染症の収束が見込めないことから、2大会続けての中止を決定した。大会中止の場合も、前回大会と同様の返還方法を避けるため、参加申込時には参加料を徴収しない手法(大会開催決定後に参加料を徴収予定)を取り、大会回数や西暦を入れない参加賞等を作成することで、無駄なく第39回大会物品への再活用を行えた。</p>																							
課題・改善	<p>(具体的な改善内容を記載)</p> <p>第39回大会は3年ぶりの開催だけでなく、会場内の密を避けるため、種目別に分けた2日間の開催に加えて、引き続き新型コロナウイルス感染症対策について、十分な対策を講じた上での実施を検討する。また、第36回大会の反省点を踏まえ、参加規模に応じた駐車場や競技役員・ボランティアの確保、交通規制、給水・給食所・トイレの設置など受入態勢を整えていく必要がある。</p>																							
今後の方向	<p>(継続・拡充・縮小・廃止などを判断)</p> <p>本市最大のスポーツイベント及び地域振興イベントとして、課題を改善しながら、継続していく。</p>																							

個別事業名	(2) Vリーグ DIVISION 1 黒部大会					
担当課等	スポーツ課 スポーツ推進係					
事業費	実績	計(千円)	国費	県費	その他	一般財源
	R 2	—				
	R 3	—				
趣旨等	<p>(本来の目標・目的・対象・意図)</p> <p>KUROBEアクアフェアリーズが参戦しているVリーグDIVISION 1 黒部大会の開催により、市民に国内トップレベルのプレーを観戦する機会を提供し、スポーツに対する興味、関心を高めてもらうとともに、市民が一体となって地元クラブチームを応援できる環境をつくる。</p>					
実績・成果	(数値を用いて具体的に、前年度等との比較)					
	観客数					
		開催年度	R 2	R 3		
	開催回数	黒部大会 2回／ ホームゲーム 3回 【内訳】 総合体育センター 2回 富山県西部体育館 1回	黒部大会 2回／ ホームゲーム 6回 【内訳】 総合体育センター 2回 富山県西部体育館 2回 富山市総合体育館 1回 入善町総合体育館 1回			
	観客数	2,850 人 (黒部大会 1回無観客) 平均 1,425 人	4,200 人 平均 1,050 人			
点検・評価	総合評価 A (前年評価 AA)		5段階評価 : AA, A, B, C, Dのいずれかを記載			
	(上記の評価をした理由)					
<p>国内トップチームが所属するVリーグ DIVISION 1 の観戦に、多くの観客が本市試合会場へ訪れた。新型コロナウイルス感染症の影響を受ける難しいシーズンを送る中でも、V1リーグ残留を決定した。</p> <p>また、試合会場では新型コロナウイルス感染症対策として、通常の感染症対策に加え、選手と観客、運営スタッフを区分したゾーニングや試合間の換気、終了後の消毒の実施など感染症対策を徹底した大会運営を行った。</p>						
課題・改善	(具体的な改善内容を記載)					
<p>これまで以上にファンや地元から愛される「おらがまちのバレーボールチーム」となるため、来場者が楽しみ、そして、応援したくなる仕掛けと大会運営について創意工夫し、進めていく必要がある。</p>						
今後の方向	(継続・拡充・縮小・廃止などを判断)					
引き続き、運営面において支援を図っていく。						

個別事業名	(3) 東京 2020 オリンピック・パラリンピック事前キャンプ誘致推進事業					
担当課等	スポーツ課 スポーツ推進係					
事業費	実績	計(千円)	国費	県費	その他	一般財源
	R 2	2,000				2,000
	R 3	7,000				7,000
趣旨等	<p>(本来の目標・目的・対象・意図)</p> <p>東京 2020 オリンピック・パラリンピック大会におけるアーチェリー競技の事前キャンプ誘致を推進し、本市の認知度向上や交流人口の拡大、国際交流の機会創出及びオリンピックの理念に市民が直接的に触れる機会を提供することにより、更なる「市民ひとり1スポーツ」の推進を図ることを目的とする。</p>					
実績・成果	<p>(数値を用いて具体的に、前年度等との比較)</p> <p>新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、インドアーチェリー競技代表チームの直前合宿は中止となってしまったが、応援ポスター、のぼり旗の作成、応援動画の募集などの「インド応援事業」や、各施設でのインド応援展・催し物の開催などの「市民向け機運醸成事業」として様々な事業を実施し、形を変えた上でのホストタウン事業に取り組んだ。</p>					
点検・評価	総合評価 A (前年評価 AA)		5段階評価: AA, A, B, C, Dのいずれかを記載			
	<p>(上記の評価をした理由)</p> <p>直前合宿の中止により、当初予定していた、オリンピックと市民との直接の交流が出来なかったことは残念であったが、その中でも実施した各種応援事業、機運醸成事業については、ホストタウンとして十分その役割を果たすとともに、その活動はインド側からも高く評価された。</p>					
課題・改善	<p>(具体的な改善内容を記載)</p> <p>事前キャンプ誘致事業等、オリンピックホストタウン事業を通じ得た国際交流の機会の活用、オリンピック憲章が掲げる理念を後世に引き継ぎ、あらゆる市民がスポーツに親しむ「市民ひとり1スポーツ」の推進を図っていく必要がある。</p>					
今後の方向	<p>(継続・拡充・縮小・廃止などを判断)</p> <p>ホストタウン事業を通じて築き上げたインドとの信頼関係を深め、スポーツ等を通じた国際交流を継続するとともに、あらゆる市民がスポーツに触れることができる機会の創出に努めていく。</p>					

施策の分野	⑩健やかな子どもの育成とスポーツの充実
方針・目標	<ul style="list-style-type: none"> ・運動・スポーツ好きな子どもを育成するため、保育所、幼稚園、学校、地域、家庭、関係機関と連携し、子どもの体力向上を図る。 ・子どもたちのスポーツクラブ、運動部、スポーツ少年団及びクラブチームの活動を行うための環境整備に努めるとともに、地域のスポーツ指導者の人材活用を推進する。

個別事業名	(1) 幼児期の体力づくり事業・ちびっこ・わんぱく教室事業					
担当課等	スポーツ課 スポーツ推進係					
事業費	実績	計(千円)	国費	県費	その他	一般財源
	R 2	1,145			355	790
	R 3	860			355	505
趣旨等	<p>(本来の目標・目的・対象・意図)</p> <p>幼児期から身体を動かす楽しさを感じることで自発的な運動習慣を身に付けるとともに、小学生が多種目のスポーツを体験し、楽しむことで、将来に渡り、スポーツに親しむ環境づくりを醸成する。</p>					
実績・成果	<p>(数値を用いて具体的に、前年度等との比較)</p> <p>【幼児期の体力づくり事業】 新型コロナウイルス感染症の影響により R 3 年度は実績なし。</p> <p>【ちびっこ・わんぱくスポーツ教室】 教室 1 時間×10 回</p> <p>小学生を対象とした「ちびっこ・わんぱくスポーツ教室」では、計 26 種目（マット運動、サッカー、陸上、水泳、ソフトバレー、ビーチボール、ティーボール、バドミントン、アーチェリー、フラダンス、よさこい等）の教室を行い、322 人（前年 290 人）が参加した。</p>					
点検・評価	総合評価 A （前年評価 A ）		5 段階評価：A A, A, B, C, D のいずれかを記載			
	<p>(上記の評価をした理由)</p> <p>「ちびっこ・わんぱくスポーツ教室」では、児童 2,034 人の内 322 人：15.8%（前年 2,040 人の内 290 人：14.2%）が受講した。また、スポーツ少年団の加入率 32.6%をあわせると、計 48.4%（前年 33.9% 計 48.1%）の児童がスポーツに関わる事ができた。</p>					
課題・改善	<p>(具体的な改善内容を記載)</p> <p>引き続き、運動・スポーツに関わる幼児・児童の割合がさらに増えるよう、内容の工夫や参加しやすい環境づくりを進めていく必要がある。</p>					
今後の方向	<p>(継続・拡充・縮小・廃止などを判断)</p> <p>幼少期から様々な運動を経験し、「楽しかった」という記憶が健やかな子どもの育成につながる。また、スポーツ推進、ひいては市民ひとり 1 スポーツの実現と競技力向上の入り口となることから、内容の改善を進めつつ、今後も継続して実施する。</p>					

個別事業名	(2) KUROBE 型地域部活動事業																																								
担当課等	スポーツ課 スポーツ推進係																																								
事業費	実績	計(千円)	国費	県費	その他	一般財源																																			
	R 3	1,961	1,675			286																																			
趣旨等	<p>(本来の目標・目的・対象・意図)</p> <p>「競技力をさらに高め、各種大会で活躍したい」と感じている生徒に対する社会体育の受け皿の不足、将来的な生徒数の減少による部活動が不成立の危惧、教員の部活動指導における業務過重負担、本市の中学校のスポーツ活動に対する懸念材料が存在している。このため、中学部活動、市、市体育協会（総合型地域スポーツクラブを運営）、各競技協会が連携した新しい部活動のあり方を検討し、中学生の競技力向上とスポーツ好きな子どもの健全育成の更なる充実を図ることを目的とする。</p>																																								
実績・成果	<p>(数値を用いて具体的に、前年度等との比較)</p> <p>○R 3年度実績</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>対象校</th> <th>競技</th> <th>生徒数</th> <th>指導者数</th> <th>実施日数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">明峰中</td> <td>女子バレーボール</td> <td>17</td> <td>5</td> <td>20</td> </tr> <tr> <td>男子バスケットボール</td> <td>10</td> <td>2</td> <td>16</td> </tr> <tr> <td>女子バスケットボール</td> <td>13</td> <td>3</td> <td>18</td> </tr> <tr> <td>アーチェリー</td> <td>31</td> <td>2</td> <td>25</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">明峰中・清明中</td> <td>陸上</td> <td>58</td> <td>7</td> <td>18</td> </tr> <tr> <td>柔道</td> <td>15</td> <td>4</td> <td>13</td> </tr> <tr> <td>剣道</td> <td>29</td> <td>3</td> <td>16</td> </tr> </tbody> </table> <p>アンケートより</p> <p>地域移行の取組について、参加者のうち「良い」「やや良い」という回答の割合 生徒 93.0% 保護者 97.1% 指導者 100% 教員 100%</p>						対象校	競技	生徒数	指導者数	実施日数	明峰中	女子バレーボール	17	5	20	男子バスケットボール	10	2	16	女子バスケットボール	13	3	18	アーチェリー	31	2	25	明峰中・清明中	陸上	58	7	18	柔道	15	4	13	剣道	29	3	16
	対象校	競技	生徒数	指導者数	実施日数																																				
明峰中	女子バレーボール	17	5	20																																					
	男子バスケットボール	10	2	16																																					
	女子バスケットボール	13	3	18																																					
	アーチェリー	31	2	25																																					
明峰中・清明中	陸上	58	7	18																																					
	柔道	15	4	13																																					
	剣道	29	3	16																																					
点検・評価	<p>総合評価 A (前年評価 -) 5段階評価：A A, A, B, C, Dのいずれかを記載</p> <p>(上記の評価をした理由)</p> <p>生徒からは、「指導が充実し、もっと競技を知りたくなった」、保護者からは、「地域の方(専門の方)に指導してもらうことで、子どもの成長に繋がる」という意見が多くあった。また、指導者からは、「多様な経歴の指導者と関わり、生徒は選択肢をもって活動に取り組める」、教員からは、「休日の時間外勤務が減少したことで、心に余裕をもって授業や生徒指導に取り組める」という意見等、地域移行の取組には、生徒、保護者、指導者、教員の9割の方より「良い」、「やや良い」という肯定的な評価であった。本格実施に向けて改善すべき点多々ありますが、概ね順調にスタートできたと評価する。</p>																																								
課題・改善	<p>(具体的な改善内容を記載)</p> <p>指導時間や日数、活動に係る移動・送迎、指導者の質の向上などについて、ご意見をいただいている。生徒、保護者、指導者と情報を共有しながら、望ましい地域部活動のあり方について検討を加えていく。</p>																																								
今後の方向	<p>(継続・拡充・縮小・廃止などを判断)</p> <p>国等の財源確保に努めつつ、持続可能な活動となるよう、将来的には保護者負担も導入しながら、令和5年度に市内全ての運動部活動で休日の部活動を地域移行していく。そのために受皿となる関係団体と体制について協議を進める。</p>																																								

IV 学識経験者の意見

教育委員会事務の点検・評価に関する意見(令和3年度分)

黒部市立桜井小学校
前校長 籠浦 智彦

令和4年度教育委員会事務の点検・評価報告書(令和3年度分)を読むと、黒部市教育委員会が幼稚園や学校、関係機関等と手を取り合って「黒部市教育の方針」の実現に向けて尽力されていることがひしひしと伝わってきます。そして項目を読み進めると、令和3年度まで黒部市の子供たちの健全育成に向けて共に相談・協議・実践したことが目に浮かび、感謝の気持ちでいっぱいになりました。

その気持ちを込めて、学校や行政で勤務した経験を基に「本質を見失わない教育活動の実践に関すること」と「いじめ不登校対策」「情報教育のタブレット端末の利活用」の視点で意見を述べさせていただきます。

○ 教育の本質を見失わないための黒部市教育の方針

教員の働き方改革が叫ばれておりますが、ただ単に業務を減らせばよいというものではありません。教育の本質を見失わず、原理・原則に基づいて、潤いのある教育活動を推進していく使命が教員にはあります。

この点検・評価は「黒部市教育の方針」の1つ1つの項目ごとに、取組状況・成果と課題を明確に記してあり、学校現場等では、それを生かして「教育の本質を見失うことなく子供たちを育てること」ができます。

○ 計画がしっかりしているから実践ができる

教育現場や社会では「PDCAサイクル」が重視されております。メリットは多々ありますが、デメリットもあります。それはP(計画)が曖昧だと、D(実践)C(評価)A(改善)も曖昧で、いい加減になってしまうことです。

このP(計画)にあたるのが「黒部市の教育の方針」です。黒部市民憲章、教育大綱、学習指導要領等を基にして、黒部市の子供たちの健やかな成長に向けて、心に響く文言で具体的な行動で、何を大切にしていくかが大変分かりやすく、学校現場等が実行に移しやすいように作成されています。この計画がしっかり立ててあるからこそ、この点検・評価が次年度に生きています。

今後も黒部市教育委員会と小中学校校長会が、点検・評価と実情を基に建設的な意見を出し合い、手を取り合って方針を立ててほしいと願っております。

○ 令和3年度小中学校の重点は不登校対応

令和3年度、学校に勤務していました。校長研修会で中教育長から「不登校対策に本気で取り組むこと」の示達を受け、校長研修会では「生徒指導の充実—各学校の事案の共有及び効果のあった対応の分かち合い—」を毎回のように行いました。各学校が課題に正対し、大いに努力したと実感しました。

「いじめ不登校対策」の項目では、認知件数や長期欠席者数の推移ばかりでなく、不登校では年度末までに再登校に至った児童生徒数や欠席日数の内訳(30日～60日未満、60日から90日未満、90日以上)の掲載、いじめ問題で解消した数(解消率)等の掲載が必要であると感じます。それを数値として見えるようにすることや校長研修会で共有・協議した情報を基に取り組んだ実績を記載することにより、より一層成果と課題が明確になり、改善策も立てやすくなると思います。

また、不登校児童生徒がタブレット端末を利活用しオンライン授業に参加した場合やWebドリルに取り組んでいる場合の出席の要件について、校長会と黒部市教育委員会で協議し方針を策定することが、子供たちの「学習の保障」に加えて「つながりの保障」も、より推進されていくことにつながると思います。

○ 情報教育の運用に係る方針やマニュアルの整備

令和3年度にタブレットの利活用が本格的に開始されたにも関わらず、タブレット端末の利活用による実績・課題・改善策が記載されていません。令和3年度の黒部市教育委員会の実績として下記のことが挙げられます。

- ①運用規定やネットワーク規定等の策定の組織編成・協議開始
- ②不登校児童生徒がタブレット端末を利活用した場合の出席の要件等を記載したマニュアル等の整備に向けての校長会との協議
- ③第3学期から全小中学校でWebドリルの試行導入
- ④新型コロナウイルス感染症の濃厚接触者で出席停止となった児童生徒へのオンライン授業の充実
- ⑤コロナ禍で教育活動の制限を解消するためのタブレット端末を使用した共同学習の推進・実践

令和4年度は上記のことをはじめ情報教育がさらに充実し、子供たちが教育活動のあらゆる場面で利活用していることと察しております。ぜひ、実績等の掲載をお願いします。

黒部市教育委員会の取組は、記録のみならず記憶に残る取組です。今後のますますの発展を祈念するとともに、私自身、地区住人として黒部市教育を見守り、微力ながら貢献できるよう精進していきますので、よろしくをお願いします。

教育委員会事務の点検・評価に関する意見（令和3年度分）

善巧寺住職 雪山俊隆

令和3年度事業分の報告書を拝読させていただきました。これまでの積み重ねによる緻密な資料に敬服いたします。その上で、自分の立場から感じたことを記します。

①人間性の基礎を培う家庭教育・地域教育

コロナウィルスの感染症予防に配慮しながら事業を行ったこと、素晴らしいと思います。小学校統合、中学校統合以降、それまで各地域で行われていたお祭りや伝統文化は、当たり前にあったものから、それを知らない人が多数になることによって共有しにくい側面が生まれ、必然的に衰退していくこととなりますが、その一端を子どもたちに知ってもらうことはとても大切なことです。知識だけではなく、その心を体感するためには継続的なつながりが必要です。ぜひ年間を通して複数回にわたる活動を期待します。

人生の節目のひとつ、成人式はとても意義深いものだと思います。過去を振り返るスライド写真がとても良かったです。さらに深めていくには、これまでの形式にはあまりとらわれず、実行委員が自発的な意見をもっと出して実現していただけるような環境づくりを希望します。

②身心ともに健康で学ぶ意欲を育てる学校教育

一部やむを得ず実施できない事業がありますが、厳しい環境の中でよく取り組まれていると思います。先生方をはじめとする横の連携はとても大切なことです。濃厚に接触できない環境の中でいかに深めていくかを引き続き期待しています。

奨学資金や就学援助の周知にもつながると思いますが、各学校のホームページのユーザビリティが低い印象です。得意な職員の手作りではなく、一定のクオリティを保つために全学校を一括して刷新する事業にはできないのでしょうか。

情報教育においては活用法の充実を期待します。

英語サマーキャンプや姉妹都市交流研修など、コロナウィルスの影響で実施できなかった事業は残念でした。今後、実施できない場合の代案が検討できることを期待します。

③生きがいと身心の健康を支援する社会教育及びスポーツ

60代以下のコミュニティがとても希薄になりました。これまでの形式では当てはまりにくい状況ですので、当事者たちの声に耳を傾けて、何が求められているのかを聞いていくフェーズにあると思います。趣味嗜好の細分化がさらに進むことが予想されます。

その他、さまざまな事業において、市民のために努力されている様子が伝わってきました。私も微力ながらよりよい黒部市に繋がる一助となれるようつとめます。